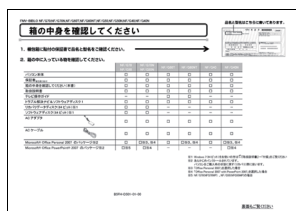
B6FJ-5741-02

LIFEBOOK

補足情報

『取扱説明書』の補足情報です。
より詳しい使い方や、細かい設定を変更する方法などを説明しています。

●パソコンに添付の紙マニュアルもあわせてご覧ください。
ただし、このほかにもマニュアルが添付されている場合があります。

□『箱の中身を確認してください』

添付の機器、マニュアルなどの一覧です。ご購入後、すぐに、添付品が揃っているか確認してください。

□『取扱説明書』

使用上のご注意、パソコンを使うための準備、基本的な取り扱い方法、ご購入時の状態に戻す方法、お問い合わせ方法などを説明しています。

□『テレビ操作ガイド』

テレビの操作のしかたについて説明しています。
（テレビチューナー搭載機種のみ）

目次

本書をお読みになる前に

本書の表記

本書の内容は 2011 年 1 月現在のものです。

■ 本文中での書き分けについて

本書には、複数の機種の内容が含まれています。機種によっては、記載されている機能が搭載されていない場合があります。また、機種により説明が異なる場合は、書き分けています。
お使いの機種に機能が搭載されているかを「仕様確認表」（→ P.5）や、富士通製品情報ページ（http://www.fmworld.net/）で確認して、機種にあった記載をお読みください。

■ 安全にお使いいただくための絵記号について

このマニュアルでは、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

⚠ 危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負うことがあり、その切迫の度合いが高いことを示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、物的損害が発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

⚠	△で示した記号は、警告・注意をうながす内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
⦸	⦸で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
❗	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ 危険ラベル／警告ラベル／注意ラベル

本製品には危険・警告・注意ラベルが貼ってあります。
これらのラベルは、絶対にはがしたり、汚したりしないでください。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

重要	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
Point	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
➡	以降の手順が分かれることを表しています。
(冊子)	冊子のマニュアルを表しています。
(ディスク)	CD や DVD などのディスクを表しています。
→	参照ページを表しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「＋」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】＋【F3】キー、【Shift】＋【↑】キーなど

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「▶」でつなげて記述しています。

例：（スタート）をクリックし、「すべてのプログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

（スタート）▶「すべてのプログラム」▶「アクセサリ」の順にクリックします。

■ 画面例およびイラストについて

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ 製品の呼び方

本文中では、製品名称を次のように略して表記することがあります。

製品名称	このマニュアルでの表記
Windows® 7 Ultimate 64 ビット 正規版	Windows または Windows 7 または Windows 7（64 ビット版）または Windows 7 Ultimate
Windows® 7 Ultimate 32 ビット 正規版	Windows または Windows 7 または Windows 7（32 ビット版）または Windows 7 Ultimate
Windows® 7 Professional 64 ビット 正規版	Windows または Windows 7 または Windows 7（64 ビット版）または Windows 7 Professional
Windows® 7 Professional 32 ビット 正規版	Windows または Windows 7 または Windows 7（32 ビット版）または Windows 7 Professional
Windows® 7 Home Premium 64 ビット 正規版	Windows または Windows 7 または Windows 7（64 ビット版）または Windows 7 Home Premium
Windows® 7 Home Premium 32 ビット 正規版	Windows または Windows 7 または Windows 7（32 ビット版）または Windows 7 Home Premium
Windows® 7 Starter 32 ビット 正規版	Windows または Windows 7 または Windows 7 Starter
Windows Vista®	Windows または Windows Vista
Windows® XP	Windows または Windows XP
Windows® Internet Explorer® 8	Internet Explorer 8 または Internet Explorer

製品名称	このマニュアルでの表記
Microsoft® Office Personal 2010	Office 2010 または Office Personal 2010
Microsoft® Office Personal 2010 2 年間ライセンス版	
Microsoft® Office Home and Business 2010	Office 2010 または Office Home and Business 2010
Microsoft® Outlook® 2010	Outlook 2010 または Microsoft Outlook 2010
Microsoft® PowerPoint® 2010	PowerPoint 2010 または PowerPoint
Windows Media® Player 12	Windows Media Player
Windows® Media Center	Windows Media Center
Intel® Wireless Display	インテル WiDi
Corel® WinDVD®	WinDVD
Fujitsu PowerDVD9 3D Player	PowerDVD
BDXL™ 対応 Blu-ray Disc ドライブ	CD/DVD ドライブ
Blu-ray Disc ドライブ	
スーパーマルチドライブ	
ExpressCard™/34 モジュール	ExpressCard
ExpressCard™/54 モジュール	

商標および著作権について

Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Media、Internet Explorer、Outlook、PowerPoint は、米国 Microsoft Corporation および／またはその関連会社の商標です。
インテル、Intel、インテル Core は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
NVIDIA、GeForce は、NVIDIA Corporation の登録商標です。
ATI™、ATI Mobility Radeon™、ATI Radeon™、ATI HyperMemory™、ATI Catalyst™ は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または、登録商標です。
AMD、Radeon は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または、登録商標です。
Corel、Corel のロゴ、WinDVD は Corel Corporation およびその関連会社の商標または登録商標です。
ExpressCard™、ExpressCard™ ロゴは、Personal Computer Memory Card International Association（PCMCIA）の商標で、富士通へライセンスされています。
Manufactured under license from DTS Licensing Limited. DTS and the Symbol are registered trademarks, & DTS Surround Sensation | UltraPC and the DTS logos are trademark of DTS, Inc. Product includes software. © DTS, Inc. All Rights Reserved.

Manufactured under license from DTS Licensing Limited. DTS and the Symbol are registered trademarks, & DTS Boost and the DTS logos are trademark of DTS, Inc. Product includes software. © DTS, Inc. All Rights Reserved.

HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。
Bluetooth® は、Bluetooth SIG の商標であり、弊社へライセンスされています。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

Copyright FUJITSU LIMITED 2011

仕様確認表

このマニュアルの記載の中で、お使いの機種によってご確認いただく内容が異なる部分があります。次の表や、『取扱説明書』の「仕様一覧」をご覧になり、該当箇所をご確認ください。LH シリーズ（→ P.7）、SH シリーズ（→ P.7）、PH シリーズ（→ P.9）、MH シリーズ（→ P.9）

	シリーズ名	NH シリーズ	AH シリーズ						
	品名	NH77/CD	AH77/C AH77/CN	AH58/CM AH58/CNM	AH56/C AH56/CN	AH55/CNT AH52/CT	AH53/C AH53/CN	AH42/C	AH30/CN
フラットポイント	タイプ 1	●	●	●	●	–	●［注］	●	–
	タイプ 2	–	–	–	–	●		–	●
スクロールパッド		–	●	●	●	●	●	–	–
指紋センサー		–	●	–	–	–	–	–	–
グラフィック・アクセラレーター	タイプ 1	●	●	●	●	●	●	●	●
	タイプ 2	–	–	–	–	–	–	–	–
	タイプ 3	–	–	–	–	–	–	–	–
	タイプ 4	–	–	–	–	–	–	–	–
デジタルディスプレイコネクタ		–	–	–	–	–	–	–	–
インテル WiDi		–	●	–	●	–	–	–	–
DTS		●	●	●	●	●	●	–	–
ジェスチャーコントロール		●	●	●	●	●	●	–	–
Sense YOU Technology		●	●	●	●	●	●	●	–
無線 LAN	タイプ 1	–	–	–	–	–	●	●	●
	タイプ 2	●	–	●	–	●	–	–	–
	タイプ 3	–	●	–	●	–	–	–	–
	タイプ 4	–	–	–	–	–	–	–	–
Bluetooth ワイヤレステクノロジー	タイプ 1	–	–	–	–	–	–	–	–
	タイプ 2	–	–	–	–	–	–	–	–
	タイプ 3	–	–	–	–	–	–	–	–

●：搭載、▲：搭載（カスタムメイドモデルで機能を選択した場合のみ）、ー：非搭載

シリーズ名		NH シリーズ	AH シリーズ						
品名		NH77/CD	AH77/C AH77/CN	AH58/CM AH58/CNM	AH56/C AH56/CN	AH55/CNT AH52/CT	AH53/C AH53/CN	AH42/C	AH30/CN
ワイヤレススイッチ		●	●	●	●	●	●	－	●
省電力ユーティリティ		●	●	－	－	－	－	●	－
ECO Sleep		－	●	●	●	－	－	－	－
テレビチューナー		●	－	●	－	●	－	－	－
テレビソフトウェア	DigitalTVbox	●	－	●	－	－	－	－	－
	Windows Media Center	－	－	－	－	●	－	－	－
HDD 加速度センサー		－	－	－	－	－	－	－	－
電源オフ USB 充電		●	●	●	●	－	－	－	－
HDMI 出力端子		●	●	●	●	●	●	●	●
eSATA		●	－	－	－	－	－	－	－

●：搭載、▲：搭載（カスタムメイドモデルは機能を選択した場合に搭載）、－：非搭載

注：お使いのパソコンの型名によりタイプが異なります。パソコンの型名は、保証書で確認することができます。

・型名の末尾が「2」の場合：タイプ 1

・型名の末尾が「2」以外の場合：タイプ 2

シリーズ名		LH シリーズ	SH シリーズ			
品名		LH52/C	SH76/C	SH76/CN	SH53/C	SH53/CN
フラットポイント	タイプ 1	●	●	●	●	●
	タイプ 2	−	−	−	−	−
スクロールパッド		−	●	●	●	●
指紋センサー		−	●	●	●	●
グラフィック・アクセラレーター	タイプ 1	−	●	●	●	●
	タイプ 2	●	−	−	−	−
	タイプ 3	−	−	−	−	−
	タイプ 4	−	−	−	−	−
デジタルディスプレイコネクタ		−	−	−	−	−
インテル WiDi		−	●	●	−	−
DTS		−	●	●	●	●
ジェスチャーコントロール		−	−	−	−	−
Sense YOU Technology		●	●	●	●	●
無線 LAN	タイプ 1	●	−	−	−	−
	タイプ 2	−	−	−	−	−
	タイプ 3	−	●	●	−	−
	タイプ 4	−	−	−	●	●
Bluetooth ワイヤレステクノロジー	タイプ 1	−	−	−	−	−
	タイプ 2	−	−	▲	−	−
	タイプ 3	−	−	−	−	−
ワイヤレススイッチ		−	●	●	●	●
省電力ユーティリティ		●	●	●	●	●
ECO Sleep		−	●	●	−	−
テレビチューナー		−	−	−	−	−

●：搭載、▲：搭載（カスタムメイドモデルで機能を選択した場合のみ）、−：非搭載

シリーズ名		LH シリーズ	SH シリーズ			
品名		LH52/C	SH76/C	SH76/CN	SH53/C	SH53/CN
テレビソフトウェア	DigitalTVbox	−	−	−	−	−
	Windows Media Center	−	−	−	−	−
HDD 加速度センサー		−	●	●	●	●
電源オフ USB 充電		−	●	●	●	●
HDMI 出力端子		−	●	●	●	●
eSATA		−	−	−	−	−

●：搭載、▲：搭載（カスタムメイドモデルで機能を選択した場合のみ）、−：非搭載

シリーズ名		PH シリーズ				MH シリーズ
品名		PH75/CN	PH74/C	PH74/CN	PH50/C	MH30/C
フラットポイント	タイプ 1	−	●	●	●	●
	タイプ 2	●	−	−	−	−
スクロールパッド		−	●	●	−	−
指紋センサー		●	−	−	−	−
グラフィック・アクセラレーター	タイプ 1	●	●	●	−	−
	タイプ 2	−	−	−	−	−
	タイプ 3	−	−	−	●	−
	タイプ 4	−	−	−	−	●
デジタルディスプレイコネクタ		▲［注］	−	−	−	−
インテル WiDi		−	●	●	−	−
DTS		−	−	−	−	−
ジェスチャーコントロール		−	−	−	−	−
Sense YOU Technology		●	●	●	−	−
無線 LAN	タイプ 1	−	−	−	●	−
	タイプ 2	−	−	−	−	−
	タイプ 3	●	●	●	−	−
	タイプ 4	−	−	−	−	●
Bluetooth ワイヤレステクノロジー	タイプ 1	▲	−	−	−	−
	タイプ 2	−	−	−	−	−
	タイプ 3	−	−	−	●	−
ワイヤレススイッチ		●	●	●	●	−
省電力ユーティリティ		●	●	●	●	●
ECO Sleep		−	●	●	−	−
テレビチューナー		−	−	−	−	−

●：搭載、▲：搭載（カスタムメイドモデルで機能を選択した場合のみ）、−：非搭載

注：カスタムメイドでポートリプリケータを選択した場合のみ

シリーズ名		PH シリーズ				MH シリーズ
品名		PH75/CN	PH74/C	PH74/CN	PH50/C	MH30/C
テレビソフトウェア	DigitalTVbox	−	−	−	−	−
	Windows Media Center	−	−	−	−	−
HDD 加速度センサー		●	●	●	−	−
電源オフ USB 充電		−	●	●	−	−
HDMI 出力端子		●	●	●	●	−
eSATA		▲［注］	−	−	−	−

●：搭載、▲：搭載（カスタムメイドモデルで機能を選択した場合のみ）、−：非搭載

注：カスタムメイドでポートリプリケータを選択した場合のみ

1. フラットポイント

フラットポイントの使い方

フラットポイントは、指先の操作でマウスポインターを動かすことのできる便利なポインティングデバイスです。指紋センサーを使って画面をスクロールすることもできます（指紋センサー搭載機種のみ）（→ P.16）。
フラットポイントの基本操作については、『取扱説明書』－「取り扱い」－「フラットポイント」を ご覧ください。

お使いの機種によって使い方や設定方法が異なります。
なお、お使いの機種に搭載されているフラットポイントの種類は、「仕様確認表」（→ P.5）でご確認いただけます。

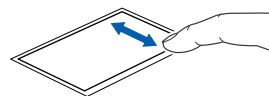
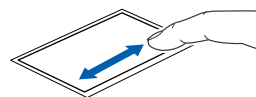
フラットポイントがタイプ 1 の場合（→ P.11）
フラットポイントがタイプ 2 の場合（→ P.14）

フラットポイントがタイプ 1 の場合

「コントロールパネル」の「マウス」で設定することで、フラットポイントをさらに便利に使えるようになります。

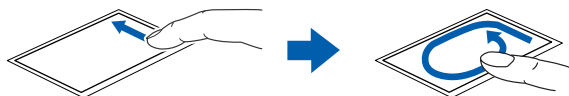
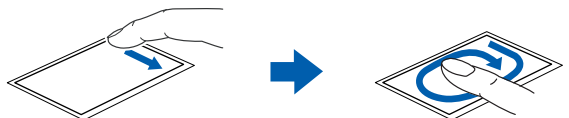
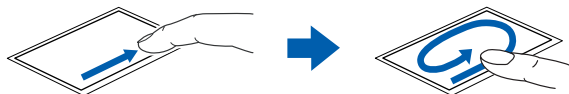
■ 1 本指でのスクロール

フラットポイントの操作面の右端や下端をなぞると画面やウィンドウのスクロールが行えます。

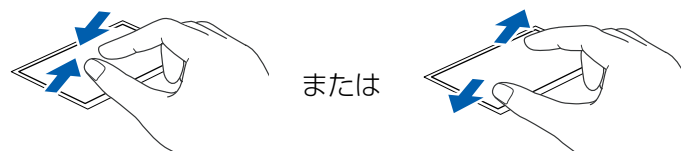
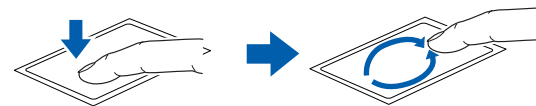
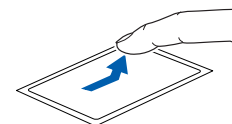
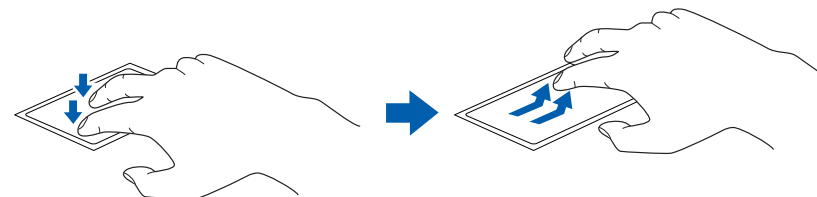
- 上下にスクロールしたい場合
  フラットポイントの操作面の右端を上下になぞります。

- 左右にスクロールしたい場合
  フラットポイントの操作面の下端を左右になぞります。

■ ジェスチャー機能

フラットポイントの操作面で、次のような操作を行うことができます。

● ChiralMotion（カイラルモーション）スクロール
1 本指でのスクロールをした後に、そのままフラットポイントの操作面から指を離さずに、フラットポイント内を時計回りや反時計回りになぞると、指を動かしている間、ウィンドウ内のスクロールが続きます。

上方向にスクロールし続ける場合

下方向にスクロールし続ける場合

右方向にスクロールし続ける場合

左方向にスクロールし続ける場合

● つまみズーム
フラットポイントの操作面で、2 本の指でつまんだりひらいたりする動作をします。つまむ操作をすると画像やウィンドウ内の画面が縮小表示され、ひらく操作をすると拡大表示されます。

または

● 回転
フラットポイントの操作面の左端に指を置き、そこから時計回りまたは反時計回りに円を描くようになぞります。
なぞった方向に画像を 90 度単位で回転させることができます。

● Momentum（モーメンタム）
フラットポイントの操作面をすばやくなぞると、しばらくの間、なぞった方向にポインターが動きます。

● 2 本指で弾く
フラットポイントの操作面に 2 本の指を置き、すばやく横にはらいます。右にはらうと、次の画像を表示したり、Internet Explorer などの「進む」と同様の動きをしたりします。左にはらうと、前の画像を表示したり、Internet Explorer などの「戻る」と同様の動きをしたりします。うまく反応しない場合は、2 本の指を少し離して操作してください。

■ 各機能を使えるように設定する

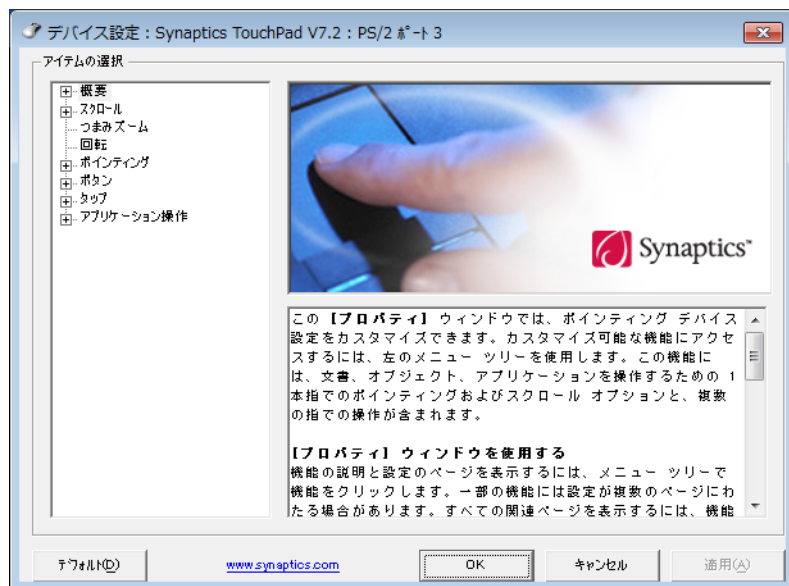
1 本指でのスクロール機能やジェスチャー機能は、「コントロールパネル」の「マウス」で設定します

- ソフトウェアによっては、1 本指でのスクロール機能やジェスチャー機能が使えない場合があります。

1 **(スタート)▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」の順にクリックし、「デバイスとプリンター」の「マウス」をクリックします。**

「マウスのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 **「マウスのプロパティ」ウィンドウの「デバイス設定」タブ▶「設定」をクリックします。**

「デバイス設定」ウィンドウが開きます。

各設定項目に「ビデオを見る」がある場合は、クリックすると、各機能の操作方法を動画で見ることができます。

●1 本指でのスクロール

「デバイス設定」ウィンドウ左の「スクロール」▶「1 本指でのスクロール」をクリックし、「垂直スクロールを使用する」や「水平スクロールを使用する」の □ を ☑ にして「適用」をクリックします。

●ChiralMotion(カイラルモーション)スクロール

「デバイス設定」ウィンドウ左の「スクロール」▶「1 本指でのスクロール」をクリックし、「ChiralMotion スクロール」の □ を ☑ にして「適用」をクリックします。

●つまみズーム

「デバイス設定」ウィンドウ左の「つまみズーム」をクリックし、「つまみズームを有効にする」の □ を ☑ にして「適用」をクリックします。

●回転

「デバイス設定」ウィンドウ左の「回転」をクリックし、「ChiralRotate を有効にする」の □ を ☑ にして「適用」をクリックします。

●Momentum(モーメンタム)

「デバイス設定」ウィンドウ左の「ポインティング」▶「Momentum(モーメンタム)」をクリックし、「Momentum(モーメンタム)を使用する」の □ を ☑ にして「適用」をクリックします。

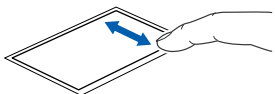
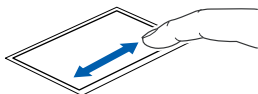
●2 本指で弾く

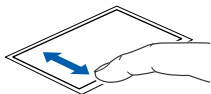
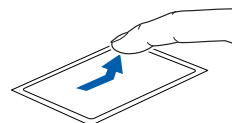
「デバイス設定」ウィンドウ左の「アプリケーション操作」▶「2 本指で弾く」をクリックし、「2 本指で弾く行為を有効にする」の □ を ☑ にして「適用」をクリックします。

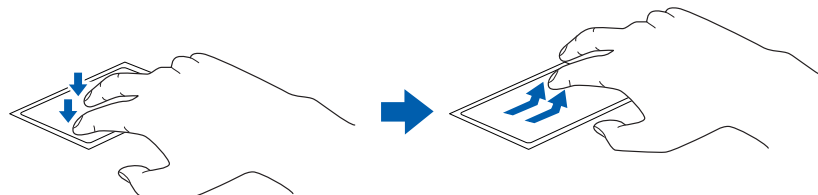
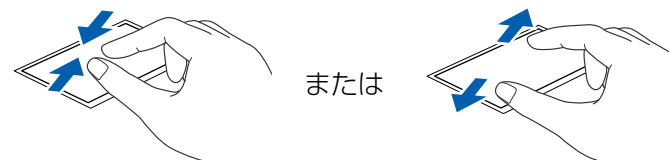
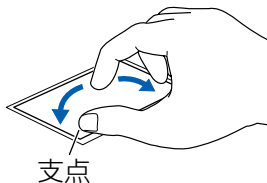
フラットポイントがタイプ 2 の場合

「コントロールパネル」の「マウス」で設定することで、フラットポイントをさらに便利に使えるようになります。

■ ジェスチャー機能

● 上下にスクロール
フラットポイントの操作面の右端を上下になぞります。

● 左右にスクロール
フラットポイントの操作面の下端を左右になぞります。

● サークルスクロール
フラットポイントの操作面を時計回りや反時計回りになぞることで、画面をスクロールします。

● ズーム
フラットポイントの操作面の左端に置いた指を上下に動かすことで、ブラウザーの表示の「拡大」「縮小」を行います。

● イナーシャルモーション
フラットポイントの操作面をすばやくなぞると、しばらくの間、なぞった方向にマウスポインターが動きます。

■ マルチタッチジェスチャー

● フリックナビゲーション
フラットポイントの操作面に 2 本の指を置き、すばやく横にはらいます。右にはらうと、次の画像を表示したり、Internet Explorer などの「進む」と同様の動きをしたりします。左にはらうと、前の画像を表示したり、Internet Explorer などの「戻る」と同様の動きをしたりします。

● ピンチズーム
フラットポイントの操作面で、2 本の指でつまんだりひらいたりする動作をします。つまむ操作をすると画像やウィンドウ内の画面が縮小表示され、ひらく操作をすると拡大表示されます。

● ピボットローテーション
　フラットポイントの操作面に 2 本の指を置き、2 本の指のうち 1 本を支点にして、時計回り、または反時計回りに弧を描くようになぞると、なぞった方向に画像などを 90 度単位で回転させることができます。

■ 各機能を使えるように設定する

ジェスチャー機能、およびマルチタッチジェスチャー機能は、「コントロールパネル」の「マウス」で設定します。

- ソフトウェアによっては、ジェスチャー機能、およびマルチタッチジェスチャー機能が使えない場合があります。

□ジェスチャー機能を設定する

1 (スタート)▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」の順にクリックし、「デバイスとプリンター」の「マウス」をクリックします。

「マウスのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 「マウスのプロパティ」ウィンドウで「ジェスチャー」タブをクリックします。

（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

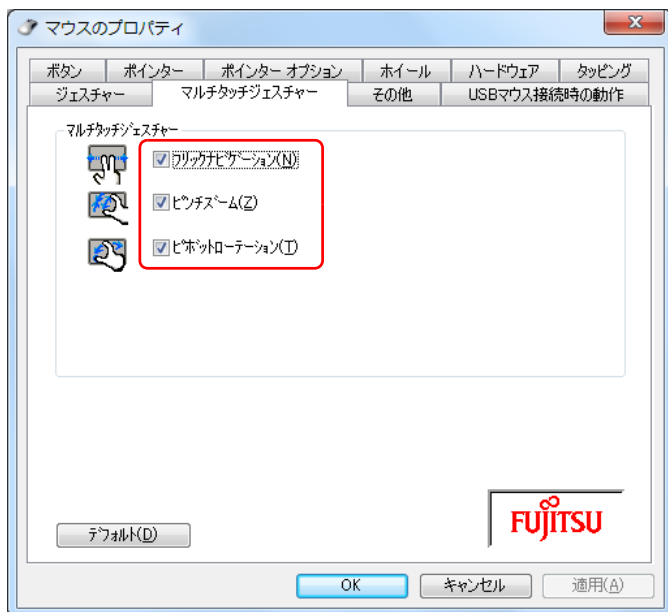
3 使いたいジェスチャー機能の左側にある □ をクリックして ☑ にし、「適用」をクリックします。

上下左右にスクロールする機能は、「スクロール機能を使う」にチェックを入れ、サークルスクロールやズーム機能は、さらに「サークルスクロール」、「ズーム」にもチェックを入れてください。

□マルチタッチジェスチャー機能を設定する

1 **（スタート）▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」の順にクリックし、「デバイスとプリンター」の「マウス」をクリックします。**

「マウスのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 **「マウスのプロパティ」ウィンドウで「マルチタッチジェスチャー」タブをクリックします。**

3 **使いたいマルチタッチジェスチャー機能の左側にある☐をクリックして☑にし、「適用」をクリックします。**

指紋センサーを使ったスクロール

指紋センサー搭載機種のみ

指紋センサーを使って、画面をスクロールすることができます。

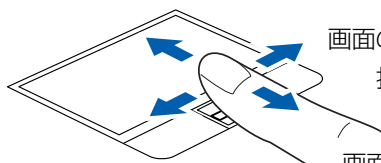
Point

- お使いになるソフトウェアによっては、指紋センサーを使った画面のスクロールができない場合があります。
- 次の機種は、指紋センサーを使ったスクロールを行うと、指紋センサーの LED が青色に点灯します。
  ・LIFEBOOK AH77 シリーズ
  ・LIFEBOOK SH76 シリーズ
- 指紋センサーを使ったユーザー切り替え機能を有効にすると、指紋センサーのスクロール機能が無効になります。
  指紋センサーを使ったユーザー切り替え機能については、『取扱説明書』－「取り扱い」－「指紋センサー」をご覧ください。

■ スクロールする

1　スクロールしたい領域（ウィンドウの中）をクリックします。

2　指紋センサー上で指先をスライドします。

ウィンドウの中の表示が指をスライドさせた方向にスクロールします。
続けて画面をスクロールするには、いったん指を離してから繰り返し指をスライドします。画面を大きくスクロールさせる場合には、指をスライドした後、センサーの上にしばらく止めておくとスクロールが自動的に繰り返されます。

（イラストは機種や状況により異なります）

■ スクロールの速さを調節する

指紋センサーを使ったスクロールの速さは、次の手順で変更することができます。

1　（スタート）▶「コントロールパネル」の順にクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2　画面右上の「カテゴリ」をクリックし、「大きいアイコン」をクリックします。

（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

「すべてのコントロールパネル項目」ウィンドウが表示されます。

3　TruePrint をクリックします。

「TruePrint」ウィンドウが表示されます。

4 「ナビゲーション設定」タブの「スクロールモード」の が になっていることを確認します。

「ナビゲーション設定」タブの「使用しない」を にすると、指紋センサーを使ったスクロールができなくなります。

5 「スクロール速度」の を左右にドラッグして、スクロール速度を調節します。

6 「OK」をクリックします。

「TruePrint」ウィンドウが閉じて、スクロール速度の設定が変更されます。

7 「その他のオプション」ウィンドウの をクリックします。

その他の設定

■ 左きき用に設定する

(スタート)▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」の「マウス」をクリックすると表示される「マウスのプロパティ」画面の、「ボタン」タブの設定画面から変更することができます。

■ ポインターのデザインを変える

(スタート)▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」の「マウス」をクリックすると表示される「マウスのプロパティ」画面の、「ポインター」タブの設定画面から変更することができます。

■ マウスポインターの速度を変える

(スタート)▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」の「マウス」をクリックすると表示される「マウスのプロパティ」画面の、「ポインターオプション」タブの設定画面から変更することができます。

■ ホイールのスクロールの量を変える

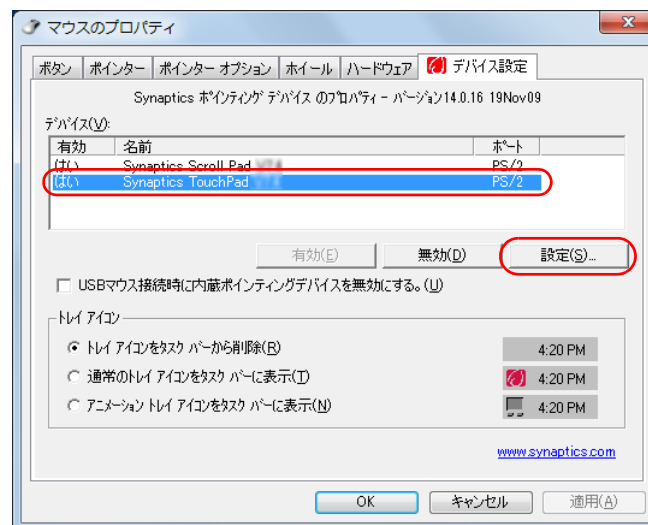
(スタート)▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」の「マウス」をクリックすると表示される「マウスのプロパティ」画面の、「ホイール」タブの設定画面から変更することができます。

■ フラットポイントのタッチの感度を変更する

□フラットポイントがタイプ 1 の場合

1 **(スタート)▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」の「マウス」をクリックします。**

「マウスのプロパティ」画面が表示されます。

2 **「デバイス設定」タブの「Synaptics TouchPad」を選択し、「設定」をクリックします。**

(画面は機種や状況により異なります)

「マウスのプロパティ」画面が表示されます。

3 **「ポインティング」の左にある「+」▶「感度」の左にある「+」の順にダブルクリックします。**

4 **「タッチ感度」をクリックして、タッチ感度の設定を変更します。**

スライダーを「軽く」側に動かすとタッチ感度が上がり、「重く」側に動かすとタッチ感度が下がります。

5 **「OK」をクリックします。**

□フラットポイントがタイプ 2 の場合

1 （スタート）▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」の「マウス」をクリックします。

「マウスのプロパティ」画面が表示されます。

2 「タッピング」タブの「タッチ感度の設定」をクリックし、スライダーを動かして設定を変更します。

●LIFEBOOK AH55 シリーズ、AH53 シリーズ、AH52 シリーズの場合

スライダーを「大」側に動かすとタッチ感度が上がり、「小」側に動かすとタッチ感度が下がります。

●その他の機種の場合

スライダーを「高く」側に動かすとタッチ感度が上がり、「低く」側に動かすとタッチ感度が下がります。

3 「OK」をクリックします。

■ シングルクリックとダブルクリックの設定を変更する

（スタート）▶「コントロールパネル」▶「デスクトップのカスタマイズ」▶「フォルダーオプション」の順にクリックし、「全般」タブの「クリック方法」で設定を変更することができます。

フラットポイントの有効／無効の切り替え

ここでは、USB マウスを接続したときのフラットポイント、およびスクロールパッド(スクロールパッド搭載機種のみ)の動作を設定する方法について説明しています。

Point

- ご購入時の状態では、パソコンに USB マウスを接続しても、USB マウスとフラットポイント、およびスクロールパッド（スクロールパッド搭載機種のみ）とを同時に使用することができます。

フラットポイントの有効／無効を切り替える

パソコンに USB マウスを接続したときのフラットポイントの動作を変更したい場合は、次のように設定してください。

- ご購入時の状態では、【Fn】＋【F4】キーを押して、フラットポイントの有効／無効を切り替えることもできます。
  キーを押すたびに、フラットポイントの有効と無効が切り替わります。有効の場合は「Internal pointing device:Enable」、無効の場合は「Internal pointing device:Disable」と表示されます。
- フラットポイントを無効にする場合は、必ず USB マウスを接続してください。

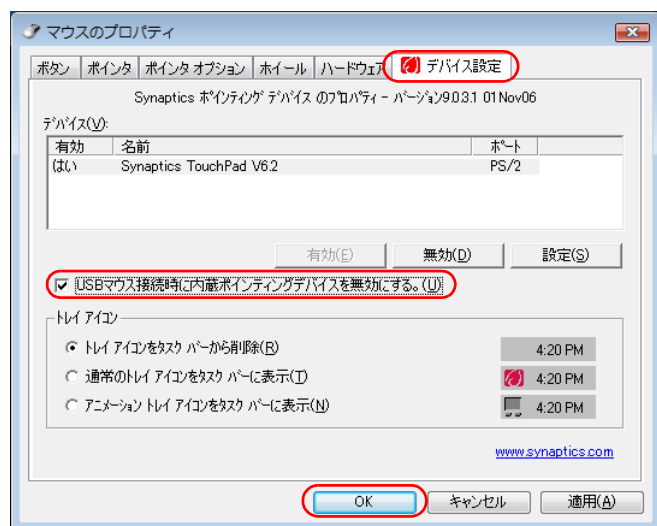
1 (スタート)▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」▶「デバイスとプリンター」の「マウス」の順にクリックします。

「マウスのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 次の操作を行ってください。

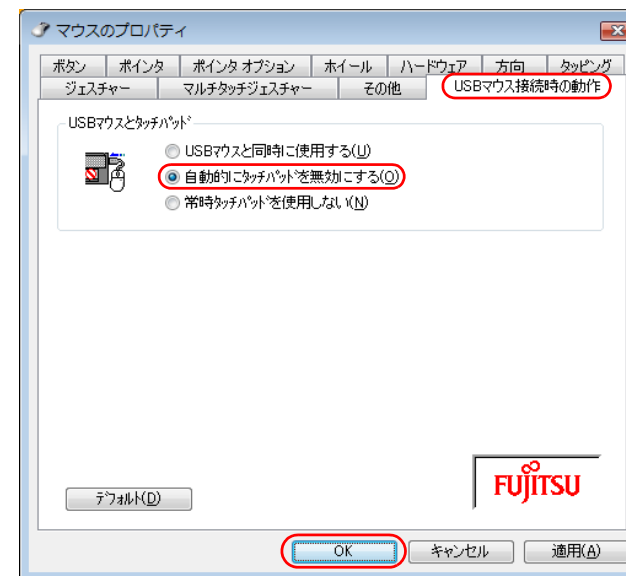
●フラットポイントがタイプ 1 の場合

「デバイス設定」タブをクリックします。

USB マウスを接続したときにフラットポイントを無効にする場合は、「USB マウス接続時に内蔵ポインティングデバイスを無効にする。」をクリックして ☑ にし、「OK」をクリックします。

（画面は機種や状況により異なります）

●フラットポイントがタイプ 2 の場合

「USB マウス接続時の動作」タブをクリックします。

「自動的にタッチパッドを無効にする」をクリックして ◉ にし、「OK」をクリックします。

（画面は機種や状況により異なります）

スクロールパッドの有効／無効を切り替える（スクロールパッド搭載機種のみ）

1 （スタート）▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」▶「デバイスとプリンター」の「マウス」の順にクリックします。

2 次の操作を行ってください。

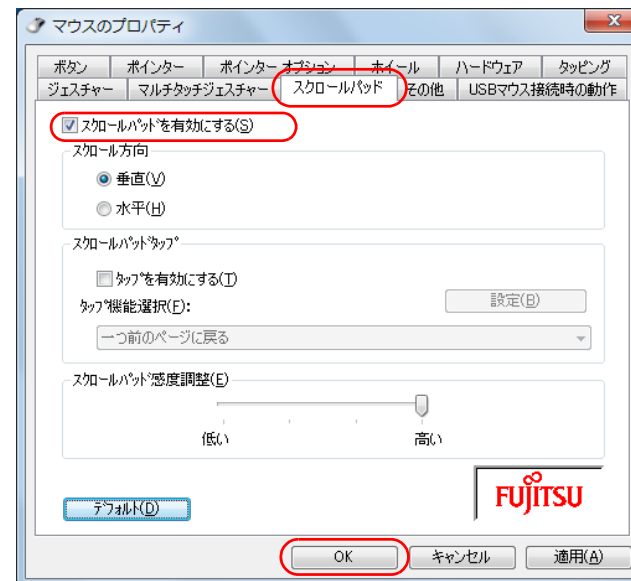
●フラットポイントがタイプ 1 の場合

「デバイス設定」タブをクリックします。
「Synaptics Scroll Pad」を選択し、「無効」をクリックします。
スクロールパッドを有効にする場合は、「有効」をクリックします。

Point

- 「デバイス設定」タブで「Synaptics Scroll Pad」を選択し、「設定」で設定を変更することで、スクロールパッドをさらに便利に使えるようになります。

●フラットポイントがタイプ 2 の場合

「スクロールパッド」タブをクリックします。
「スクロールパッドを有効にする」の ☑ をクリックして ☐ にし、「OK」をクリックします。
スクロールパッドを有効にする場合は、☑ にし、「OK」をクリックします。

（画面は機種や状況により異なります）

2. ディスプレイ

解像度と発色数についての注意

パソコンの画面は、パソコン本体の液晶ディスプレイの他に、次のディスプレイやテレビにも表示することができます。

・パソコン本体に接続した外部ディスプレイ
・パソコン本体にデジタル接続した外部ディスプレイ（ポートリプリケータ添付機種のみ）
・パソコン本体に接続したデジタルテレビ（HDMI 出力端子搭載機種のみ）
・ワイヤレス接続した外部ディスプレイ（インテル WiDi 対応機種のみ）

ディスプレイにパソコンの画面を表示するときは、次の点に注意してください。なお、インテル WiDi をお使いになる場合は、「お使いになるうえでの注意」（→ P.49）も、あわせてご覧ください。

- ソフトウェアによっては、解像度および発色数の設定により、正常に動作しないことがあります。ソフトウェアの動作環境を確認し、解像度および発色数を変更してください。
- 外部ディスプレイやデジタルテレビで表示できる解像度は、ディスプレイによって異なります。外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアルでご確認ください。
- プラグアンドプレイに対応している外部ディスプレイやデジタルテレビの場合、最大解像度は、液晶ディスプレイまたは接続したディスプレイの、どちらかの最大解像度の小さい方に設定されます。
- 同時表示を選択した場合、外部ディスプレイやデジタルテレビの画面は、液晶ディスプレイの画面と同一の解像度になります。
- 解像度を切り替えるときなどに、一時的に表示画面が乱れることがありますが、故障ではありません。
- 同時表示時に、外部ディスプレイやデジタルテレビの画面が正しく表示されないことがあります。
- 解像度と発色数は、「外部ディスプレイやデジタルテレビに表示できる解像度と発色数」（→ P.28）の表の組み合わせ以外には設定しないでください。
- 画面の解像度や発色数、およびリフレッシュレートを変更するときは、起動中のソフトウェアや常駐しているプログラムを終了させてください。また、変更後は必ずパソコンを再起動してください。

HDMI 出力端子が搭載されている機種は、次の点に注意してください。

- パソコンの液晶ディスプレイ、外部ディスプレイ、およびデジタルテレビなどの 3 つのディスプレイでの同時表示はできません。
- HDMI 出力端子で出力した場合、出力先のデジタルテレビでは画面の端が一部欠けることがあります。このような場合は、外部ディスプレイやデジタルテレビ側で設定を「ドットバイドット表示」等に変更してください。
  詳しくは、お使いのデジタルテレビや外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

ポートリプリケータをお使いの場合、パソコンの液晶ディスプレイ、外部ディスプレイ、およびデジタル接続した外部ディスプレイなどの 3 つのディスプレイでの同時表示はできません。

- ポートリプリケータについて
  ポートリプリケータは、LIFEBOOK PH75 シリーズのみ取り付けが可能です。

液晶ディスプレイに表示できる解像度と発色数

重要

- デジタルディスプレイコネクタ、およびポートリプリケータについて
  デジタルディスプレイコネクタは、ポートリプリケータに搭載されています。
  このコネクタは、LIFEBOOK PH75 シリーズでパソコン本体にポートリプリケータを取り付けた場合のみお使いになれます。

液晶ディスプレイに表示できる解像度と発色数は、次のとおりです。

■ NH シリーズの場合

解像度（ピクセル）	発色数 [注 1] [注 2]	
	High Color（16 ビット）	True Color（32 ビット）
800 × 600	○	○
1024 × 768	○	○
1280 × 1024	○	○
1920 × 1080	○	●

注 1：○は表示可能。●はご購入時の設定です。
注 2：High Color … 約 6 万 5 千色
True Color … 約 1677 万色(擬似的に色を表示するディザリング機能を利用)

■ AH シリーズ、LH シリーズ、SH シリーズ、PH50 シリーズの場合

解像度（ピクセル）	発色数 [注 1] [注 2]	
	High Color（16 ビット）	True Color（32 ビット）
800 × 600	○	○
1024 × 768	○	○
1366 × 768	○	●

注 1：○は表示可能。●はご購入時の設定です。
注 2：High Color … 約 6 万 5 千色
True Color … 約 1677 万色(擬似的に色を表示するディザリング機能を利用)

■ PH75 シリーズ、 PH74 シリーズの場合

解像度（ピクセル）	発色数 [注 1] [注 2]	
	High Color（16 ビット）	True Color（32 ビット）
800 × 600	○	○
1024 × 768	○	○
1280 × 800	○	●

注 1：○は表示可能。●はご購入時の設定です。
注 2：High Color … 約 6 万 5 千色
True Color … 約 1677 万色(擬似的に色を表示するディザリング機能を利用)

■ MH シリーズの場合

解像度（ピクセル）	発色数 [注 1] [注 2]	
	High Color（16 ビット）	True Color（32 ビット）
800 × 600	○	○
1024 × 600	○	●

注 1：○は表示可能。●はご購入時の設定です。

注 2：High Color … 約 6 万 5 千色
True Color … 約 1677 万色（擬似的に色を表示するディザリング機能を利用）

外部ディスプレイやデジタルテレビの接続

外部ディスプレイやデジタルテレビを接続するとできること

パソコン本体に外部ディスプレイやデジタルテレビを接続することで、次のことができます。

- 表示するディスプレイを切り替える。
- 2 つのディスプレイに同時に表示する。
- 2 つのディスプレイで 1 つのデスクトップを表示する（マルチモニター機能）。
- 接続したデジタルテレビやディスプレイで音声を出力する（HDMI 出力端子搭載機種のみ）。

ここでは、外部ディスプレイやデジタルテレビを接続する手順について説明しています。なお、インテル WiDi（搭載機種のみ）をお使いになる場合は、「インテル WiDi を使う（搭載機種のみ）」（→ P.48）をご覧ください。

重要

- Blu-ray Disc の映像について（BDXL™ 対応 Blu-ray Disc ドライブまたは Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ）
  Blu-ray Discの映像は、外部ディスプレイコネクタに接続した外部ディスプレイには表示させることはできません。
- HDMI出力端子に接続したデジタルテレビやディスプレイで音声を出力するには、設定が必要な場合があります（→ P.52）。
- OSがWindows 7 Starterの方は、マルチモニター機能が使用できません。お使いのパソコンのプレインストール OS は、『取扱説明書』の「仕様一覧」をご確認ください。

必要なものを用意する

- 外部ディスプレイやデジタルテレビ
  外部ディスプレイやデジタルテレビによって接続するコネクタや接続方法が異なります。それぞれのコネクタに対応したディスプレイは次のとおりです。なお、接続するときは、必ず外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアルもご覧ください。
  ・外部ディスプレイコネクタ
  CRT ディスプレイや液晶ディスプレイをアナログ接続することができます。
  ・デジタルディスプレイコネクタ（ポートリプリケータをお使いの場合のみ）
  液晶ディスプレイをデジタル接続することができます。
  ・HDMI 出力端子（HDMI 出力端子搭載機種のみ）
  デジタルテレビや液晶ディスプレイで HDMI 対応のものを接続することができます。
- ケーブル
  外部ディスプレイやデジタルテレビとパソコンを接続するケーブルです。
  ・外部ディスプレイコネクタとの接続：ディスプレイケーブル
  ・デジタルディスプレイコネクタとの接続：DVI-D ケーブル（ポートリプリケータをお使いの場合のみ）
  ・HDMI 出力端子との接続：HDMI ケーブル（HDMI 出力端子搭載機種のみ）
- 外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアル
  外部ディスプレイやデジタルテレビにより接続方法が異なります。必ず外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアルもご覧ください。

外部ディスプレイやデジタルテレビを接続する

デジタルテレビの接続は、HDMI 出力端子搭載機種のみ
外部ディスプレイのデジタル接続は、ポートリプリケータをお使いの場合のみ

警告

- 外部ディスプレイやデジタルテレビの接続／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。感電の原因となります。

1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します。

2 パソコン本体にケーブルを接続します。

次のケーブルで接続します。
・外部ディスプレイコネクタとの接続：ディスプレイケーブル
・デジタルディスプレイコネクタ（ポートリプリケータをお使いの場合のみ）との接続：DVI-D ケーブル
・HDMI 出力端子（HDMI 出力端子搭載機種のみ）との接続：HDMI ケーブル
ケーブルを接続する場所については、『取扱説明書』－「各部の名称と働き」をご覧ください。

3 外部ディスプレイやデジタルテレビにケーブルのもう一方のコネクタを接続します。

接続方法は、外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアルをご覧ください。

4 外部ディスプレイやデジタルテレビの電源ケーブルを接続して、電源を入れます。

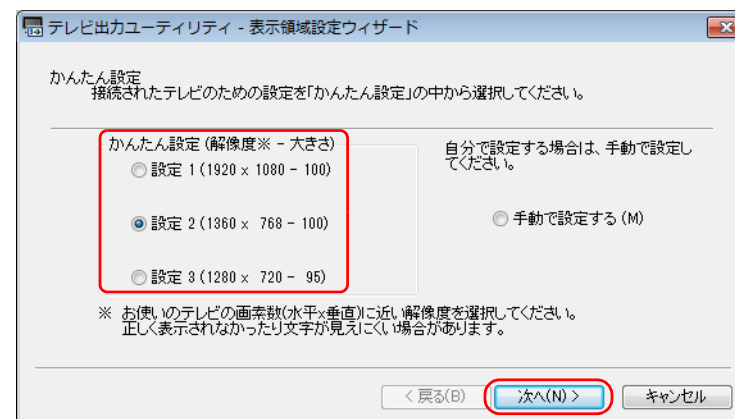
5 パソコン本体に AC アダプタを取り付け、電源を入れます。

必要に応じて、表示するディスプレイを切り替えます。

外部ディスプレイやデジタルテレビ接続後、「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示された場合は、次のように対応してください。

- 外部ディスプレイやデジタルテレビに CD-ROM などで必要なファイルが添付されていることがあります。この場合は、添付のマニュアルをご覧になり、必要なファイルをインストールしてください。

Point

- 外部ディスプレイやデジタルテレビを接続後、接続したディスプレイのみに表示する設定にしていても、接続するディスプレイによっては、パソコン本体の液晶ディスプレイと接続したディスプレイの両方に画面が表示されることがあります。必要に応じて、表示するディスプレイを切り替えてください。
- 液晶ディスプレイや接続した外部ディスプレイやデジタルテレビに、パソコンの画面を表示するときの画面の解像度や発色数については、「解像度と発色数についての注意」(→ P.23）をご覧ください。
- デジタルテレビの表示を調整する（HDMI 出力端子搭載機種のみ）
  パソコンの画面がデジタルテレビに正しく表示されない場合、デジタルテレビ側の表示領域設定を変更することで、最適な表示に切り換わることがあります。デジタルテレビのマニュアルをご覧になり、設定を変更してください。
  デジタルテレビ側で設定を変更できなかったり、設定を変更しても画面の端が欠けて表示されてしまったりする場合などは、次の手順で「テレビ出力ユーティリティ」で設定を変更してください（LIFEBOOK NH シリーズ、AH シリーズ、SH シリーズ、PH75 シリーズ、PH74 シリーズのみ）。
  1. (スタート)▶「すべてのプログラム」▶「テレビ出力ユーティリティ」▶「テレビ出力ユーティリティ」の順にクリックします。
     テレビ出力ユーティリティが起動します。
  2. 「かんたん設定を開始」をクリックします。
     お使いのデジタルテレビが「かんたん設定」に対応していない場合は、「設定がありませんでした」という画面が表示されます。この場合は「次へ」をクリックし、画面の指示に従って手動設定してください。
  3. 「かんたん設定（解像度※ - 大きさ)」で設定したい値の ◎ をクリックして ◉ にし、「次へ」をクリックします。
     「かんたん設定（解像度※ - 大きさ)」に表示される項目は、お使いのテレビにより異なります。

     一覧に設定したい値が表示されない場合は、「手動で設定する」の ◎ をクリックして ◉ にし、画面の指示に従って手動設定してください。
  4. 画面の指示に従って操作し、設定を完了してください。
     テレビのマニュアルもご覧になり、設定してください。

外部ディスプレイやデジタルテレビに表示できる解像度と発色数

■ 外部ディスプレイコネクタまたはデジタルディスプレイコネクタに接続したディスプレイの場合

接続した外部ディスプレイがサポートしている次の解像度を表示できます。
外部ディスプレイがこの解像度をサポートしているかどうかは、お使いの外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

解像度（ピクセル）	発色数 [注 1] [注 2]	
	High Color（16ビット）	True Color（32ビット）
800 × 600	○	○
1024 × 768	○	○
1280 × 720 [注 3]	○	○
1280 × 768 [注 3]	○	○
1280 × 800 [注 3]	○	○
1280 × 1024	○	○
1360 × 768 [注 3]	○	○
1400 × 1050 [注 3]	○	○
1440 × 900 [注 3]	○	○
1600 × 900 [注 3]	○	○
1600 × 1200	○	○
1680 × 1050 [注 3]	○	○
1920×1080 [注3] [注4]	○	○
1920×1200 [注3] [注4]	○	○

注 1：○は表示可能。ただし外部ディスプレイの解像度より大きい解像度の場合は表示できません。

注 2：High Color … 約 6 万 5 千色　　True Color … 約 1677 万色

注 3：外部ディスプレイの解像度と同じ場合、表示できます。

注 4：MH シリーズでは表示できません。

■ HDMI 出力端子に接続したデジタルテレビやディスプレイの場合（HDMI 出力端子搭載機種のみ）

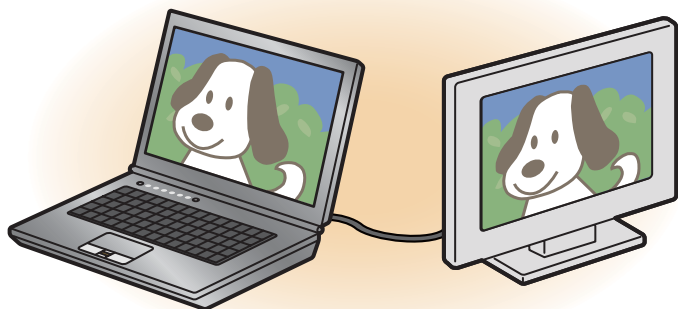
接続したデジタルテレビやディスプレイがサポートしている次の解像度を表示できます。
デジタルテレビやディスプレイがこの解像度をサポートしているかどうかは、お使いのデジタルテレビやディスプレイのマニュアルをご覧ください。

解像度（ピクセル）	発色数 [注 1] [注 2]		出力方式とリフレッシュレート [注 3]		
	High Color（16ビット）	True Color（32ビット）	720p（750p）	1080i（1125i）	1080p（1125p）
1280 × 720	○	○	59Hz/60Hz プログレッシブ	−	−
1360 × 768	○	○	−	−	−
1920 × 1080	○	○	−	29Hz/30Hz インターレース	59Hz/60Hz プログレッシブ

注 1：○は表示可能。ただし接続したデジタルテレビやディスプレイの解像度より大きい解像度の場合は表示できません。

注 2：High Color … 約 6 万 5 千色　　True Color … 約 1677 万色

注 3：HDMI 出力端子から出力できる映像信号

■ 液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示の場合

液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時に表示する場合は、表示するディスプレイを次のように設定してください。

- 液晶ディスプレイ
  主ディスプレイ（またはプライマリデバイス）：内蔵ディスプレイ（またはノートブック、Notebook）
- 外部ディスプレイ
  2 番目のディスプレイ（またはセカンダリデバイス）：PC モニター（または PC モニタ）

お使いのパソコンの液晶ディスプレイの解像度は、「液晶ディスプレイに表示できる解像度と発色数」（→ P.24）をご確認ください。

外部ディスプレイの解像度は、外部ディスプレイのマニュアルにてご確認ください。

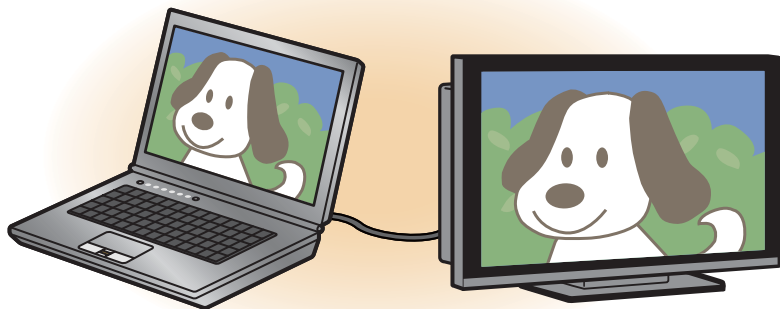
液晶ディスプレイの解像度以下であり、かつ、お使いの外部ディスプレイがサポートしている次の解像度を表示できます。

解像度（ピクセル）	発色数 [注 1] [注 2]	
	High Color（16 ビット）	True Color（32 ビット）
800 × 600	○	○
1024 × 768	○	○
1280 × 800 [注 3]	○	○
1280 × 1024	○	○
1360 × 768 [注 3]	○	○
1440 × 900 [注 3]	○	○
1600 × 900 [注 3]	○	○
1600 × 1200	○	○
1680 × 1050 [注 3]	○	○
1920 × 1080 [注 3]	○	○

注 1：○は表示可能。ただし液晶ディスプレイおよび外部ディスプレイの解像度より大きい解像度の場合は表示できません。

注 2：High Color … 約 6 万 5 千色
True Color … 約 1677 万色（液晶ディスプレイは擬似的に色を表示するディザリング機能を利用）

注 3：外部ディスプレイの解像度と同じ場合、表示できます。

■ 液晶ディスプレイとデジタルテレビの同時表示の場合（HDMI 出力端子搭載機種のみ）

液晶ディスプレイとデジタルテレビに同時に表示する場合は、表示するディスプレイを次のように設定してください。

● 液晶ディスプレイ
主ディスプレイ（またはプライマリデバイス）：内蔵ディスプレイ（またはノートブック、Notebook）

● デジタルテレビ
2 番目のディスプレイ（またはセカンダリデバイス）：デジタルテレビ

接続したデジタルテレビがサポートしている次の解像度を表示できます。

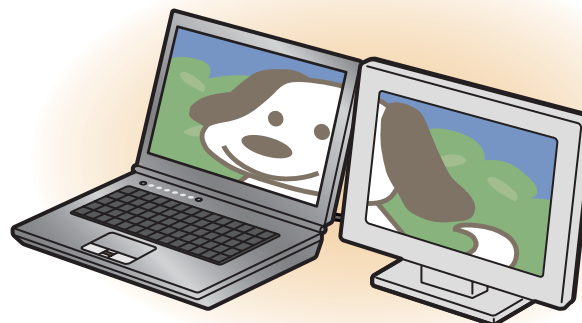
解像度（ピクセル）	発色数［注 1］［注 2］	
	High Color（16 ビット）	True Color（32 ビット）
1280 × 720	○	○

注 1：○は表示可能

注 2：High Color … 約 6 万 5 千色
True Color … 約 1677 万色（液晶ディスプレイは擬似的に色を表示するディザリング機能を利用）

■ マルチモニターの場合

重要

▸ OSがWindows 7 Starterの方は、マルチモニター機能が使用できません。お使いのパソコンのプレインストール OS は、『取扱説明書』の「仕様一覧」をご確認ください。

マルチモニター機能をお使いになるときは、表示するディスプレイを次のように設定してください。

● 液晶ディスプレイ
主ディスプレイ（またはプライマリデバイス）：内蔵ディスプレイ（またはノートブック、Notebook）

● 外部ディスプレイやデジタルテレビ
2 番目のディスプレイ（またはセカンダリデバイス）：PC モニター（または PC モニタ、デジタルテレビ）

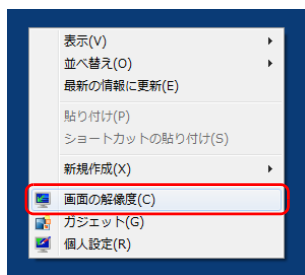
液晶ディスプレイ、外部ディスプレイコネクタに接続したディスプレイ、HDMI 出力端子に接続したデジタルテレビやディスプレイ、およびデジタル接続した外部ディスプレイに表示できるそれぞれの解像度で表示できます。

画面の解像度や発色数の変更

ここでは、ディスプレイにパソコンの画面を表示するときの、画面の解像度や発色数を変更する方法について説明しています。

重要

- 設定変更時の画面表示の乱れについて
  解像度や発色数を変更するときに一時的に画面表示が乱れることがありますが、故障ではありません。
- 設定変更時のご注意 （テレビチューナー搭載機種のみ）
  テレビを見ているときや録画中は、解像度や発色数の設定を変更しないでください。

1 デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから、「画面の解像度」をクリックします。

（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

「画面の解像度」ウィンドウが表示されます。

2 解像度を変更します。

「解像度」の をクリックし、表示される画面で解像度を選択します。

接続した外部ディスプレイやデジタルテレビの解像度を変更したい場合は、「ディスプレイ表示の変更」でディスプレイを選んでから設定してください。設定可能な解像度は外部ディスプレイやデジタルテレビのマニュアルをご覧ください。

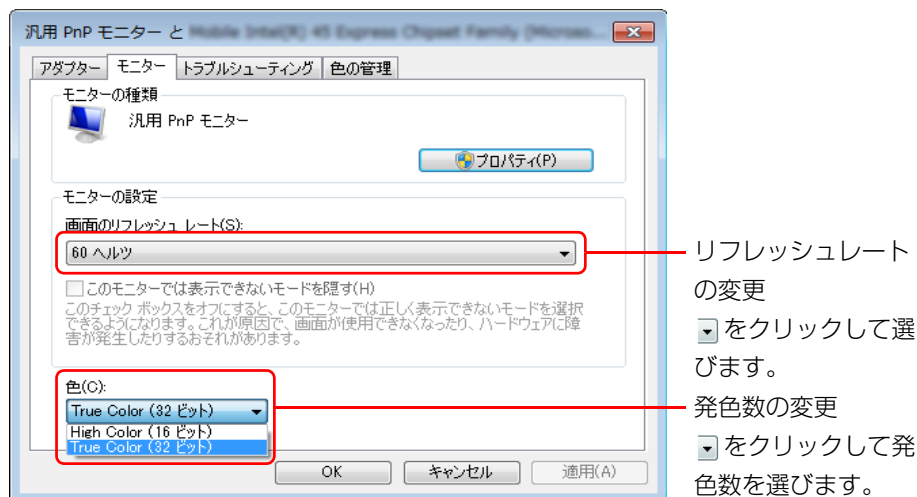
3 「適用」をクリックします。

設定を確認するウィンドウが表示されたら、「変更を維持する」をクリックします。

発色数を変更しない場合は手順 7 へ進みます。

4 「画面の解像度」ウィンドウで「詳細設定」をクリックし、表示されたウィンドウで「モニター」タブをクリックします。

5 発色数を変更します。

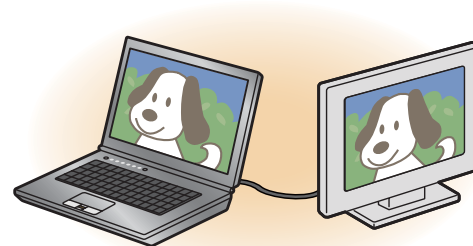
「色」の をクリックし、表示されるメニューから発色数を変更します。

リフレッシュレートもここで変更できます。

6 「適用」をクリックします。

設定を確認するウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。

7 「OK」をクリックします。

表示するディスプレイの切り替え

このパソコンに外部ディスプレイやデジタルテレビなどを接続した場合に、表示するディスプレイを切り替えることができます。
ここでは、切り替え方法について説明しています。
なお、ここでは、ポートリプリケータに接続した外部ディスプレイのうち、アナログディスプレイコネクタに接続した外部ディスプレイを「アナログディスプレイ」、デジタルディスプレイコネクタに接続した液晶ディスプレイを「デジタルディスプレイ」と呼んでいます。

- 「Fujitsu Display Manager」を起動して、表示するディスプレイを切り替えることもできます。

ディスプレイの表示について

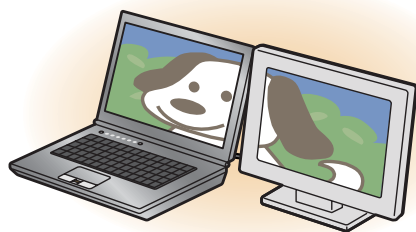
ディスプレイの表示は、次のように切り替えることができます。

● **1 つのディスプレイで表示する**

・パソコン本体の液晶ディスプレイ
・接続した外部ディスプレイ
・接続したデジタルテレビ（HDMI 出力端子搭載機種のみ）
・ポートリプリケータに接続したアナログディスプレイ（ポートリプリケータをお使いの場合のみ）
・ポートリプリケータに接続したデジタルディスプレイ（ポートリプリケータをお使いの場合のみ）

● **2 つのディスプレイで同時に表示する**

・パソコン本体の液晶ディスプレイと、接続した外部ディスプレイ
・パソコン本体の液晶ディスプレイと、接続したデジタルテレビ（HDMI 出力端子搭載機種のみ）
・パソコンの液晶ディスプレイと、ポートリプリケータに接続したアナログディスプレイ（ポートリプリケータをお使いの場合のみ）
・パソコンの液晶ディスプレイと、ポートリプリケータに接続したデジタルディスプレイ（ポートリプリケータをお使いの場合のみ）
・ポートリプリケータに接続した、アナログディスプレイとデジタルディスプレイ（ポートリプリケータをお使いの場合のみ）

● **2 つのディスプレイで 1 つのデスクトップを表示する**

2 つのディスプレイで 1 つのデスクトップを表示する方法については、「マルチモニター機能を使う」（→ P.41）をご覧ください。

重要

- 動画再生中に、表示するディスプレイを切り替えないでください。
- Blu-ray Disc（BDXL™対応Blu-ray Discドライブまたは Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ）の映像は、パソコンの液晶ディスプレイおよび HDMI 出力端子に接続したデジタルテレビやディスプレイにのみ表示できます（HDMI 出力端子搭載機種のみ）。
- テレビを見ているときや録画中は、表示するディスプレイを切り替えないでください（テレビチューナー搭載機種のみ）。

Point

- HDMI 出力端子に接続したデジタルテレビやディスプレイには、BIOS セットアップの画面を表示することはできません（HDMI 出力端子搭載機種のみ）。
- Windows が起動すると、表示されるディスプレイは、前回 Windows で使用していた状態になります。
  ただし、外部ディスプレイが接続されていない場合や、プラグアンドプレイに対応していないディスプレイが接続されている場合は、液晶ディスプレイのみの表示になります。
- お使いのテレビによってはテレビの解像度が液晶ディスプレイよりも低いため、鮮明に表示できない場合があります。

「画面の設定」で切り替える

お使いの機種によって設定方法が異なります。お使いの機種に搭載されているグラフィック・アクセラレーターは、「仕様確認表」（→ P.5）でご確認いただけます。

■タイプ 1 のグラフィック・アクセラレーター搭載機種の場合（→ P.34）
■タイプ 2 のグラフィック・アクセラレーター搭載機種の場合（→ P.36）
■タイプ 3 のグラフィック・アクセラレーター搭載機種の場合（→ P.38）
■タイプ 4 のグラフィック・アクセラレーター搭載機種の場合（→ P.39）

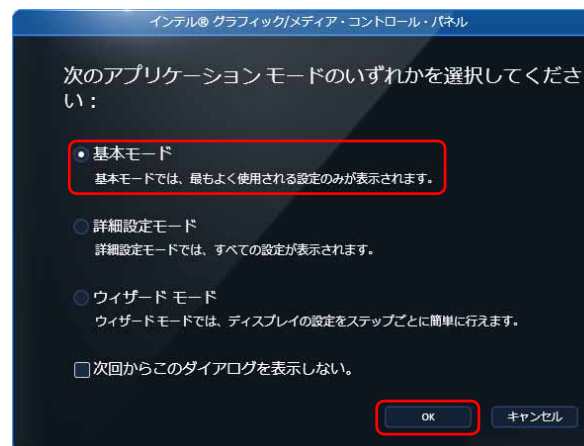
Point

- 外部ディスプレイによって対応している解像度や走査周波数が異なるため、正常に表示されないことがあります。状況に応じて次の操作を行ってください。
  - ・何も表示されない場合
    何も操作しないでお待ちください。10 秒ぐらい待つと、表示先が液晶ディスプレイに戻ります。表示先が液晶ディスプレイに戻らないときは、【Fn】＋【F10】キーを押して、表示先を切り替えてください。
  - ・正常に表示されない場合
    外部ディスプレイのマニュアルで外部ディスプレイが対応している解像度や走査周波数を確認し、設定を変更してください。
- 2 つのディスプレイで同時に表示する場合、DVD-VIDEO や Blu-ray Disc（BDXL™ 対応 Blu-ray Disc ドライブまたは Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ）などの著作権保護を有するコンテンツを再生することはできません。

■ タイプ 1 のグラフィック・アクセラレーター搭載機種の場合

1 デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから、「グラフィック プロパティ」をクリックします。

「インテル® グラフィック / メディア コントロール・パネル」ウィンドウが表示されます。

2 「次のアプリケーションモードのいずれかを選択してください：」というメッセージが表示された場合は、「基本モード」を選択し、「OK」をクリックします。

（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

3 「ディスプレイ」の一覧で「マルチ ディスプレイ」をクリックします。

4 表示するディスプレイを選択します。

●1 つのディスプレイで表示する場合

「動作モード」の をクリックして「シングルディスプレイ」を選択し、「主ディスプレイ」の をクリックして表示するディスプレイを選択します。

●2 つのディスプレイで同時に表示する場合

「動作モード」の をクリックして「クローン ディスプレイ」を選択します。

- 2 つのディスプレイで同時に表示する場合、主ディスプレイと 2 番目のディスプレイの設定は次のようにしてください。
  - ・液晶ディスプレイと外部ディスプレイの場合
    - - 主ディスプレイ：内蔵ディスプレイ
    - - 2 番目のディスプレイ：PC モニター
  - ・液晶ディスプレイとデジタルテレビの場合
    - - 主ディスプレイ：内蔵ディスプレイ
    - - 2 番目のディスプレイ：デジタルテレビ
- 主ディスプレイ、2 番目のディスプレイの解像度やリフレッシュレートなどの詳細な設定は、左の一覧の「一般設定」をクリックして表示される設定項目から変更することができます。

5 「適用」をクリックしディスプレイを切り替えます。

6 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

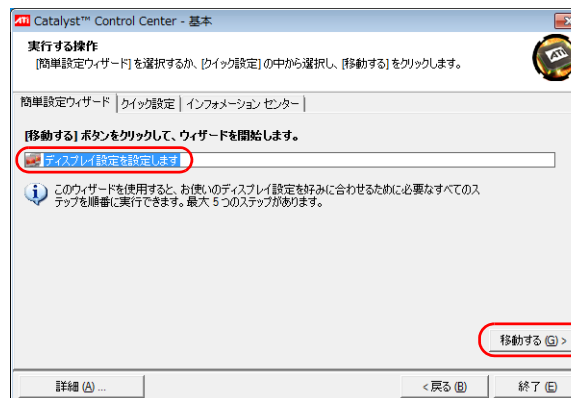
■ タイプ 2 のグラフィック ・ アクセラレーター搭載機種の場合

1 デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから、「Catalyst Control Center」をクリックします。

「ATI Catalyst^{TM} Control Center へようこそ」が表示されます。
「ATI Catalyst^{TM} Control Center へようこそ」が表示されない場合は、「表示」を「基本表示」に設定してください。

2 「使用の選択」の「基本 [簡単設定ウィザードとクイック設定]」を選択し、「次へ」をクリックします。

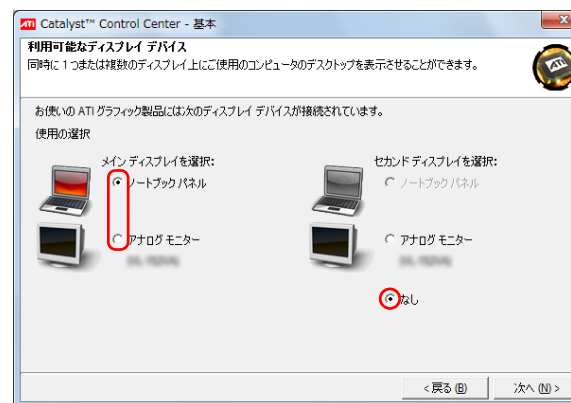
（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

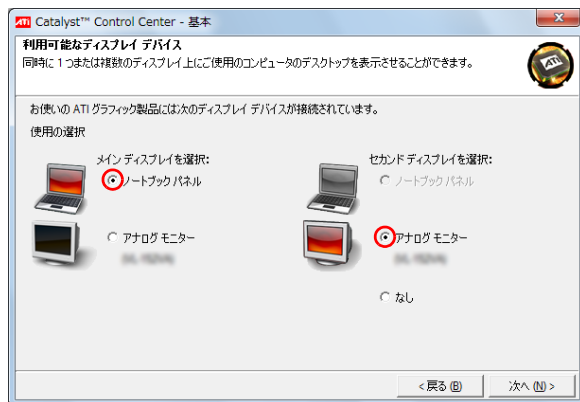
3 「簡単設定ウィザード」で「ディスプレイ設定を設定します」が表示されていることを確認し、「移動する」をクリックします。

「利用可能なディスプレイデバイス」が表示されます。

4 表示するディスプレイを選択します。

「使用の選択」には、現在接続されているディスプレイが選択肢として表示されます。

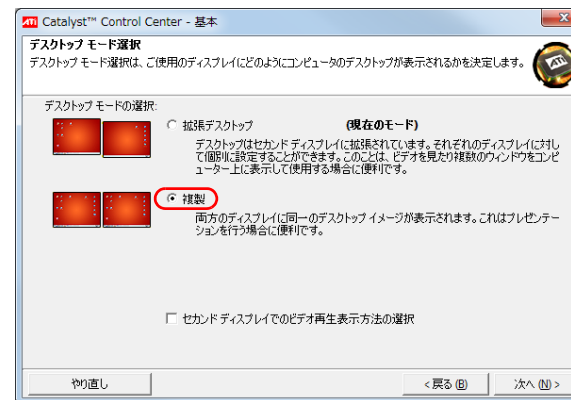
● 1 つのディスプレイで表示する場合

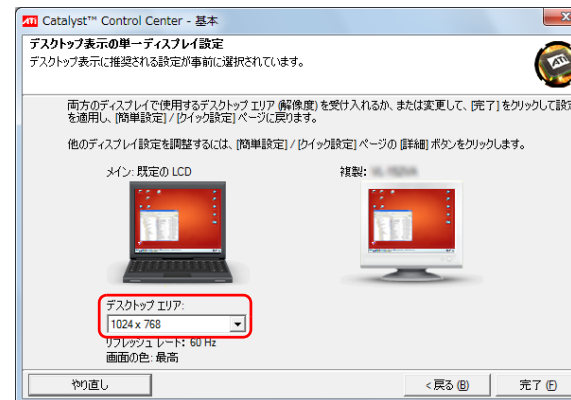
「メインディスプレイを選択」で表示するディスプレイを選択、「セカンドディスプレイを選択」で「なし」を選択し、「次へ」をクリックします。

●2 つのディスプレイで同時に表示する場合

「メインディスプレイを選択」と「セカンドディスプレイを選択」で表示するディスプレイをそれぞれ選択し、「次へ」をクリックします。

Point

- ディスプレイデバイス名は、それぞれ次のディスプレイを示します。
  - ・「ノートブックパネル」：このパソコンの液晶ディスプレイ
  - ・「アナログモニター」：外部ディスプレイコネクタに接続したディスプレイ
  - ・「DTV」：HDMI 出力端子に接続したデジタルテレビ（HDMI 出力端子搭載機種のみ）
- メインディスプレイとセカンドディスプレイの設定は次のようにしてください。
  - ・液晶ディスプレイと外部ディスプレイの場合
    - - メインディスプレイを選択：ノートブックパネル
    - - セカンドディスプレイを選択：アナログモニター
  - ・液晶ディスプレイとデジタルテレビの場合（HDMI 出力端子搭載機種のみ）
    - - メインディスプレイを選択：ノートブックパネル
    - - セカンドディスプレイを選択：DTV

5 「デスクトップモードの選択」で「複製」を選択し、「次へ」をクリックします。

「ディスプレイマネージャー通知」が表示される場合は、「はい」をクリックします。

6 「デスクトップエリア」で ▼ をクリックして任意の解像度を選択し、「完了」をクリックします。

「ディスプレイマネージャー通知」が表示される場合は、「はい」をクリックします。

7 「終了」をクリックします。

8 （スタート）▶ シャットダウン ▷ の ▷ ▶「再起動」の順にクリックします。

Windows が再起動します。再起動することにより、設定した内容が有効になります。

■ タイプ 3 のグラフィック ・ アクセラレーター搭載機種の場合

1 **デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから、「Catalyst Control Center」をクリックします。**

2 **「デスクトップとディスプレイ」の「デスクトップ管理」を選択します。**

3 **「デスクトップの作成と配置」をクリックします。**

選択可能なディスプレイがアイコンで表示されます。

4 **表示するディスプレイを選択します。**

●1 つのディスプレイで表示する場合

表示させせない方のディスプレイのアイコン右上にある▼をクリックし、表示されたメニューで「無効」を選択します。

●2 つのディスプレイで同時に表示する場合

選択可能なディスプレイのアイコンに、両方とも「①」と表示されている事を確認します。

5 **「デスクトップ管理」タブの「デスクトッププロパティ」をクリックします。**

「ディスプレイマネージャー通知」が表示される場合は、「はい」をクリックします。

6 **「デスクトップエリア」で任意の解像度を選択し、「適用」をクリックします。**

「ディスプレイマネージャー通知」が表示される場合は、「はい」をクリックします。

■ タイプ４のグラフィック ・ アクセラレーター搭載機種の場合

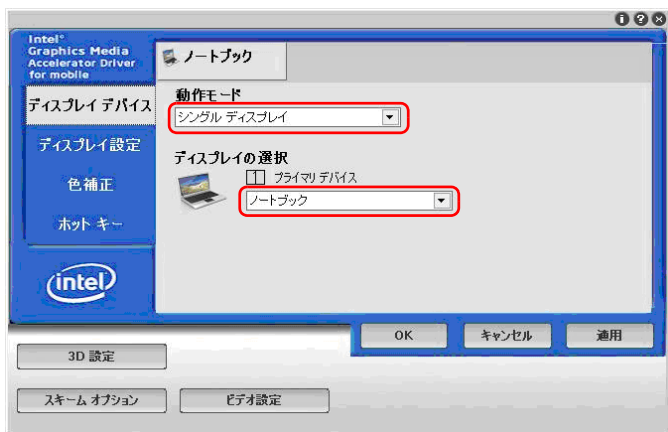
1 **デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから、「グラフィック プロパティ」をクリックします。**

「Intel® Graphics Media Accelerator Driver for mobile」ウィンドウが表示されます。

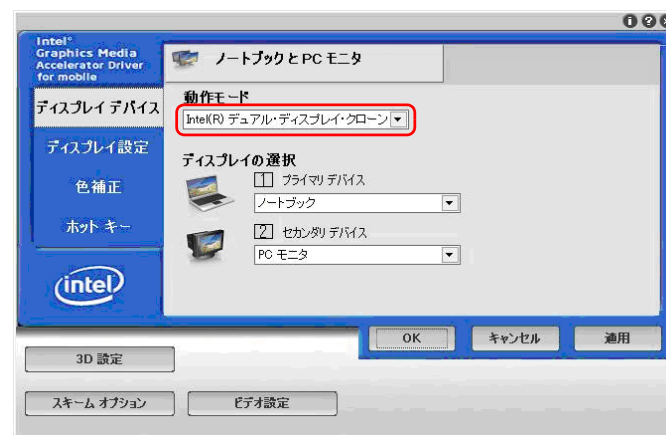
2 **左の一覧から「ディスプレイ デバイス」をクリックします。**

3 **表示するディスプレイを選択します。**

●１つのディスプレイで表示する場合

「動作モード」の▼をクリックして「シングルディスプレイ」を選択し、「プライマリデバイス」の▼をクリックして表示するディスプレイを選択します。

（画面は機種や状況により異なります）

●２つのディスプレイで同時に表示する場合

「動作モード」の▼をクリックして「Intel(R) デュアル・ディスプレイ・クローン」を選択します。

（画面は機種や状況により異なります）

Point

- ２つのディスプレイで同時に表示する場合、プライマリデバイスとセカンダリデバイスの設定は次のようにしてください。
  - ・液晶ディスプレイと外部ディスプレイの場合
    - プライマリデバイス：ノートブック
    - セカンダリデバイス：PC モニタ
  - ・液晶ディスプレイとデジタルテレビの場合
    - プライマリデバイス：ノートブック
    - セカンダリデバイス：デジタルテレビ
- プライマリデバイス、セカンダリデバイスの解像度やリフレッシュレートなどの詳細な設定は、左の一覧の「ディスプレイ設定」をクリックして表示される設定項目から変更することができます。

4 **「適用」をクリックしディスプレイを切り替えます。**

5 **「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。**

キーボードで切り替える

キーボードで表示する画面を切り替えるには、次の 2 通りの方法があります。

- 【Fn】＋【F10】キーを押す

  2 つのキーを押すごとに、「外部ディスプレイ表示→液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示→液晶ディスプレイ表示→外部ディスプレイ表示…」の順でディスプレイ表示が切り替わります。
  マルチモニター機能またはインテル WiDi を使用中は、【Fn】＋【F10】キーでディスプレイの表示を切り替えることができません。

- 【】（Windows）＋【P】キーを押す

  2 つのキーを押すごとに、「コンピューターのみ（液晶ディスプレイ表示）→複製（液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示）→拡張（液晶ディスプレイと外部ディスプレイのマルチモニター表示）→プロジェクターのみ（外部ディスプレイ表示）…」の順でディスプレイ表示方法を選ぶことができます。

Point

- プラグアンドプレイに対応していない外部ディスプレイの場合、キーボードで切り替えることはできません。「「画面の設定」で切り替える」（→ P.34）をご覧ください。
- アナログディスプレイとデジタルディスプレイの両方を接続している場合は、次のように動作します（ポートリプリケータをお使いの場合のみ）。

  ・【Fn】＋【F10】キーを押す

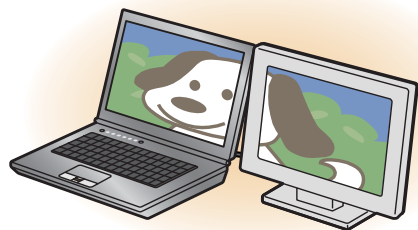
  2 つのキーを押すごとに、「アナログディスプレイ表示→液晶ディスプレイとアナログディスプレイの同時表示→デジタルディスプレイ表示→液晶ディスプレイと、デジタルディスプレイの同時表示→液晶ディスプレイ表示…」の順でディスプレイ表示が切り替わります。
  マルチモニター機能を使用中は、【Fn】＋【F10】キーでディスプレイの表示を切り替えることはできません。

  ・【】（Windows）＋【P】キーを押す

  2 つのディスプレイで同時に表示する設定を行うときに「2 番目のディスプレイ」に設定したディスプレイが優先されます。
  例えば、2 番目のディスプレイをデジタルディスプレイに設定した場合は、2 つのキーを押すごとに、「コンピューターのみ（液晶ディスプレイ表示）→複製（液晶ディスプレイとデジタルディスプレイの同時表示）→拡張（液晶ディスプレイとデジタルディスプレイのマルチモニター表示）→プロジェクターのみ（アナログディスプレイとデジタルディスプレイの同時表示）…」の順でディスプレイ表示方法を選ぶことができます。

- インテル WiDi を使用中は、次のように動作します（インテル WiDi 搭載機種のみ）。
  【】（Windows）＋【P】キーを押すごとに、「複製（液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示）→拡張（液晶ディスプレイと外部ディスプレイのマルチモニター表示）→プロジェクターのみ（外部ディスプレイ表示）…」の順でディスプレイ表示方法を選ぶことができます。

マルチモニター機能を使う

このパソコンには、パソコンの液晶ディスプレイと接続したディスプレイを使用して、2 つのディスプレイで 1 つのデスクトップを表示できる「マルチモニター機能」があります。

重要

- OSがWindows 7 Starterの方は、マルチモニター機能が使用できません。お使いのパソコンのプレインストール OS は、『取扱説明書』の「仕様一覧」をご確認ください。

■ マルチモニター機能をお使いになるうえでの注意

- マルチモニター機能をお使いになる前に、使用中のソフトウェアを終了してください。
- マルチモニター機能をお使いになるときは、パソコンの液晶ディスプレイを主ディスプレイ（プライマリデバイス）、接続したディスプレイを 2 番目のディスプレイ（セカンダリデバイス）に設定してください。
- マルチモニター機能の使用中のご注意
  - ・マルチモニター機能を使用中は、キーボードでディスプレイの表示を切り替えることはできません。
  - ・2 つのディスプレイにまたがるウィンドウがある場合は、表示するディスプレイの設定を変更しないでください。
  - ・2 番目のディスプレイ（セカンダリデバイス）のみに表示されているソフトウェアを起動中に、2 番目のディスプレイ（セカンダリデバイス）の使用を終了しないでください。ソフトウェアおよび Windows の動作が不安定になり、データが保存されないことがあります。
- 主ディスプレイ（プライマリデバイス）のみで表示されるもの
  - ・液晶ディスプレイの全画面表示
  - ・一部のスクリーンセーバー
  - ・動画再生画面の全画面表示
  - ・アクセラレーター機能を使用しての動画再生画面
  - ・テレビ機能の映像（テレビチューナー搭載機種のみ）
- 発色数についての注意
  - ・主ディスプレイ（プライマリデバイス）と 2 番目のディスプレイ（セカンダリデバイス）で、別々の発色数を設定しないでください。

■ マルチモニター機能を設定する

重要

- タイプ４のグラフィック・アクセラレーター搭載機種の方は、マルチモニター機能は使用できません。

お使いの機種によって設定方法が異なります。

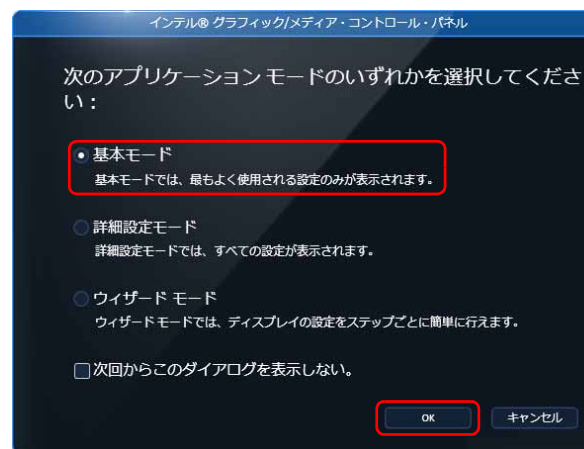
□タイプ１のグラフィック・アクセラレーター搭載機種の場合（→ P.42）
□タイプ２のグラフィック・アクセラレーター搭載機種の場合（→ P.43）
□タイプ３のグラフィック・アクセラレーター搭載機種の場合（→ P.45）

□タイプ１のグラフィック・アクセラレーター搭載機種の場合

1 **外部ディスプレイをパソコン本体にある外部ディスプレイコネクタに接続します。**

2 **デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから、「グラフィック プロパティ」をクリックします。**

「インテル® グラフィック / メディア コントロール・パネル」ウィンドウが表示されます。

3 **「次のアプリケーションモードのいずれかを選択してください：」というメッセージが表示された場合は、「基本モード」を選択し、「OK」をクリックします。**

（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

4 「ディスプレイ」の一覧で「マルチ ディスプレイ」をクリックし、「動作モード」の をクリックして「拡張デスクトップ」を選択します。

5 「主ディスプレイ」が「内蔵ディスプレイ」、「2 番目のディスプレイ」が「PC モニター」であることを確認します。

設定が異なっている場合は をクリックして正しく設定してください。

6 「適用」をクリックしディスプレイを切り替えます。

7 デスクトップの変更を確認するメッセージが表示されたら「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

Point

- 「主ディスプレイ」、「2 番目のディスプレイ」の解像度やリフレッシュレートなどの詳細な設定は、左の一覧の「ディスプレイ設定」をクリックして表示される設定項目から変更することができます。

□タイプ 2 のグラフィック・アクセラレーター搭載機種の場合

1 外部ディスプレイをパソコン本体にある外部ディスプレイコネクタに接続します。

2 デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから、「Catalyst Control Center」をクリックします。

「ATI Catalyst™ Control Center へようこそ」が表示されます。

「ATI Catalyst™ Control Center へようこそ」が表示されない場合は、「表示」を「基本表示」に設定してください。

3 「使用の選択」の「基本 [簡単設定ウィザードとクイック設定]」を選択し、「次へ」をクリックします。

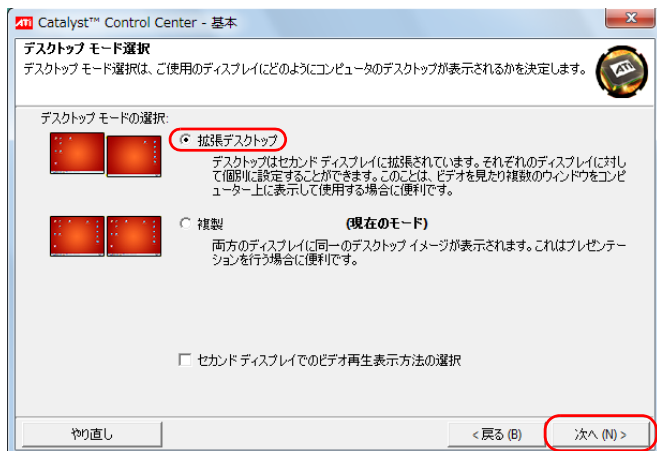
4 「簡単設定ウィザード」で「ディスプレイ設定を設定します」が表示されていることを確認し、「移動する」をクリックします。

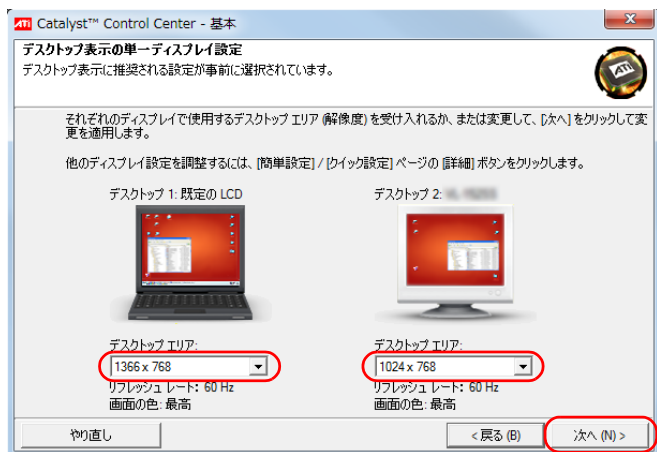
5 表示するディスプレイを選択します。

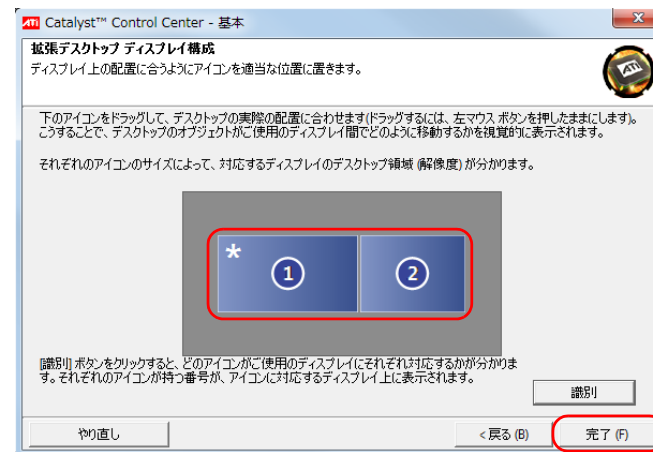
「メインディスプレイを選択」と「セカンドディスプレイを選択」で表示するディスプレイをそれぞれ選択し、「次へ」をクリックします。

「使用の選択」には、現在接続されているディスプレイの選択肢のみが表示されます。

6 「デスクトップモードの選択」で「拡張デスクトップ」を選択し、「次へ」をクリックします。

「ディスプレイマネージャー通知」が表示される場合は、「はい」をクリックします。

7 「デスクトップエリア」で▼をクリックして任意の解像度を選択し、「次へ」をクリックします。

「ディスプレイマネージャー通知」が表示される場合は、「はい」をクリックします。

8 「ディスプレイ構成」でデスクトップの表示する位置を決めて、「完了」をクリックします。

ディスプレイのイラストの配置により、「1」のディスプレイから「2」のディスプレイへの移動方法が決定されます。イラストの位置をディスプレイの物理的な配置と対応させる必要はありません。

9 「終了」をクリックします。

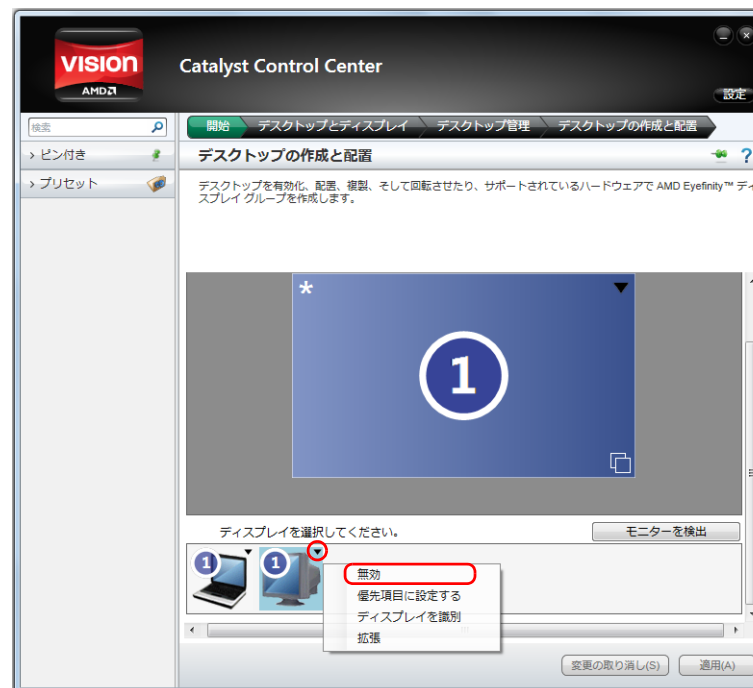
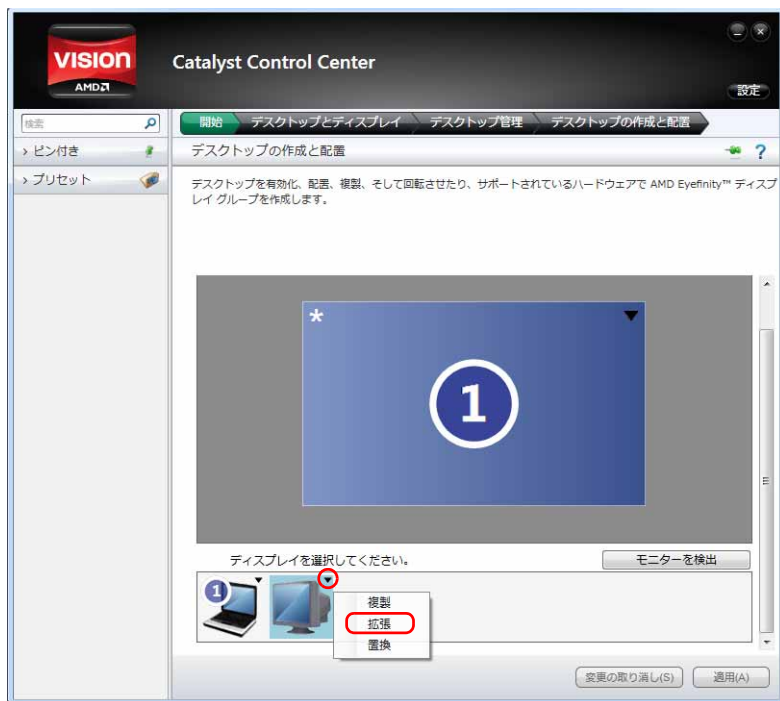
□タイプ３のグラフィック・アクセラレーター搭載機種の場合

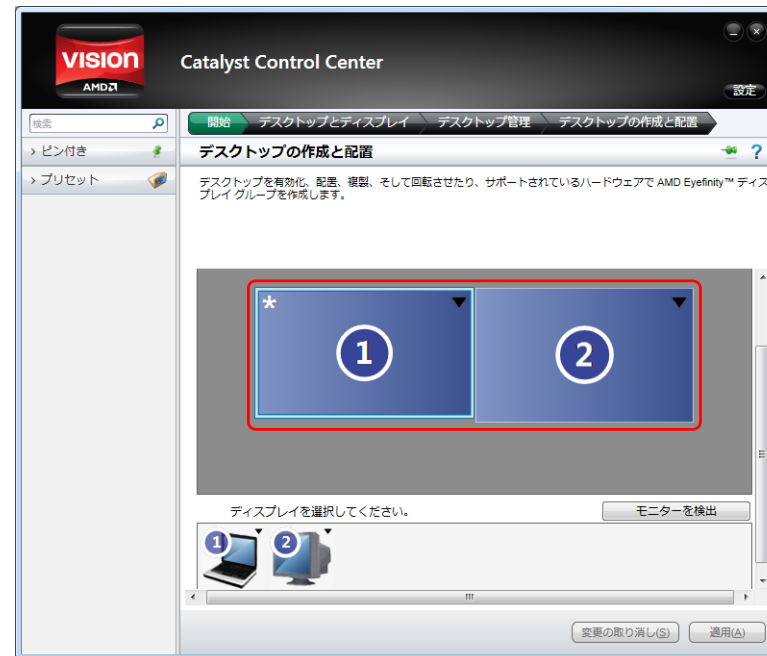
1 外部ディスプレイをパソコン本体にある外部ディスプレイコネクタに接続します。

2 デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから、「Catalyst Control Center」をクリックします。

3 「デスクトップとディスプレイ」の「デスクトップ管理」をクリックします。

4 「デスクトップの作成と配置」をクリックします。

5 表示されたディスプレイのアイコンから、サブディスプレイ（タスクバーが表示されない側のディスプレイ）として使用するディスプレイのアイコン右上にある▼をクリックし、「無効」を選択します。

6 「無効」にしたディスプレイのアイコンを再度選択し、アイコン右上にある▼をクリックし、「拡張」を選択します。

7 デスクトップの表示する位置を決めます。

ディスプレイのイラストの配置により、「1」のディスプレイから「2」のディスプレイへの移動方法が決定されます。イラストの位置をディスプレイの物理的な配置と対応させる必要はありません。

8 「デスクトップ管理」タブの「デスクトッププロパティ」をクリックします。

「設定したいデスクトップを選択します。」の右の ^ をクリックすると表示されるディスプレイのイラストで、設定したいディスプレイの番号を選択し、「デスクトップエリア」で任意の解像度を設定します。

「ディスプレイマネージャー通知」が表示される場合は、「はい」をクリックします。

9 「適用」をクリックします。

■ アダプターの表示位置を変更する

ここでは使用する２つのアダプターの表示位置を変更する場合の手順について説明します。

1 マルチモニター機能を設定します。

2 デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから、「画面の解像度」をクリックします。

「画面の解像度」ウィンドウが表示されます。

3 ディスプレイのイラストを、表示する位置にドラッグします。

ディスプレイのイラストの配置により、「1」のディスプレイから「2」のディスプレイへの移動方法が決定されます。イラストの位置をディスプレイの物理的な配置と対応させる必要はありません。

●マルチディスプレイ内を左右に移動させたい場合

「1」「2」と表示されたディスプレイを左右に並べます。

（画面は機種や状況により異なります）

●マルチディスプレイ内を上下に移動させたい場合

「1」「2」と表示されたディスプレイを縦に並べます。

（画面は機種や状況により異なります）

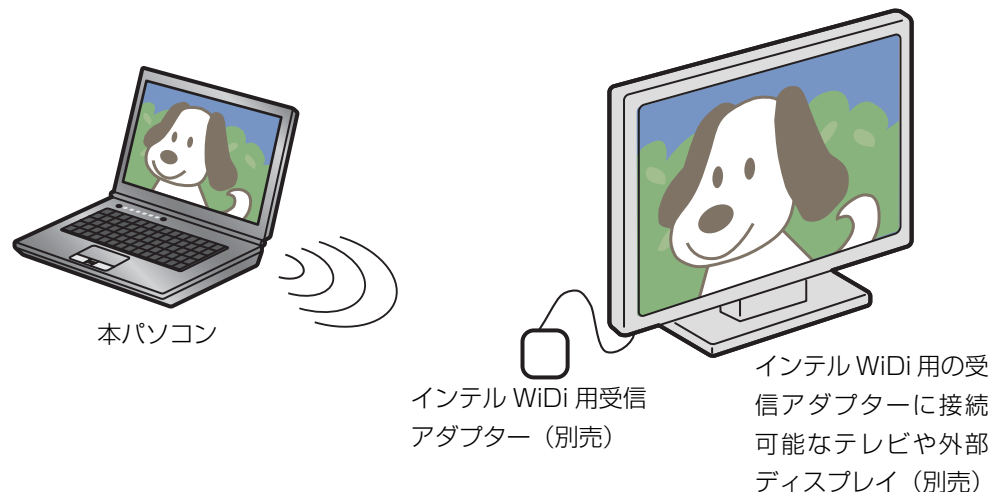
4 「適用」をクリックします。

分割したデスクトップを表示する位置が変更されます。

インテル WiDi を使う（搭載機種のみ）

この項目は、インテル WiDi 搭載機種の方のみお読みください。
ここでは、インテル WiDi を使うために必要なものや、接続方法について説明しています。

インテル WiDi とは

インテル WiDi（ワイダイ）とは、このパソコンに搭載されている無線 LAN 機能を利用して、パソコンの画面やパソコンに保存している動画などをワイヤレスでテレビや外部ディスプレイに表示する機能です。

お使いになるうえでの注意

- インテル WiDi をお使いになるには、本パソコンの他に次のものが必要です。
  - ・別売のインテル WiDi 用の受信アダプター
    インテル WiDi 用の受信アダプターの対応状況については、次のホームページをご覧ください。
    http://azby.fmworld.net/support/shuuhen/ihv/
  - ・インテル WiDi 用の受信アダプターに接続可能な、別売のテレビや外部ディスプレイ（1280 × 720 ドット以上の解像度をサポートしたもの）
- 同時に使用できるディスプレイは、パソコン本体の液晶ディスプレイと、インテル WiDi で表示しているディスプレイの２つまでです。
- インテルWiDiソフトウェアが起動するまで、テレビや外部ディスプレイにパソコンの画面を表示させることはできません。
- BIOS セットアップの画面、Windows 起動中の画面、省電力モードからの復帰中の画面、およびシャットダウン中の画面はテレビや外部ディスプレイに表示できません。
- インテルWiDiで接続すると、音声は接続したテレビや外部ディスプレイからの出力に切り替わります。
- インテル WiDi で表示した画面では、マウスカーソルやウィンドウの移動、入力した文字などの表示には遅延が生じます。
- 2011年1月現在、インテルWiDiでテレビや外部ディスプレイへの表示がサポートされる動画は、「Windows Media Player 12」で再生可能な、著作権保護機能が使用されていない動画のみです。
- 高ビットレートの動画を再生すると、なめらかに再生されない場合があります。
- インテル WiDi は無線 LAN を使用するため、ご利用環境によっては、通信速度の低下や通信不能が原因でテレビや外部ディスプレイに画面が表示されない場合があります。無線LANについて、詳しくは「無線LAN」（→P.74）をご覧ください。
- インテルWiDiは無線LANを使用しますが、Webサイト閲覧など、通常のインターネット接続と同時にご利用いただけます。
- インテルWiDiと無線LANでのインターネット接続を同時にお使いになる場合は、無線 LAN アクセスポイントとの接続を完了させてから、インテル WiDi の接続を行ってください。
- インテルWiDiをお使いになるときは、パソコン本体のワイヤレススイッチをオンにしてください。
- 無線 LAN の電波を停止している場合は、インテル WiDi をお使いになることができません。
- 「Plugfree NETWORK」の設定で、「LAN ケーブル接続時に自動的に無線 LAN の電波を停止する」を有効にしていると、インテル WiDi が切断される場合があります。このような場合は、「Plugfree NETWORK」を終了するか、次の手順で設定を変更してください。
  1. 画面右下の通知領域にある をクリックし、（Plugfree NETWORK）を右クリックします。
  2. 表示されたメニューから、「オプション」をクリックします。
  3. 表示された画面の「LAN ケーブル接続時に自動的に無線 LAN の電波を停止する」の ☑ を □ にして「OK」▶「OK」の順にクリックし、ウィンドウを閉じます。
- モバイルWiMAX搭載機種の場合、モバイルWiMAXとインテルWiDiを同時にお使いになる事はできません。インテル WiDi をお使いになる前に、モバイル WiMAX を切断してください。

必要なものを準備する

インテル WiDi をお使いになるには、本パソコンの他に次のものが必要です。

- 別売のインテル WiDi 用の受信アダプター
  インテル WiDi 用の受信アダプターの対応状況については、次のホームページをご覧ください。
  http://azby.fmworld.net/support/shuuhen/ihv/
- 別売の、インテル WiDi 用の受信アダプターに接続可能なテレビや外部ディスプレイ
  インテル WiDi 用の受信アダプターに添付されているマニュアルをご覧になり、対応したものをご用意ください。

インテル WiDi を使う

1 テレビや外部ディスプレイに、別売のインテル WiDi 用の受信アダプターを接続します。

接続方法については、お使いのテレビや外部ディスプレイと、受信アダプターのマニュアルをご覧ください。

2 デスクトップにある「Intel(R) Wireless Display」アイコンをクリックします。

詳しい使い方については、「Intel(R) Wireless Display」のヘルプをご覧ください。ヘルプは、「Intel(R) Wireless Display」ウィンドウ右上の「ヘルプ」をクリックして表示されるメニューで「ヘルプ」をクリックすると表示されます。

Point

- デスクトップに「Intel(R) Wireless Display」アイコンがない場合は、（スタート）▶「すべてのプログラム」▶「Intel Corporation」▶「Intel(R) Wireless Display」▶「Intel(R) Wireless Display」の順にクリックします。
- 表示するディスプレイを切り替えるときは【 】+【P】キーを押します。2 つのキーを押すごとに、「複製（液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示）→拡張（液晶ディスプレイと外部ディスプレイのマルチモニター表示）→プロジェクターのみ（外部ディスプレイ表示）…」の順でディスプレイ表示方法を選ぶことができます。
- インテル WiDi をお使いのときは、表示するディスプレイの切り替えは【 】+【P】キーで行ってください。【Fn】+【F10】キーでは切り替えられません。

なお、テレビや外部ディスプレイに表示できる解像度と発色数については、「外部ディスプレイやデジタルテレビに表示できる解像度と発色数」（→ P.28）をご覧ください。

3. サウンド

再生時／録音時のサウンドを調節する

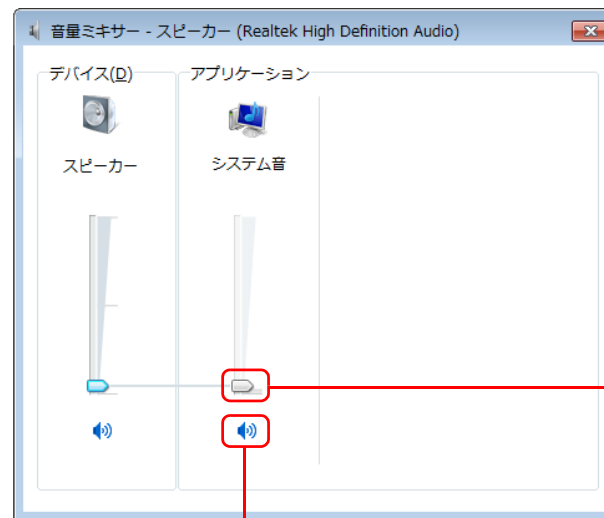
このパソコンのサウンドを調節するときは、スピーカーから聞こえる音がひずまない範囲に設定・調整してください。スピーカーが故障する原因となる場合があります。

ソフトウェアごとに音量を調節する

1 **音量を調節したいソフトウェアを起動します。**

2 **（スタート）▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」の順にクリックし、「サウンド」の「システム音量の調整」をクリックします。**

「音量ミキサー」ウィンドウが表示されます。

3 **「アプリケーション」の一覧で、音量の設定を変更したいソフトウェアの音量つまみを上下にドラッグして、適切な音量に調節します。**

・音量つまみ
下にドラッグすると音が小さく、上にドラッグすると音が大きくなります。

・ミュート
ここをクリックして にすると音が消え、画面右下の通知領域の表示が に変わります。
もう一度クリックして にすると元の音量に戻り、画面右下の通知領域の表示も に戻ります。

（画面は機種や状況により異なります）

・デバイス
このパソコンのスピーカーから出る音量です。「画面の音量つまみ」で設定した音量と同じです。
HDMI 出力端子に接続したテレビから音を出す場合は、「HDMI デバイス」と表示されます（HDMI 出力端子搭載機種のみ）。

・アプリケーション
起動しているソフトウェアごとに音量を調節できます。
「デバイス」に設定した音量が最大値になります。

4 **（閉じる）をクリックします。**

「音量ミキサー」ウィンドウが閉じます。

再生や録音する機器ごとに音量を調節する

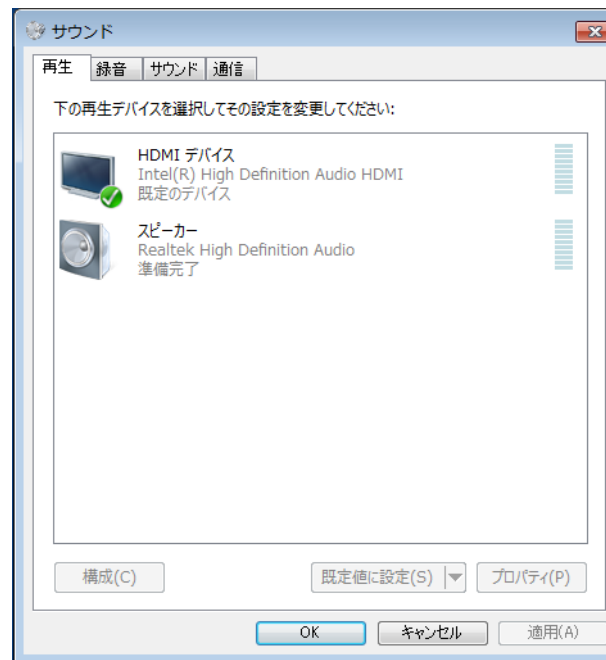
- HDMI出力端子に接続したデジタルテレビやディスプレイから音を出したい場合（HDMI 出力端子搭載機種のみ）
  音声の出力先は自動的に切り替わりません。次の手順で再生する機器を選択してください。

■ 再生する機器を選択する

このパソコンで音声を再生するときに、音声の出力先を選択することができます。

1 （スタート）▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」の順にクリックし、「サウンド」の「システムが出す音の変更」をクリックします。

「サウンド」ウィンドウが表示されます。

2 「再生」タブや「録音」タブで機器を選択し、「既定値に設定」をクリックします。

（画面は機種や状況により異なります）

選択した機器にチェックマークが付きます。

3 「OK」をクリックします。

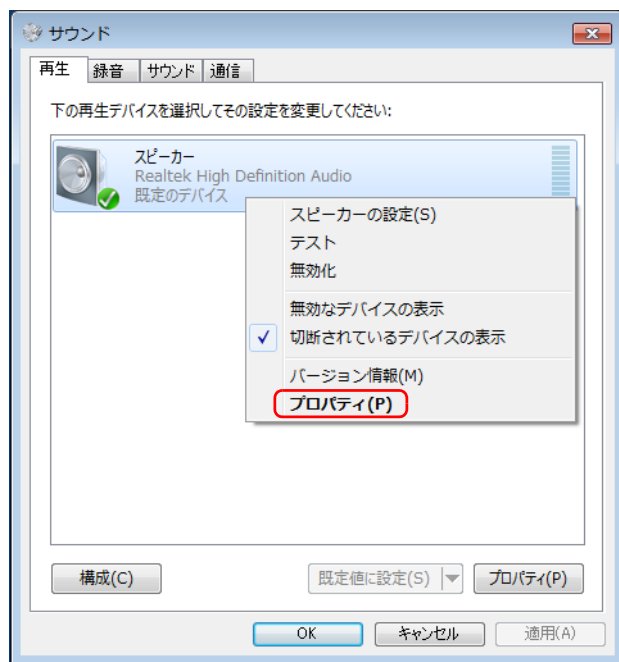
「サウンド」ウィンドウが閉じます。

■ 再生する機器の音量を調節する

ここでは、例としてスピーカーの音量を調節する方法を説明します。

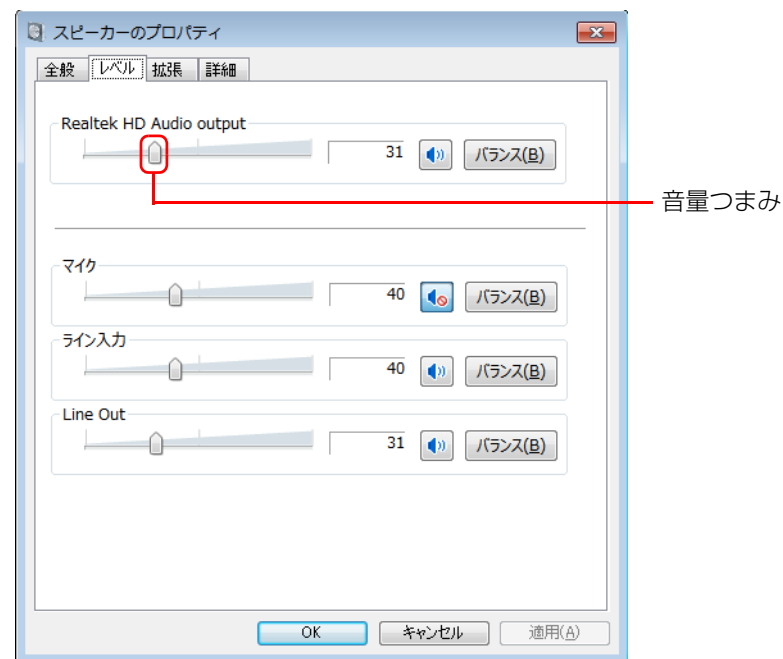
1 (スタート)▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」の順にクリックし、「サウンド」の「システムが出す音の変更」をクリックします。

「サウンド」ウィンドウが表示されます。

2 「再生」タブの「スピーカー」を右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックします。

(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

「スピーカーのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

3 「レベル」タブをクリックします。

4 音量を調節したい項目で、音量つまみを左右にドラッグして、適切な音量に調節します。

- :スピーカーから音が聞こえます。
- :スピーカーから音が聞こえません(ミュートになっています)。
- 「バランス」:左右の音量のバランスを調節できます。

5 「OK」をクリックします。

「スピーカーのプロパティ」ウィンドウが閉じます。

6 「OK」をクリックします。

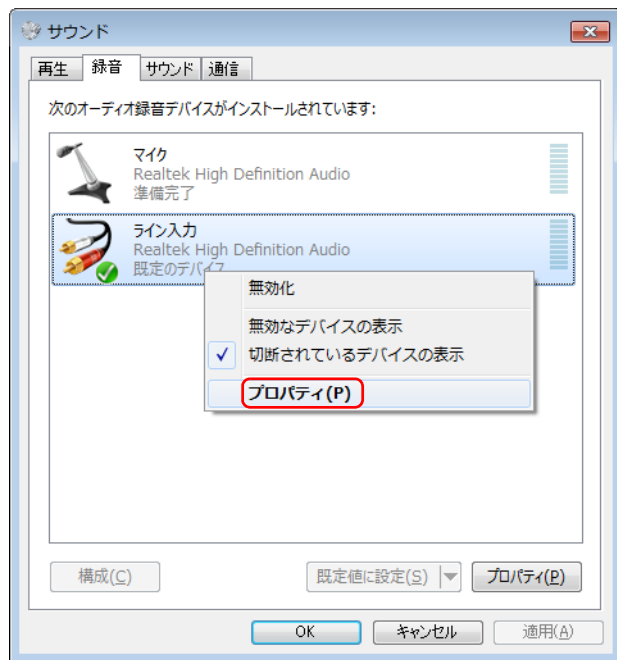
「サウンド」ウィンドウが閉じます。

■ 録音する機器の音量を調節する

ここでは、例としてライン入力の音量を調節する方法を説明します。

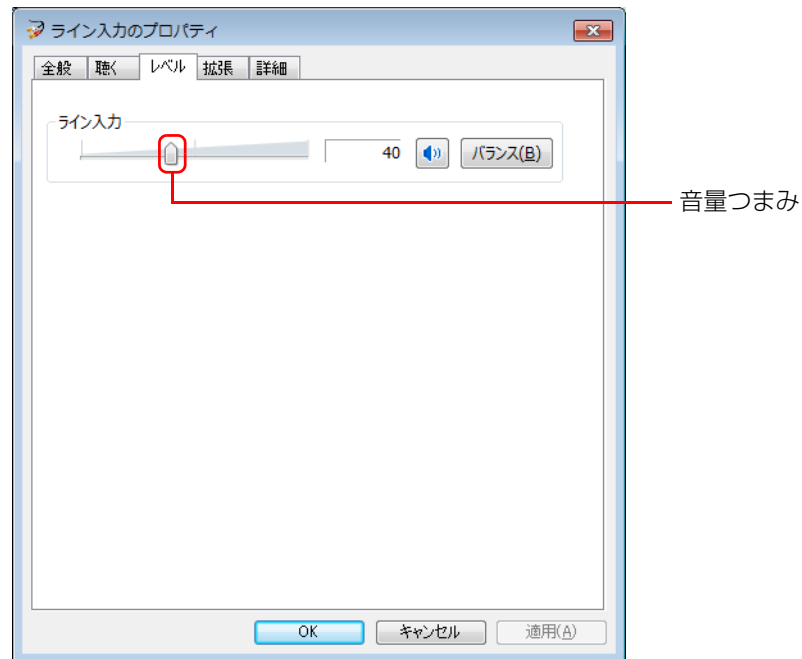
1 **（スタート）▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」の順にクリックし、「サウンド」の「システムが出す音の変更」をクリックします。**

「サウンド」ウィンドウが表示されます。

2 **「録音」タブの「ライン入力」を右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックします。**

（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

「ライン入力のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

3 **「レベル」タブをクリックします。**

4 **音量を調節したい項目で、音量つまみを左右にドラッグして、適切な音量に調節します。**

・：スピーカーから音が聞こえます。

・：スピーカーから音が聞こえません（ミュートになっています）。

・「バランス」：左右の音量のバランスを調節できます。

5 **「OK」をクリックします。**

「ライン入力のプロパティ」ウィンドウが閉じます。

6 **「OK」をクリックします。**

「サウンド」ウィンドウが閉じます。

Point

- 「録音」タブの「マイク」のプロパティの「レベル」タブに表示される「マイクブースト」は、機種により動作が異なります。
  - ・LIFEBOOK SH76 シリーズ、PH シリーズ（PH75 シリーズを除く）、MH シリーズの場合
    外部接続のマイクおよび内蔵マイク（搭載機種のみ）の「マイクブースト」のレベルを調節できます。
  - ・上記以外の機種の場合
    内蔵マイクのマイクブーストのレベルを調節できます（内蔵マイク搭載機種のみ）。
    ただし、次の手順で外部接続のマイクを調整することもできます。
    1. （スタート）▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」▶「Realtek HD オーディオマネージャ」の順にクリックします。
    2. 「Realtek HD オーディオマネージャ」ウィンドウ右上の をクリックします。
    3. 表示されるウィンドウで、「マイク端子のマイクブースト設定を固定します（マイクブーストの音量スライダーで調節できません）。」のチェックを外します。

スピーカーの音質を調節する

LIFEBOOK NH シリーズ、AH シリーズ（AH42 シリーズ、AH30 シリーズを除く）のみ

■ DTS Surround Sensation | UltraPC™ を使って調節する

パソコンに内蔵されているスピーカーの音質を、より詳細に調節することで、クリアで広がりのあるサラウンド効果や、重厚感のある低音を実現します。

1 （スタート）▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」▶「Realtek HD オーディオマネージャ」の順にクリックします。

2 「DTS」タブ▶「dts Surround Sensation UltraPC」の順にクリックします。

3 各項目を設定して、スピーカーの音質を変更します。

・dts On/Off
DTS Surround Sensation | UltraPC™ を使用する場合は、「On」の ◎ をクリックして ◉ にします。
・Voice Clarification を有効にする
声の帯域信号の明瞭度を上げ、音質を向上させることで、台詞などが明瞭に聞こえます。
・Bass Enhancement を有効にする
倍音成分をコントロールし、厚みのある豊かな低音になります。
・コンテンツモード
再生するコンテンツにより、「Movie」または「Music」を選択します。
・LFE ミキシングを有効にする
左右両方のスピーカーから低音を出します。
※ LFE ミキシングは 5.1ch 音源ソースの場合のみ有効です。

スピーカーの音圧を調節する

LIFEBOOK NH シリーズ、AH シリーズ（AH42 シリーズ、AH30 シリーズを除く）、SH シリーズのみ

■ DTS Boost™ を使って調節する

パソコンに内蔵されているスピーカーの音圧を、より詳細に調節することで迫力のある豊かな音を実現します。

重要

- DTS Boost™ の音圧レベルの調節は、内蔵スピーカーのみ対象となります。
ヘッドホン／光デジタルオーディオ出力兼用端子およびヘッドホン・ラインアウト兼用端子に接続した機器の音圧レベルの調節はできません。

1 (スタート)▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」▶「Realtek HD オーディオマネージャ」の順にクリックします。

2 「DTS」タブ▶「dts Boost」の順にクリックします。

3 DTS Boost™ を使用する場合は、「On」の ◎ をクリックして ◉ にします。

兼用端子の機能切り替え

兼用端子搭載機種のみ

お使いの機種に搭載されているオーディオの入出力端子は、複数の機能を兼用している場合があります。必要に応じて機能の切り替えを行ってください。
オーディオの入出力端子の種類と場所については、『取扱説明書』－「各部の名称と働き」をご覧ください。

■ヘッドホン・ラインアウト／光デジタルオーディオ出力兼用端子の場合

光デジタル入力機能付きの機器を接続すると自動で機能が切り替わります。その他の機器を接続した場合は、ご購入時は「ヘッドホン」として機能しますが、設定を変更することにより、「ライン出力」として機能させることができます。

■ヘッドホン・ラインアウト兼用端子、マイク・ラインイン兼用端子の場合

パソコン本体のヘッドホン・ラインアウト兼用端子、マイク・ラインイン兼用端子は、ご購入時はそれぞれ「ヘッドホン」「マイク入力」として機能します。
設定を変更することにより、「ライン出力」「ライン入力」として機能させることができます。
これらの設定を変更するには、次の手順を行ってください。

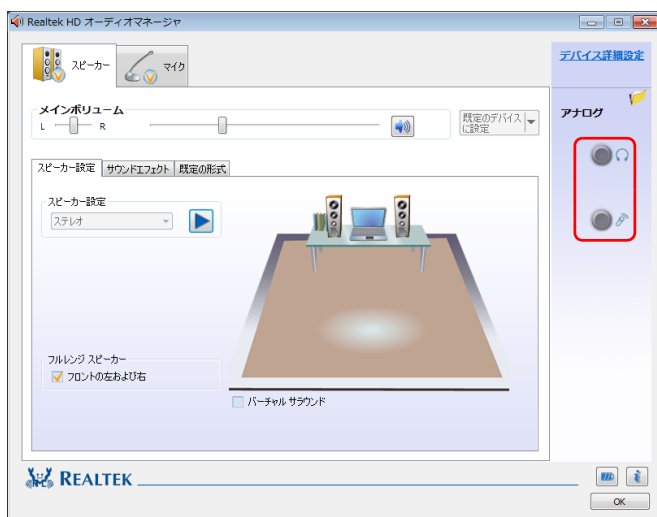
重要

- マイク・ラインイン兼用端子に機器を接続するときは、接続した機器の音量を小さくするか、出力を停止してください。

1 **機能を切り替えたい端子に外径 3.5mm のミニプラグに対応した機器を接続します。**

機器を接続していないときは、切り替えられません。

2 **(スタート)▶「コントロールパネル」▶「ハードウェアとサウンド」▶「Realtek HD オーディオマネージャ」の順にクリックします。**

3 **切り替えたい端子のアイコンをダブルクリックします。**

(これ以降の画面は機種や状況により異なります)

デバイスを選択するウィンドウが表示されます。

4 **使用するデバイスを ☑ にします。**

(画面はヘッドホン・ラインアウト兼用端子の設定画面です)

●ヘッドホン・ラインアウト兼用端子、および、ヘッドホン・ラインアウト／光デジタルオーディオ出力兼用端子の場合

・「ヘッドフォン」:ヘッドホン出力として動作します。
内蔵スピーカーから音が出なくなります。

・「ライン出力」:ライン出力として動作します。
内蔵スピーカーからも音が出ます。

●マイク・ラインイン兼用端子の場合

・「マイク入力」:マイク入力として動作します。

・「ライン入力」:ライン入力として動作します。

Point

- 各端子に機器を接続するとデバイスを選択するウィンドウが表示されるように設定する場合
「オーディオ端子の機能の選択:」ウィンドウで「オーディオ機器を接続したときに、自動的にこのウィンドウを表示します。」の □ を ☑ にします。

5 **「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。**

4. ジェスチャーコントロール機能（搭載機種のみ）

この章は、ジェスチャーコントロール機能搭載機種の方のみお読みください。

ジェスチャーコントロール機能とは、パソコンに取り付けられた Web カメラに向かって手を動かすことで、パソコンに触れずに操作する機能です。

Web カメラに向かって手を振ると、次のような画面が表示されます。

（画面は機種や状況により異なります）

ジェスチャーコントロール機能をお使いになるうえでの注意については、『取扱説明書』をご覧ください。

Point

- ジェスチャーコントロール機能の練習ができるチュートリアルを次の手順で見ることができます。
  1. 画面右下の通知領域にある をクリックし、表示された 、 、または をクリックします。
  2. 「設定」をクリックします。
  3. 「チュートリアルを表示する」をクリックします。

ジェスチャーコントロール機能の起動設定

ジェスチャーコントロール機能に対応したソフトウェアを初めて起動すると、ジェスチャーコントロール機能を使用して操作するかを確認するダイアログが表示されます。

「はい」を選択すると、ジェスチャーコントロール機能に対応したソフトウェアを起動時に、自動的にジェスチャーコントロール機能を有効にし、「いいえ」を選択すると、ジェスチャーコントロール機能を無効にします。

起動設定を変更する

1 画面右下の通知領域にある をクリックし、表示されたジェスチャーコントロール機能のアイコン（ 、 、または ）を右クリックします。

色によって動作状況を示します。

（グリーン）：動作中

（オレンジ）：待機中

（グレー）：オフ

2 表示された画面で、「オン（常時）」、「オン（自動）」、または「オフ」から起動設定を選択します。

- **オン（常時）**

  ジェスチャーコントロール機能を常に有効にします。

- **オン（自動）**

  ジェスチャーコントロール機能に対応したソフトウェアを起動すると、自動的にジェスチャーコントロール機能を有効にします。

- **オフ**

  ジェスチャーコントロール機能を無効にします。

ジェスチャーコントロール機能で操作する

写真を見る

1 写真のファイルをクリックします。

「Windows® フォト ビューアー」が起動します。
写真を見るソフトウェアを変更している場合は、ジェスチャーコントロール機能が使えない場合があります。

2 Web カメラに向かって、手を振ります。

操作パネルが表示されます。

3 各ボタンの上に手のアイコンを移動し、操作します。

	次の写真を表示します ボタン上で手のアイコンを止めていると、動作を繰り返します。
	前の写真を表示します ボタン上で手のアイコンを止めていると、動作を繰り返します。
	音量変更モードに切り替えます（→ P.66） 音量を変更するためのバーが表示されます。 表示されたバーの赤い●を動かすと、音量を調節できます。
	カーソルモードに切り替えます（→ P.64） 上下左右のカーソルキー、Back Space キー、Enter キーと同じ操作ができます。
	マウスモードに切り替えます（→ P.66） マウスポインターの移動やクリックの操作ができます。 ボタン上に手のアイコンを置き、Web カメラに向かってまっすぐ前に出し、すばやく元に戻してください。

ディスクを再生する

ここでは、DVD と Blu-ray Disc（BDXL™ 対応 Blu-ray Disc ドライブまたは Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ）の再生方法について説明します。

音楽ディスクについては、「Windows Media Player」で再生してください。
「Windows Media Player」使用時のジェスチャーコントロール機能の使い方については、『取扱説明書』をご覧ください。

1 **パソコンにディスクをセットします。**

2 **「自動再生」ウィンドウに表示されている項目の一覧で、再生するソフトウエアを選択します。**

3 **Web カメラに向かって、手を振ります。**
操作パネルが表示されます。

4 **各ボタンの上に手のアイコンを移動し、操作します。**

	一時停止／再生します
	次のチャプターに移動します ボタン上で手のアイコンを止めていると、動作を繰り返します。
	前のチャプターに移動します ボタン上で手のアイコンを止めていると、動作を繰り返します。
	早送りします ボタン上で手のアイコンを止めていると、速度が変わります。
	巻き戻します ボタン上で手のアイコンを止めていると、速度が変わります。
	音量変更モードに切り替えます（→ P.66） 音量を変更するためのバーが表示されます。 表示されたバーの赤い●を動かすと、音量を調節できます。
	カーソルモードに切り替えます（→ P.64） 上下左右のカーソルキー、Back Space キー、Enter キーと同じ操作ができます。
	マウスモードに切り替えます（→ P.66） マウスポインターの移動やクリックの操作ができます。 ボタン上に手のアイコンを置き、Web カメラに向かってまっすぐ前に出し、すばやく元に戻してください。

テレビを見る

テレビチューナー搭載機種のみ

1. **リモコンの「テレビ」ボタンを押します。**
   テレビを視聴するためのソフトウェアが起動します。
2. **Web カメラに向かって、手を振ります。**
   操作パネルが表示されます。
3. **各ボタンの上に手のアイコンを移動し、操作します。**

■ DigitalTVbox 搭載機種の場合

ボタン	説明
CH+	**次のチャンネルに切り替えます** ボタン上で手のアイコンを止めていると、動作を繰り返します。
CH-	**前のチャンネルに切り替えます** ボタン上で手のアイコンを止めていると、動作を繰り返します。
	再生します
	約 30 秒早送りします ボタン上で手のアイコンを止めていると、動作を繰り返します。
	約 10 秒巻き戻します ボタン上で手のアイコンを止めていると、動作を繰り返します。
	一時停止します テレビ番組の視聴中に操作すると、「かんたん追いかけ再生」を開始します。 「かんたん追いかけ再生」について、詳しくは『テレビ操作ガイド』をご覧ください。

Point

- 再生を停止する場合はリモコンやマウスをお使いください。

■ 地デジ対応 Windows Media Center 搭載機種の場合

ボタン	説明
CH+	**次のチャンネルに切り替えます** ボタン上で手のアイコンを止めていると、動作を繰り返します。
CH-	**前のチャンネルに切り替えます** ボタン上で手のアイコンを止めていると、動作を繰り返します。
	一時停止／再生します
	約 30 秒早送りします ボタン上で手のアイコンを止めていると、動作を繰り返します。
	約 10 秒巻き戻します ボタン上で手のアイコンを止めていると、動作を繰り返します。
	停止します

■ テレビチューナー搭載機種共通

ボタン	説明
	音量変更モードに切り替えます（→ P.66） 音量を変更するためのバーが表示されます。 表示されたバーの赤い●を動かすと、音量を調節できます。
	カーソルモードに切り替えます（→ P.64） 上下左右のカーソルキー、Back Space キー、Enter キーと同じ操作ができます。
	マウスモードに切り替えます（→ P.66） マウスポインターの移動やクリックの操作ができます。 ボタン上に手のアイコンを置き、Web カメラに向かってまっすぐ前に出し、すばやく元に戻してください。

PowerPoint でスライドを見る

PowerPoint 搭載機種のみ

1 PowerPoint のファイルをクリックします。

「PowerPoint」が起動します。

2 Web カメラに向かって、手を振ります。

操作パネルが表示されます。

3 各ボタンの上に手のアイコンを移動し、操作します。

ボタン	操作
次へ	**次のスライドを表示します** ボタン上で手のアイコンを止めていると、動作を繰り返します。
前へ	**前のスライドを表示します** ボタン上で手のアイコンを止めていると、動作を繰り返します。
最初のスライド	**最初のスライドを表示します**
最後のスライド	**最後のスライドを表示します**
スライドショー開始	**スライドショーを開始します**
スライドショー終了	**スライドショーを終了します**
	音量変更モードに切り替えます（→ P.66） 音量を変更するためのバーが表示されます。 表示されたバーの赤い●を動かすと、音量を調節できます。
	カーソルモードに切り替えます（→ P.64） 上下左右のカーソルキー、Back Space キー、Enter キーと同じ操作ができます。
	マウスモードに切り替えます（→ P.66） マウスポインターの移動やクリックの操作ができます。 ボタン上に手のアイコンを置き、Web カメラに向かってまっすぐ前に出し、すばやく元に戻してください。

- PowerPoint 以外のソフトウェアを起動していると、PowerPoint の操作ができないことがあります。

カーソルモードで操作する

上下左右のカーソルキー、Back Space キー、Enter キーと同じ操作ができます。

1 **操作したいソフトウェアを起動します**

2 **Web カメラに向かって、手を振ります。**

操作パネルが表示されます。

3 **各ボタンの上に手のアイコンを移動し、操作します。**

	上下左右のキーとして動作します ボタン上で手のアイコンを止めていると、動作を繰り返します。
	Back Space キーとして動作します ボタン上で手のアイコンを止めていると、動作を繰り返します。
	Enter キーとして動作します ボタン上で手のアイコンを止めていると、動作を繰り返します。
	音量変更モードに切り替えます（→ P.66） 音量を変更するためのバーが表示されます。 表示されたバーの赤い●を動かすと、音量を調節できます。
	ランチャーモードに切り替えます（→ P.65） ボタン上で手のアイコンを止めていると、本機能に対応しているソフトウェアを起動するためのランチャーが表示されます。
	マウスモードに切り替えます（→ P.66） マウスポインターの移動やクリックの操作ができます。 ボタン上に手のアイコンを置き、Web カメラに向かってまっすぐ前に出し、すばやく元に戻してください。

Point

- ジェスチャーコントロール機能に対応していないソフトウェアでも、カーソルモードで操作できます。ただし、すべてのソフトウェアについての動作を保証するものではありません。
- ジェスチャーコントロール機能に対応していないソフトウェアをカーソルモードで操作する場合は、次の手順でジェスチャーコントロール機能を有効にします。
  画面右下の通知領域にある をクリック▶表示された 、 、または を右クリック▶「オン（常時）」をクリック

ソフトウェアを起動する（ランチャーモード）

ジェスチャーコントロール機能に対応しているソフトウェアのランチャーが表示され、ソフトウェアを簡単な操作で起動できます。

1 **ジェスチャーコントロール機能を有効にします。**

2 **Web カメラに向かって、手を振ります。**
操作パネルが表示されます。

3 **に手のアイコンを移動します。**
ランチャーモードに切り替わります。

4 **各ボタンの上に手のアイコンを移動し、操作します。**
表示されるアイコンは機種や状況により異なります。

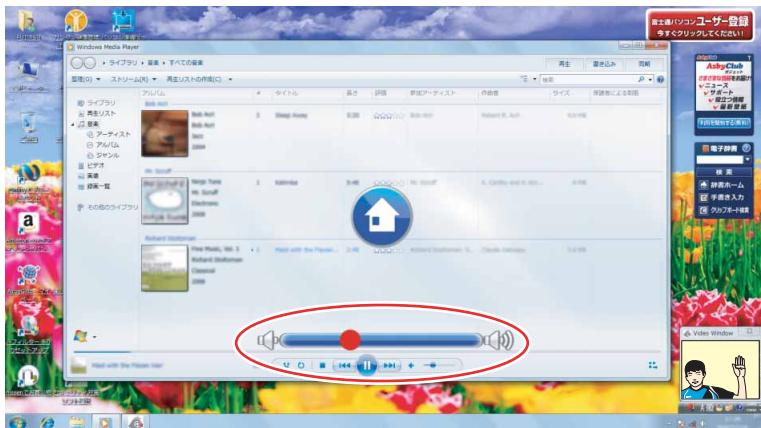
	Windows Media Center を起動します
	Windows Media Player を起動します
	WinDVD を起動します
	DigitalTVbox を起動します（搭載モデルのみ）
	PowerDVD を起動します（搭載モデルのみ）
	音量変更モードに切り替えます（→ P.66） 音量を変更するためのバーが表示されます。 表示されたバーの赤い●を動かすと、音量を調節できます。
	カーソルモードに切り替えます（→ P.64） 上下左右のカーソルキー、Back Space キー、Enter キーと同じ操作ができます。
	マウスモードに切り替えます（→ P.66） マウスポインターの移動やクリックの操作ができます。 ボタン上に手のアイコンを置き、Web カメラに向かってまっすぐ前に出し、すばやく元に戻してください。
	各アプリのメニューに戻ります

音量を調節する（音量変更モード）

1　🔊に手のアイコンを移動します。

音量を変更するためのバーが、画面の下側に表示されます。

2　表示されたバーの赤い●を左右に動かし、音量を調節します。

・右に動かすと音量が大きくなります
・左に動かすと音量が小さくなります

（画面は機種や状況により異なります）

3　音量を決定する位置で、手を上に動かします。

マウスモードで操作する

マウスポインターの移動やクリックの操作ができます。

1　ジェスチャーコントロール機能の動作中に、Web カメラに向かって、手を振ります。

操作パネルが表示されます。

2　中央にある🖱に手のアイコンを置き、Webカメラに向かって手をまっすぐ前に出し、すばやく元に戻します。

マウスモードに切り替わります。

3　クリックする位置に手のアイコンを移動し、手のアイコンが円で囲まれるまで静止します。

クリックが実行されます。

■ マウスメニューを有効に設定する

マウスメニューを有効に設定すると、右クリックや、ダブルクリック、ドラッグなどの操作ができるようになります。

1 **画面右下の通知領域にある をクリックし、表示された 、 または を右クリックします。**

2 **「設定」をクリックします。**

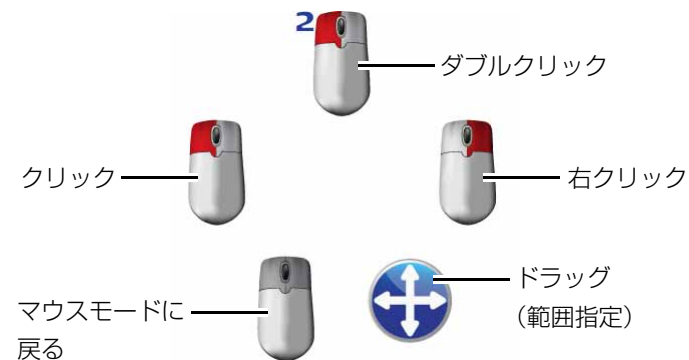
「PointGrab ハンドジェスチャーコントロールの設定」ウィンドウが表示されます。

3 **「マウスポインター」タブをクリックします。**

4 **「マウスメニューを有効にする」の をクリックして にします。**

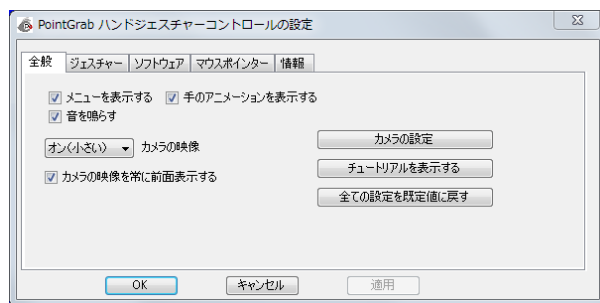
5 **「OK」をクリックします。**

■ マウスメニューで操作する

マウスメニューを有効に設定すると、次のようなボタンが表示されます。
各ボタンに手のアイコンを移動すると、対応するマウス操作が実行されます。

ジェスチャーコントロール機能の設定

1　画面右下の通知領域にある をクリックし、表示された 、 または を右クリックします。

2　「設定」をクリックします。

「PointGrab ハンドジェスチャーコントロールの設定」ウィンドウが表示されます。

3　設定を変更し、「OK」をクリックします。

●カメラ映像（「Video Window」）の設定を変更する

1.「全般」タブをクリックします。
2.「カメラの映像」の をクリックします。
画面右下のカメラ映像を表示しない場合は「オフ」、小さなウィンドウで表示する場合は「オン（小さい）」、大き目のウィンドウで表示する場合は「オン（通常）」をクリックします。

●操作するソフトウェアを設定する

1.「ソフトウェア」タブをクリックします。
2.「対応ソフトウェア」で、ジェスチャーコントロール機能で操作するソフトウェアの をクリックして にします。
3. 最前面に表示されているソフトウェアを操作する場合は、「選択されたウィンドウを操作する」の をクリックして にします。
この設定が の場合は、「対応ソフトウェア」で選択されているソフトウェアが先頭から順番に操作対象となります。

ジェスチャーコントロール機能で困ったら

次の表をご覧になり、発生したトラブルの解決方法がないかご確認ください。

症状	考えられる原因	対処方法
手を振っても、操作パネルが表示されない	ジェスチャーコントロール機能がオフになっている	画面右下の通知領域にある をクリックし、表示された を右クリックし、「オン（自動）」または「オン（常時）」をクリックしてください。
	手がWebカメラに写っていない	カメラ映像を見て、手が Web カメラに写っていることを確認しながら操作してください。
最前面に表示されているソフトウェアを操作できない	最前面に表示されているソフトウェアを操作するように設定されていない	最前面に表示されているソフトウェアを操作する場合は、「PointGrab ハンドジェスチャーコントロールの設定」ウィンドウの「ソフトウェア」タブで「選択されたウィンドウを操作する」の をクリックして にしてください。
「手をこちらへ」と表示される	手のアイコンが画面の中央から離れすぎている	手のアイコンが画面の中央にくるように、手を動かしてください。
音量が変更できない	手を動かすときに手の向きが変わっている	手を動かすときは、指が真上を向いたまま、手を動かすよう注意してください。

5. 通信

LAN

ここでは、LAN（有線 LAN）を使うために必要となるものや LAN ケーブルの接続方法、ネットワークの設定方法について説明しています。
無線 LAN をお使いになる場合には、「無線 LAN」（→ P.74）をご覧ください。

重要

- ネットワーク設定時のご注意
  TCP/IP などのネットワークの設定は、有線 LAN と無線 LAN で異なります。お使いになる状況に合わせて、必要な設定を行ってください。
- セキュリティ対策をしてください
  初めてインターネットに接続するときは必ずセキュリティ対策をしてください。
  このパソコンの出荷後、お客様にご購入いただくまでの間にも、セキュリティの脆弱性が新たに見つかったり、悪質なコンピューターウイルスが出現していたりする可能性があります。初めてインターネットに接続する場合は、マニュアルの手順に従って、パソコンを最新の状態にし、セキュリティ対策を行ってください。

必要なものを用意する

LAN を利用してインターネットに接続するには、次のような機器が必要です。

- ネットワーク機器
  ネットワーク接続の目的に合わせて、このパソコンで使える LAN のスピードを確認してから必要なものをご用意ください。ネットワーク機器には次のようなものがあります。
  ・ダイヤルアップルーター
  ・ブロードバンドルーター
  ・ブロードバンドモデム
  ・ハブ
- LAN ケーブル
  ストレートタイプとクロスタイプがあります。また、お使いになるネットワークのスピードに合ったものが必要です。接続するネットワーク機器のマニュアルをご覧になり、必要なものをご用意ください。
- ネットワーク機器のマニュアル
  お使いになるネットワーク機器によって、接続や設定の方法が異なります。必ずネットワーク機器のマニュアルや、プロバイダーや回線事業者から提供されるマニュアルもご覧ください。

LAN ケーブルを接続する

⚠警告

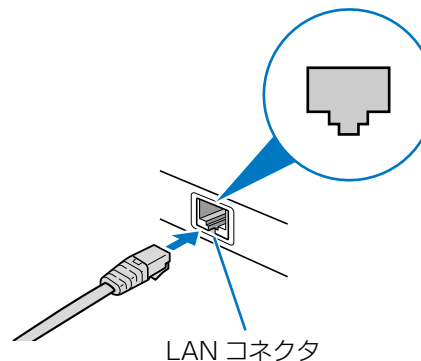
- 雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまでパソコン本体やケーブル類に触れないでください。ケーブル類の接続作業は、落雷の可能性がなくなるまで行わないでください。
  落雷の可能性がある場合は、あらかじめパソコン本体の電源を切り、その後電源コードをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。
  落雷による感電、火災の原因となります。

⚠注意

- LAN コネクタに指などを入れないでください。
  感電の原因となることがあります。

- LANケーブルを接続する場合は､必ずLANコネクタに接続してください。
  接続するコネクタを間違えると、故障の原因となることがあります。

1 **パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します。**

2 **パソコン本体の LAN コネクタに、LAN ケーブルの一方を接続し、もう一方を、お使いになるネットワーク機器のコネクタに接続します。**

コネクタはまたはの向きです。形を互いに合わせてしっかり差し込みます。

3 **ネットワーク機器の電源を入れます。**

4 **パソコン本体に AC アダプタを取り付け、電源を入れます。**

LAN を使用する場合は、消費電力が大きいので、AC アダプタのご使用をお勧めします。

Point

- スリープ／休止状態の解除をお勧めします
  LAN 機能を使ってネットワーク（インターネットなど）に接続中は、スリープや休止状態にしないことをお勧めします。お使いの環境によっては、ネットワーク（インターネットなど）への接続が正常に行われない場合があります。
  なお、ご購入時の状態では、一定時間パソコンを操作しないとスリープになるよう設定されていますので、前述のような不都合がある場合には、「スリープ／休止状態」－「スリープ／休止状態の設定変更」（→ P.93）をご覧になり、自動的にスリープにしない設定に変更してください。
- 省電力ユーティリティ搭載機種の方は
  有線 LAN 機能を使ってネットワーク（インターネットなど）に接続する場合は「省電力ユーティリティ」の「有線 LAN」の設定を「無効にする」にしたまま、省電力モードにしないでください。有線 LAN が使用できず、通信を行うことができません。詳しくは「省電力ユーティリティ（搭載機種のみ）」（→ P.97）をご覧ください。
- LAN ケーブルを取り外すときは
  LAN コネクタから LAN ケーブルを取り外すときは、プラグのツメを押さえながら引き抜いてください。ツメを押さえずに無理に引き抜くと破損の原因となります。

続いてネットワークの設定をします。

ネットワークの設定をする

ネットワークへは、「TCP/IP の設定」と「フルコンピューター名とワークグループの確認」を行うことにより接続することができます。

■ TCP/IP の設定

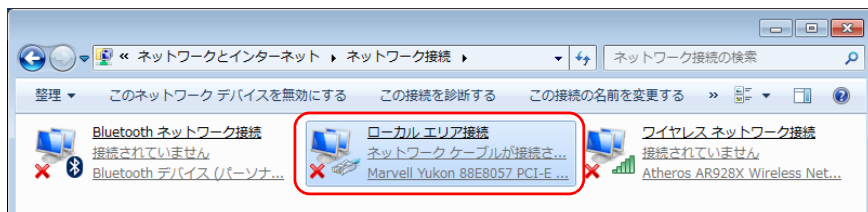
- TCP/IP の設定を変更する場合は、Windows に「コンピューターの管理者」アカウントまたは「Administrators」グループのメンバーとしてログオンしてください。

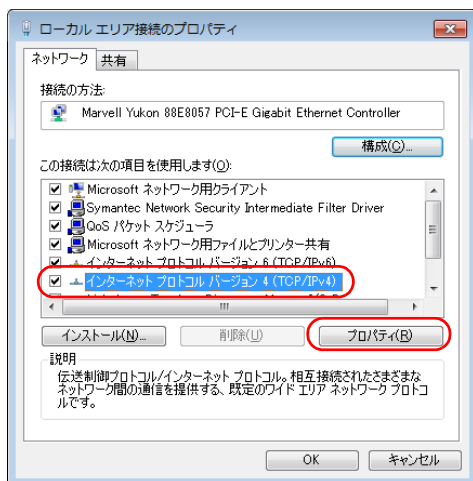
1 **（スタート）▶「コントロールパネル」▶「ネットワークとインターネット」の「ネットワークの状態とタスクの表示」の順にクリックします。**

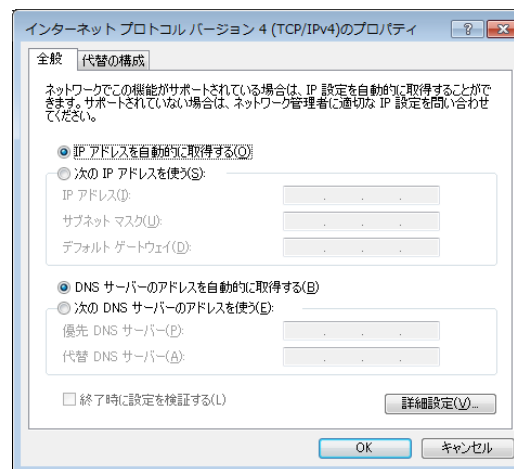
2 **「ネットワークと共有センター」ウィンドウ左の「アダプターの設定の変更」をクリックします。**

（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

ネットワーク接続の一覧が表示されます。

3 **一覧から「ローカルエリア接続」を右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックします。**

「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックして次に進みます。
管理者アカウントのパスワードが必要な場合は、そのパスワードを入力してから「はい」をクリックします。

4 **「この接続は次の項目を使用します」の一覧から、「インターネット プロトコル バージョン 4（TCP/IPv4）」をクリックし、「プロパティ」をクリックします。**

他のプロトコルのネットワークに接続する場合は、お使いのネットワークにあわせて設定してください。

5 **IP アドレスの設定をします。**

●ネットワーク上にブロードバンドルーターなどの DHCP サーバーがある場合

1.「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」が ◉ になっていることを確認します。
○ になっている場合は、○ をクリックして ◉ にします。

●ネットワーク上に DHCP サーバーがない場合

1.「次の IP アドレスを使う」の ○ をクリックして ◉ にします。
2.「IP アドレス」に IP アドレスを入力します。
例：192.168.0.1
3.「サブネットマスク」にサブネットマスクを入力します。
例：255.255.255.0

▸ IP アドレスの重複にご注意ください
パソコン本体の IP アドレスをブロードバンドモデムやルーター、お使いのネットワーク上にある他のパソコンと重複しないように設定してください。IP アドレスが重複すると、ネットワークによる通信ができません。

6 「OK」をクリックします。

7 「閉じる」をクリックします。

8 画面右上の をクリックし、表示されているすべてのウィンドウを閉じます。

続いて、フルコンピューター名、ワークグループを確認します。

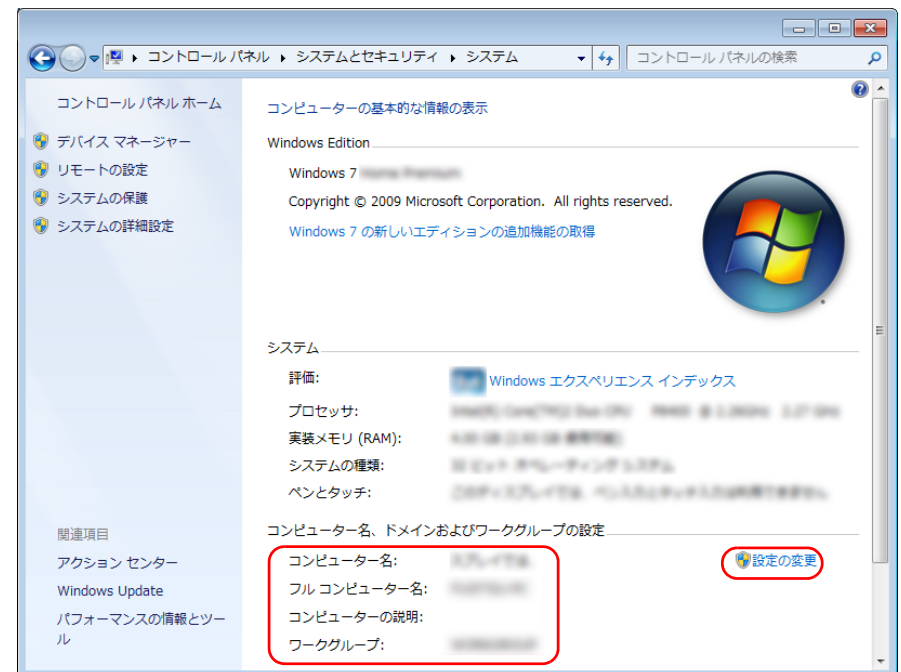
■ フルコンピューター名とワークグループの確認

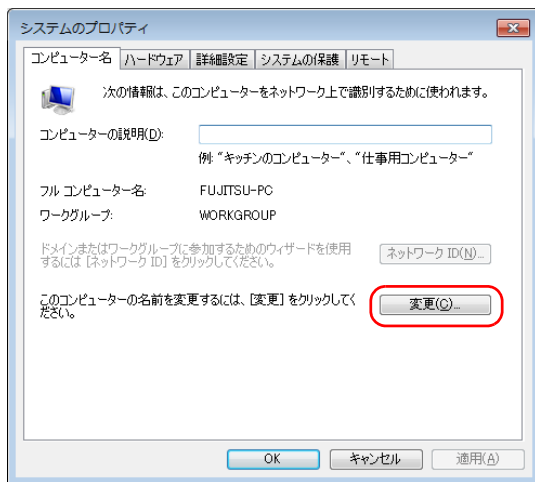
Point

- フルコンピューター名、ワークグループを変更する場合は、管理者権限を持つユーザーアカウントでログオンしてください。

1 (スタート)▶「コントロールパネル」▶「システムとセキュリティ」▶「システム」の「コンピューターの名前の参照」の順にクリックします。

「システム」ウィンドウが表示されます。

2 「コンピューター名、ドメインおよびワークグループの設定」の「フルコンピューター名」、「ワークグループ」を確認します。変更する場合は「設定の変更」をクリックします。

（これ以降の画面は状況により異なります）

3 **「システムのプロパティ」ウィンドウで「変更」をクリックして、「フルコンピューター名」または「ワークグループ」を変更します。**

●**フルコンピューター名**

ネットワーク上で、パソコンを識別するための名前です。設定するときは、他のパソコンと重複しないように、半角英数字 15 文字以内で名前を付けてください。機種名やパソコンの使用者名などをフルコンピューター名に設定すると、識別しやすくなります。

●**ワークグループ**

ネットワークにつながったパソコンの集まりを表します。複数のパソコンに共通のワークグループの名前を付けると、同じネットワークにつながっている「仲間」として、ネットワーク上でファイルやプリンターの共有が行えます。
ワークグループは、半角英数字 15 文字以内で好きな名前を付けることができます。通常、ネットワークを組むときは、各パソコンに同じワークグループを設定してください。

4 **「OK」をクリックします。**

再起動を確認するメッセージが表示された場合は、画面の指示に従って再起動してください。

無線 LAN

無線 LAN 搭載機種のみ

無線 LAN でインターネットに接続する方法については、『取扱説明書』－「セットアップする」－「インターネットの設定をする」－「無線 LAN でインターネットに接続する」をご覧ください。

無線 LAN をお使いになるうえでの注意

ここでは、無線 LAN をお使いになるうえで注意していただきたいことについて説明しています。

お使いのパソコンに搭載されている無線 LAN の種類をご確認ください。お使いの機種に搭載されている無線 LAN の種類は、「仕様確認表」（→ P.5）でご確認いただけます。

■ 無線 LAN 製品ご使用時におけるセキュリティに関する注意

重要

- お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です。

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線 LAN アクセスポイント（ワイヤレス LAN ステーション、ワイヤレスブロードバンドルーターなど）間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。
その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

● 通信内容を盗み見られる
悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、
・ID やパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報
・メールの内容
などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

● 不正に侵入される
悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、
・個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
・特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
・傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
・コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）
などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN アクセスポイントやパソコンに搭載されている無線 LAN は、これらの問題に対応するためのセキュリティのしくみをもっています。
そのため、別途ご購入された無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品の、セキュリティに関する設定を正しく行うことで、これらの問題が発生する可能性を少なくすることができます。
しかし、無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品は、ご購入時の状態ではセキュリティに関する設定が施されていない場合があります。
上記のようなセキュリティ問題が発生する可能性を少なくするためには、無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品に添付されている取扱説明書に従い、これらの製品のセキュリティに関するすべての設定を必ず行ってください。

なお、無線 LAN の仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解のうえ、ご使用ください。

セキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」までお問い合わせください。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解したうえで、お客様ご自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお勧めします。
セキュリティ対策を施さず、あるいは、無線 LAN の仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生した場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

■ 5GHz 帯のチャンネル（周波数帯）の種類

「IEEE 802.11a/b/g/n 準拠の無線 LAN」を搭載した機種をお使いの場合は、5GHz 帯を利用した無線 LAN を使用できます。

5GHz 帯を利用した無線 LAN には、W52、W53、W56 という 3 種類のチャンネル（周波数帯）があります。これは、2007 年 1 月 31 日および 2005 年 5 月 16 日に総務省により発表された「電波法施行規則の一部を改正する省令」により、5GHz 帯のチャンネル（周波数帯）の変更と、新チャンネルの追加が行われたためです。

IEEE802.11b/g
IEEE802.11a
J52 W52 W53 W56

- アドホック通信の場合は
  このパソコンのアドホック通信では、5GHz 帯を使用できません。
- 「IEEE 802.11a/b/g/n 準拠の無線 LAN」を搭載した機種をお使いの場合は、IEEE 802.11n では、2.4GHz/5GHz 両方の周波数帯のチャンネルを使用します。

■ 電波放射の環境への影響

- このパソコンは、他の高周波デバイス同様に、高周波エネルギーを放出していますが、このパソコンが放出するエネルギーのレベルは、例えば携帯電話のような無線デバイスが放出する電磁エネルギーよりはるかに低く抑えられています。
- このパソコンは、高周波安全基準および勧告のガイドライン内で動作するため、本製品の使用者に対し、安全性を確信しています。本基準および勧告は、科学界の統一見解を反映しており、研究班の審議および広範な研究文献を継続的に調査し解釈する科学者たちの委員会を根本としています。
- ある状況や環境において、このパソコンの使用は、建物の所有者や団体の責任ある代表者により制限されることがあります。例えば、下記にあげる場合です。
  ・他のデバイスやサービスに対し干渉の危険がある環境での使用
- 特定の団体や環境（例えば空港）で無線デバイスの使用に適用される方針が明確にわからない場合は、機器の電源を入れる前に本製品の使用許可について問い合わせをしてください。

■ 電波放射の人体への影響

このパソコンから放射される出力パワーは、例えば携帯電話が放射する電波のレベルよりはるかに低くなっています。それでも、このパソコンは、通常の動作中に人間の接触に対し電位が最小限にとどめられるように使用されなくてはなりません。使用中はこのパソコンのアンテナ部分に極力触れないでください。

無線 LAN アンテナの場所については、『取扱説明書』－「各部の名称と働き」をご覧ください。

■ 無線 LAN による通信を行うための注意

- 「IEEE 802.11a/b/g/n 準拠の無線 LAN」を搭載した機種をお使いの場合、電波法の定めにより W56 のチャンネルは屋外でご利用になれますが、W52、W53 のチャンネルは屋外でご利用になれません。このパソコンに内蔵の無線 LAN を 5GHz 帯でご使用になる場合、特定のチャンネルの電波の発信を停止することはできないため、屋外ではご利用になれません。
- このパソコンは、日本国内での無線規格に準拠し、認定を取得しています。日本国内でのみお使いいただけます。また、海外でご使用になると罰せられることがあります。
- 航空機内での使用は、各航空会社に事前にご確認ください。
- IEEE 802.11gとIEEE 802.11bが混在する環境では、IEEE 802.11gはIEEE 802.11b との互換性をとるため、IEEE 802.11g 本来の性能が出ない場合があります。IEEE 802.11g 本来の性能が必要な場合は、IEEE 802.11g と IEEE 802.11b を別の無線 LAN ネットワークにし、使用しているチャンネルの間隔を 5 チャンネル以上空けてお使いください。
- このパソコンの使用中、特に無線 LAN で通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。通信性能が低下する場合があります。
  また、このパソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所を避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。
  無線 LAN アンテナの場所については、『取扱説明書』－「各部の名称と働き」をご覧ください。
- このマニュアルに従わずに設定したり使用したりすると、無線通信に有害な干渉を生じることがあります。
- このパソコンがラジオ、テレビの受信機に有害な干渉を与える原因となっている場合は（このパソコンの電源を入／切することで原因となっているかが判別できます）、次の方法で干渉を取り除くようにしてください。
  - ・このパソコンと受信機の距離を離す
  - ・受信機を接続しているコンセントと別系統回路のコンセントにこのパソコンを接続する
  - ・経験のあるラジオ／テレビ技術者に相談する
- このパソコンの不正な改造は行わないでください。不正な改造により発生した、ラジオやテレビへの干渉についての責任は負いません。
- 近くに他のチャンネルを使用している無線 LAN 機器がある場合、干渉により本来の性能が出ない場合があります。この場合、他のチャンネルを使用している無線 LAN 機器と使用しているチャンネルの間隔を空けるように変更して、干渉の影響が最小となるチャンネルでお使いください。それでも解決しない場合は、他のチャンネルを使用している無線 LAN 機器から 3m 以上離して干渉の影響が最小となる場所でお使いください。

■ 良好な通信を行うために

- パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、次のとおりです。

無線 LAN の種類	推奨する最大通信距離
IEEE 802.11a 準拠	見通し半径 15m 以内
IEEE 802.11b、IEEE 802.11g 準拠	見通し半径 25m 以内
IEEE 802.11n 準拠	見通し半径 50m 以内

ただし、無線 LAN の特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、電波状況などの使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。

- パソコン本体は、他の電気機器から離して設置してください。パソコン本体と電源が入った電気機器を近づけていると、正常に通信できなかったり、電気機器の障害になったりすることがあります。正常に通信できない場合は、使用するチャンネルや使用場所を変更してください。特に、電子レンジなどの強い高周波エネルギーを出す機器の使用時は、影響を受けやすく、正常に通信できないことがあります。
- 放送局や無線機などが近く、正常に通信できないときは、パソコン本体の設置場所を変えてみてください。周囲の電波が強すぎると、正常に通信できないことがあります。
- このパソコンの無線LANは、Bluetoothワイヤレステクノロジー機器と同じ周波数帯（2.4GHz 帯）を使用するため、パソコン本体の近辺で Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を使用すると電波干渉が発生し、通信速度の低下や接続不能になる場合があります。
- Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器との電波干渉を防ぐには、次の対策を行うと、電波の干渉を防ぐことができる場合があります。
  - ・Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器とパソコン本体との間は 10m 以上離して使用する。
  - ・Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器の電源を切る。（Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を内蔵している場合や、単独で電源を切れないものを除く）
  - ・Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器の電波を、ユーティリティを使って停止する（Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を内蔵している場合）。
  - ・「IEEE 802.11a/b/g/n 準拠の無線 LAN」を搭載した機種をお使いの場合、無線 LAN の 5GHz 帯を利用する（ただし利用できるのは屋内のみ）。
- 「IEEE 802.11a/b/g/n準拠の無線LAN」を搭載した機種をお使いの場合、5GHz帯チャンネルの W53（52 ～ 64ch）、W56（100 ～ 140ch）では、無線 LAN アクセスポイントの DFS 機能が作動した場合、W53/W56 の通信はいったん切断されます。DFS 機能により、その無線 LAN アクセスポイントが再起動した場合は、W53/W56 以外のすべての通信もいったん切断されます。

無線 LAN の仕様

お使いの機種に搭載されている無線 LAN の種類は、「仕様確認表」（→ P.5）でご確認いただけます。

お使いの機種によって、無線 LAN の仕様が異なります。お使いの無線 LAN デバイスに対応した仕様をご覧ください。

■ タイプ 1 の無線 LAN 搭載機種の場合

項目	仕様
ネットワーク種類	IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠、 IEEE 802.11n 準拠、（Wi-Fi® 準拠）[注 1]
転送レート	DS-SS：11 ～ 1Mbps（自動切り替え） OFDM：150 ～ 6Mbps （自動切り替え、40MHz 帯域幅システム／ HT40 時）、 65 ～ 6Mbps （自動切り替え、20MHz 帯域幅システム／ HT20 時）、 54 ～ 6Mbps（自動切り替え、レガシーモード時）
使用周波数	2,400MHz ～ 2,483.5MHz
チャンネル数 [注 7]	IEEE 802.11b準拠：1 ～ 13ch（DS-SS）（そのうち1chを使用） IEEE 802.11g準拠：1 ～ 13ch（OFDM）（そのうち1chを使用） IEEE 802.11n 準拠：20MHz 帯域幅システム（HT20）（OFDM）（下記のうち 1ch を使用） 2.4GHz モード 1 ～ 13ch 40MHz 帯域幅システム（HT40）（OFDM）（下記のうち 1ch を使用）[注 2] [注 3] 2.4GHz モード [1、5]/[2、6]/[3、7]/[4、8]/[5、9]/[6、10]/[7、11]ch[注 4]

項目	仕様
セキュリティ [注8]	SSID（ネットワーク名） WEP（セキュリティキー（WEP キー）：64/128 ビット） [注5] WPA- パーソナル（WPA-PSK）（TKIP/AES） WPA2- パーソナル（WPA2-PSK）（TKIP/AES） WPA- エンタープライズ（WPA）（TLS/PEAP）（TKIP/AES） WPA2- エンタープライズ（WPA2）（TLS/PEAP）（TKIP/AES） IEEE 802.1X（TLS/PEAP）
無線 LAN の最大接続推奨台数（アドホック通信時）	10 台以下 [注6]

注1：Wi-Fi® 準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示します。

注2：IEEE 802.11n では 40MHz 帯域幅システム（HT40）に対応しています。HT40 を利用するには、無線LANアクセスポイントもHT40に対応している必要があります。

注3：IEEE 802.11n では無線 LAN アクセスポイントの設定において HT40 の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちに HT40 の機能を無効にしてください。

注4：［m、n］は、2 つの m および n チャンネルの周波数帯が 1 つにまとまったチャンネルを表します。

注5：WEP による暗号化は上記ビット数で行いますが、ユーザーが設定可能なビット数は固定長 24 ビットを引いた 40 ビット /104 ビットです。

注6：IEEE 802.11n ではアドホック通信はできません。アドホック通信時は自動的にレガシーモード（IEEE 802.11b/IEEE 802.11g）で接続されます。また、お使いになる環境によっては接続可能台数が減少することがあります。

注7：このパソコンに搭載されている無線 LAN の IEEE 802.11b では、無線チャンネルとしてチャンネル 1 ～ 13 を使用しています。
無線 LAN アクセスポイントのチャンネルを、1 ～ 13 の間で設定してください。設定方法については、無線 LAN アクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

注8：IEEE 802.11n で接続するためには、パスフレーズ（PSK）を AES に設定する必要があります。

■ タイプ 2 の無線 LAN 搭載機種の場合

項目	仕様
ネットワーク種類	IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠、IEEE 802.11n 準拠（Wi-Fi® 準拠） [注1]
転送レート	DS-SS：11 ～ 1Mbps（自動切り替え） OFDM：300 ～ 6Mbps （自動切り替え、40MHz 帯域幅システム／ HT40 時）、 130 ～ 6Mbps （自動切り替え、20MHz 帯域幅システム／ HT20 時）、 54 ～ 6Mbps（自動切り替え、レガシーモード時）
使用周波数	2,400MHz ～ 2,483.5MHz
チャンネル数 [注7]	IEEE 802.11b 準拠：1 ～ 13ch（DS-SS）（そのうち 1ch を使用） IEEE 802.11g 準拠：1 ～ 13ch（OFDM）（そのうち 1ch を使用） IEEE 802.11n 準拠：20MHz 帯域幅システム（HT20）（OFDM）（下記のうち 1ch を使用） 2.4GHz モード 1 ～ 13ch 40MHz 帯域幅システム（HT40）（OFDM）（下記のうち 1ch を使用） [注2] [注3] 2.4GHz モード [1、5]/[2、6]/[3、7]/[4、8]/[5、9]/[6、10]/[7、11]ch [注4]
セキュリティ [注8]	SSID（ネットワーク名） WEP（セキュリティキー（WEP キー）：64/128 ビット） [注5] WPA- パーソナル（WPA-PSK）（TKIP/AES） WPA2- パーソナル（WPA2-PSK）（TKIP/AES） WPA- エンタープライズ（WPA）（TLS/PEAP）（TKIP/AES） WPA2- エンタープライズ（WPA2）（TLS/PEAP）（TKIP/AES） IEEE 802.1X（TLS/PEAP）
無線 LAN の最大接続推奨台数（アドホック通信時）	10 台以下 [注6]

注 1：Wi-Fi® 準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示します。

注 2：IEEE 802.11n では 40MHz 帯域幅システム（HT40）に対応しています。HT40 を利用するには、無線LANアクセスポイントもHT40に対応している必要があります。

注 3：IEEE 802.11n では無線 LAN アクセスポイントの設定において HT40 の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちに HT40 の機能を無効にしてください。

注 4：［m、n］は、2 つの m および n チャンネルの周波数帯が 1 つにまとまったチャンネルを表します。

注 5：WEP による暗号化は上記ビット数で行いますが、ユーザーが設定可能なビット数は固定長 24 ビットを引いた 40 ビット /104 ビットです。

注 6：IEEE 802.11n ではアドホック通信はできません。アドホック通信時は自動的にレガシーモード（IEEE 802.11b/IEEE 802.11g）で接続されます。また、お使いになる環境によっては接続可能台数が減少することがあります。

注 7：このパソコンに搭載されている無線 LAN の IEEE 802.11b では、無線チャンネルとしてチャンネル 1 〜 13 を使用しています。無線 LAN アクセスポイントのチャンネルを、1 〜 13 の間で設定してください。設定方法については、無線 LAN アクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

注 8：IEEE 802.11n で接続するためには、パスフレーズ（PSK）を AES に設定する必要があります。

■ タイプ 3 の無線 LAN 搭載機種の場合

項目	仕様
ネットワーク種類	IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠、IEEE 802.11n 準拠（Wi-Fi® 準拠）［注 1］
転送レート	DS-SS：11 〜 1Mbps（自動切り替え） OFDM：150 〜 6Mbps（送信時）、300 〜 6Mbps（受信時） （自動切り替え、40MHz 帯域幅システム／ HT40 時）、 65 〜 6Mbps（送信時）、130 〜 6Mbps（受信時） （自動切り替え、20MHz 帯域幅システム／ HT20 時）、 54 〜 6Mbps（自動切り替え、レガシーモード時）
使用周波数	2,400MHz 〜 2,483.5MHz
チャンネル数［注 7］	IEEE 802.11b 準拠：1 〜 13ch（DS-SS）（そのうち 1ch を使用） IEEE 802.11g 準拠：1 〜 13ch（OFDM）（そのうち 1ch を使用） IEEE 802.11n 準拠：20MHz 帯域幅システム（HT20）（OFDM）（下記のうち 1ch を使用） 2.4GHz モード 1 〜 13ch 40MHz 帯域幅システム（HT40）（OFDM）（下記のうち 1ch を使用）［注 2］［注 3］ 2.4GHz モード [1、5]/[2、6]/[3、7]/[4、8]/[5、9]/[6、10]/[7、11]ch［注 4］
セキュリティ［注 8］	SSID（ネットワーク名） WEP（セキュリティキー（WEP キー）：64/128 ビット）［注 5］ WPA- パーソナル（WPA-PSK）（TKIP/AES） WPA2- パーソナル（WPA2-PSK）（TKIP/AES） WPA- エンタープライズ（WPA）（TLS/PEAP）（TKIP/AES） WPA2- エンタープライズ（WPA2）（TLS/PEAP）（TKIP/AES） IEEE 802.1X（TLS/PEAP）
無線 LAN の最大接続推奨台数（アドホック通信時）	10 台以下［注 6］

注１：Wi-Fi® 準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示します。

注２：IEEE 802.11n では 40MHz 帯域幅システム（HT40）に対応しています。HT40を利用するには、無線LANアクセスポイントもHT40に対応している必要があります。

注３：IEEE 802.11n では無線 LAN アクセスポイントの設定において HT40 の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちに HT40 の機能を無効にしてください。

注４：［m、n］は、2 つの m および n チャンネルの周波数帯が 1 つにまとまったチャンネルを表します。

注５：WEP による暗号化は上記ビット数で行いますが、ユーザーが設定可能なビット数は固定長 24 ビットを引いた 40 ビット /104 ビットです。

注６：IEEE 802.11n ではアドホック通信はできません。アドホック通信時は自動的にレガシーモード（IEEE 802.11b/IEEE 802.11g）で接続されます。また、お使いになる環境によっては接続可能台数が減少することがあります。

注７：このパソコンに搭載されている無線 LAN の IEEE 802.11b では、無線チャンネルとしてチャンネル 1 ～ 13 を使用しています。無線 LAN アクセスポイントのチャンネルを、1 ～ 13 の間で設定してください。設定方法については、無線 LAN アクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

注８：IEEE 802.11n で接続するためには、パスフレーズ（PSK）を AES に設定する必要があります。

■ タイプ４の無線 LAN 搭載機種の場合

項目	仕様
ネットワーク種類	IEEE 802.11a 準拠、IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠、IEEE 802.11n 準拠、（5GHz 帯のチャンネルは W52/W53/W56 です）（Wi-Fi® 準拠）[注 1]
転送レート	DS-SS：11 ～ 1Mbps（自動切り替え） OFDM：300 ～ 6Mbps （自動切り替え、40MHz 帯域幅システム／ HT40 時）、 130 ～ 6Mbps （自動切り替え、20MHz 帯域幅システム／ HT20 時）、 54 ～ 6Mbps（自動切り替え、レガシーモード時）
使用周波数	2,400MHz ～ 2,483.5MHz 5,150MHz ～ 5,340MHz 5,460MHz ～ 5,740MHz

項目	仕様
チャンネル数 [注 8]	IEEE 802.11b 準拠：1 ～ 13ch（DS-SS）（そのうち 1ch を使用） IEEE 802.11g 準拠：1 ～ 13ch（OFDM）（そのうち 1ch を使用） IEEE 802.11a（W52/W53/W56）準拠：36/40/44/48/52/56/60/64/100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch（OFDM）（そのうち 1ch を使用）[注 2] IEEE 802.11n 準拠： 20MHz 帯域幅システム（HT20）（OFDM）（下記のうち 1ch を使用） 5GHz モード W52（36/40/44/48）/W53（52/56/60/64）/W56（100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140)ch[注 2] 2.4GHz モード 1 ～ 13ch 40MHz 帯域幅システム（HT40）（OFDM）（下記のうち 1ch を使用）[注 3][注 4] 5GHz モード W52（[36、40] / [44、48]）/W53（[52、56] / [60、64]）/W56（[100、104] / [108、112] / [116、120] / [124、128] / [132、136]）ch [注 2][注 5] 2.4GHz モード [1、5]/[2、6]/[3、7]/[4、8]/[5、9]/[6、10]/[7、11]ch[注 5]
セキュリティ [注 9]	SSID（ネットワーク名） WEP（セキュリティキー（WEP キー）：64/128 ビット）[注 6] WPA- パーソナル（WPA-PSK）（TKIP/AES） WPA2- パーソナル（WPA2-PSK）（TKIP/AES） WPA- エンタープライズ（WPA）（TLS/PEAP）（TKIP/AES） WPA2- エンタープライズ（WPA2）（TLS/PEAP）（TKIP/AES） IEEE 802.1X（TLS/PEAP）
無線 LAN の最大接続推奨台数（アドホック通信時）	10 台以下 [注 7]

注 1：Wi-Fi® 準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示します。

注 2：次のチャンネルが使用可能です。
・W52：36（5,180MHz）/40（5,200MHz）/44（5,220MHz）/48（5,240MHz）
・W53：52（5,260MHz）/56（5,280MHz）/60（5,300MHz）/64（5,320MHz）
・W56：100（5,500MHz）/104（5,520MHz）/108（5,540MHz）/112（5,560MHz）/116（5,580MHz）/120（5,600MHz）/124（5,620MHz）/128（5,640MHz）/132（5,660MHz）/136（5,680MHz）/140（5,700MHz）

注 3：IEEE 802.11n では 40MHz 帯域幅システム（HT40）に対応しています。HT40 を利用するには、無線 LAN アクセスポイントも HT40 に対応している必要があります。

注 4：IEEE 802.11n を使用する際の無線 LAN アクセスポイントの設定で、HT40 の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちに HT40 の機能を無効にしてください。

注 5：[m、n] は、2 つの m および n チャンネルの周波数帯が 1 つにまとまったチャンネルを表します。

注 6：WEP による暗号化は上記ビット数で行いますが、ユーザーが設定可能なビット数は固定長 24 ビットを引いた 40 ビット /104 ビットです。

注 7：IEEE 802.11n ではアドホック通信はできません。アドホック通信時は自動的にレガシーモード（IEEE 802.11b/IEEE 802.11g）で接続されます。また、お使いになる環境によっては、接続可能台数は減少することがあります。

注 8：このパソコンに搭載されている無線 LAN の IEEE 802.11b では、無線チャンネルとしてチャンネル 1 ～ 13 を使用しています。無線 LAN アクセスポイントのチャンネルを、1 ～ 13 の間で設定してください。設定方法については、無線 LAN アクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

注 9：IEEE 802.11n で接続するためには、パスフレーズ（PSK）を AES に設定する必要があります。

Bluetooth ワイヤレステクノロジー

Bluetooth ワイヤレステクノロジー搭載機種のみ

ここでは、Bluetooth ワイヤレステクノロジーを使用する方法について説明しています。

お使いの機種に搭載されている Bluetooth ワイヤレステクノロジーの種類は、「仕様確認表」(→ P.5) でご確認いただけます。

お使いの機種によって、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの仕様が異なります。お使いのBluetoothワイヤレステクノロジーモジュールに対応した仕様をご覧ください。

Bluetooth ワイヤレステクノロジーとは

Bluetooth ワイヤレステクノロジーとは、ヘッドセットやモデム、携帯電話などの周辺機器や他の Bluetooth ワイヤレステクノロジー搭載のパソコンなどに、ケーブルを使わず電波で接続できる技術です。

Bluetooth ワイヤレステクノロジーの特長

このパソコンのBluetoothワイヤレステクノロジーの主な特長は、次のとおりです。なお、すべての Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器に接続可能なことを保証するものではありません。

■ タイプ 1 の Bluetooth ワイヤレステクノロジー搭載機種の場合

- 出力 Class2、Bluetooth v2.1+EDR に準拠しています。Bluetooth v2.1+EDR およびそれ以前の規格に準拠した機器と接続が可能です。
- 最大通信速度は 2.1Mbps (Bluetooth v2.1+EDR の理論上の最大値) です。ただし、実際の通信速度はお使いの環境により異なります。

■ タイプ 2 の Bluetooth ワイヤレステクノロジー搭載機種の場合

- 出力 Class2、Bluetooth v3.0 に準拠しています。Bluetooth v3.0 およびそれ以前の規格に準拠した機器と接続が可能です。
- 最大通信速度は 2.1Mbps (Bluetooth v3.0 の理論上の最大値) です。ただし、実際の通信速度はお使いの環境により異なります。

■ タイプ 3 の Bluetooth ワイヤレステクノロジー搭載機種の場合

- 出力 Class2、Bluetooth v3.0+HS に準拠しています。Bluetooth v3.0+HS およびそれ以前の規格に準拠した機器と接続が可能です。
- 最大通信速度は 24Mbps (Bluetooth v3.0+HS の理論上の最大値) です。ただし、実際の通信速度はお使いの環境により異なります。

必要なものを用意する

● Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器
Bluetooth ワイヤレステクノロジーを利用してパソコンと接続する機器です。お使いのパソコンに搭載されている Bluetooth ワイヤレステクノロジーの規格に対応したものをご用意ください。なお、Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器には次のようなものがあります。お使いになる目的に応じてご用意ください。
・キーボード
・マウス
・プリンター
・ヘッドセット
・携帯電話

● Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアル
お使いになる Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器によって設定方法が異なる場合があります。必ず Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアルもご覧ください。

重要

- ペアリングコード（PIN またはパスコード）について
パソコンと Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器の接続（ペアリング）設定をするときには、機器によっては「ペアリングコード（PIN またはパスコード）」が必要になる場合があります。「ペアリングコード（PIN またはパスコード)」については、後述の「Windows ヘルプとサポート」および Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアルをご覧ください。
- プロファイルについて
Bluetooth ワイヤレステクノロジーには「プロファイル」という仕様があり、同じプロファイルをもつ Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器どうしを接続し、そのプロファイルの機能を使用することができます。このパソコンには、このパソコンがサポートしているプロファイルに対応した Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を使用することができます。このパソコンがサポートしているプロファイルは HID、HCRP、DUN、SPP、OPP、PAN、A2DP、AVRCP、HSP、HFP、FTP、BIP です。

Bluetooth ワイヤレステクノロジーを使うための設定をする

パソコンと Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を接続するためには、「デバイスとプリンター」を使用します。
「デバイスとプリンター」の使用方法については、「Windows ヘルプとサポート」の「Bluetooth デバイスを追加する」をご覧ください。

「Windows ヘルプとサポート」の「Bluetooth デバイスを追加する」は次の手順で起動します。

1 **（スタート）▶「ヘルプとサポート」▶「（ヘルプの参照）」▶「ハードウェア、デバイス、ドライバー」▶「Bluetooth」▶「Bluetooth デバイスを追加する」の順にクリックします。**
「Windows ヘルプとサポート」の「Bluetooth デバイスを追加する」が起動します。

Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波を発信する／停止する

パソコンに搭載されているBluetoothワイヤレステクノロジーの電波を発信／停止する方法について説明します。
病院や飛行機内、その他電子機器使用の規制がある場所では、あらかじめBluetoothワイヤレステクノロジーの電波を停止してください。

Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波の発信／停止には、次の 2 つの方法があります。

Point

- 省電力モードで Bluetooth ワイヤレステクノロジーを無効にする設定にしている場合は、通常モードにしてください（省電力ユーティリティ搭載機種のみ）。

- ワイヤレススイッチで電波を発信／停止する
Bluetooth ワイヤレステクノロジーを含む、すべての無線機器の電波を発信／停止します。
- Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波だけを発信／停止する
パソコン本体のワイヤレススイッチが ON になっている状態で、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波の発信／停止だけを切り替えます。
例えば、無線 LAN の電波は発信したまま、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波を停止したいときなどに便利です。

■ ワイヤレススイッチで電波を発信／停止する

ワイヤレススイッチの場所については、『取扱説明書』－「各部の名称と働き」をご覧ください。

Point

- ワイヤレススイッチで電波を発信／停止した場合、無線 LAN、およびモバイル WiMAX の電波も、同時に発信／停止されます。
- Bluetooth ワイヤレステクノロジーモジュールで「アダプターを無効にする」を設定している場合には、「アダプターを有効にする」にしてください。
  - ・タイプ 1 の Bluetooth ワイヤレステクノロジー搭載機種をお使いの場合は、「「Bluetooth Feature Pack」のヘルプファイル」をご覧ください。
    「Bluetooth Feature Pack」のヘルプファイル」は次の手順で起動します。
    (スタート)▶「すべてのプログラム」▶「Bluetooth Feature Pack 5.0」▶「ヘルプ Bluetooth Feature Pack 5.0」

1 **パソコン本体のワイヤレススイッチを矢印の方向にスライドして、電波を発信します。**

（これ以降のイラストは機種や状況により異なります）

Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波の発信を開始します。

2 **パソコン本体のワイヤレススイッチを矢印の方向にスライドして、電波を停止します。**

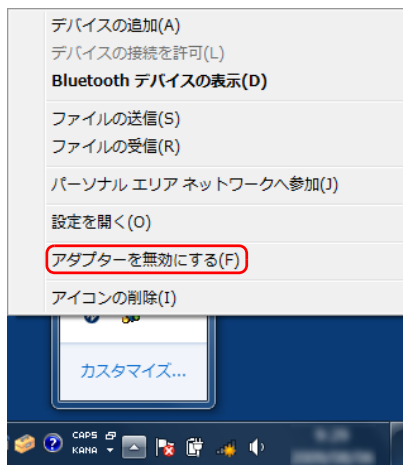
Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波が停止します。

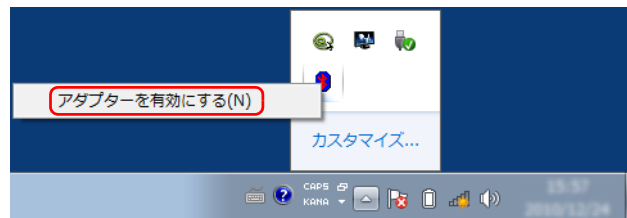
■ Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波だけを発信／停止する

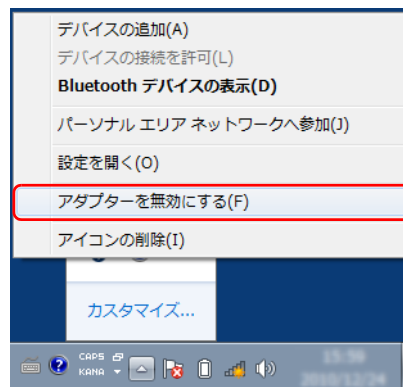
□タイプ 1 の Bluetooth ワイヤレステクノロジー搭載機種の場合

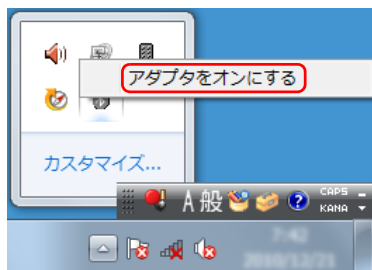
1 **画面右下の通知領域にある をクリックし、表示された Bluetooth アイコン を右クリックし、表示されるメニューから「アダプターを有効にする」をクリックして、電波を発信します。**

（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

2 画面右下の通知領域にある をクリックし､表示された Bluetooth アイコン を右クリックし、表示されるメニューから「アダプターを無効にする」をクリックして、電波を停止します。

□タイプ 2 の Bluetooth ワイヤレステクノロジー搭載機種の場合

1 画面右下の通知領域にある をクリックし､表示された Bluetooth アイコン を右クリックし、表示されるメニューから「アダプターを有効にする」をクリックして、電波を発信します。

（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

2 画面右下の通知領域にある をクリックし､表示された Bluetooth アイコン を右クリックし、表示されるメニューから「アダプターを無効にする」をクリックして、電波を停止します。

□タイプ 3 の Bluetooth ワイヤレステクノロジー搭載機種の場合

1 **画面右下の通知領域にある をクリックし、表示された Bluetooth アイコン を右クリックし、表示されるメニューから「アダプタをオンにする」をクリックして、電波を発信します。**

（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

2 **画面右下の通知領域にある をクリックし、表示された Bluetooth アイコン を右クリックし、表示されるメニューから「アダプターを無効にする」をクリックして、電波を停止します。**

Bluetooth ワイヤレステクノロジーをお使いになるうえでの注意

ここでは、Bluetooth ワイヤレステクノロジーをお使いになるうえで注意していただきたいことについて説明しています。

■ Bluetooth ワイヤレステクノロジーご使用時におけるセキュリティに関する注意

重要

- お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です。

Bluetooth ワイヤレステクノロジーでは、電波を利用して周辺機器や他のパソコンとの間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に接続が可能であるという利点があります。
その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

● 通信内容を盗み見られる
悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、ID やパスワード、その他の個人情報などの通信内容を盗み見る可能性があります。

● 不正に使用される
悪意ある第三者が、無断で個人や会社内の周辺機器やパソコンへアクセスし、次の行為をされてしまうおそれがあります。
・個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
・特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
・傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
・コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

このパソコンおよび一部の周辺機器や他のパソコンに内蔵されているBluetoothワイヤレステクノロジーは、これらの問題に対応するためのセキュリティのしくみをもっています。
そのため、別途ご購入された Bluetooth ワイヤレステクノロジー搭載の周辺機器や他のパソコンがセキュリティのしくみをもっている場合、セキュリティに関する設定を正しく行うことで、これらの問題が発生する可能性を少なくすることができます。しかし、Bluetooth ワイヤレステクノロジー内蔵の周辺機器や他のパソコンは、ご購入時の状態ではセキュリティに関する設定が施されていない場合があります。
上記のようなセキュリティ問題が発生する可能性を少なくするためには、周辺機器や他のパソコンに添付されている取扱説明書に従い、これらの製品のセキュリティに関するすべての設定を必ず行ってください。
なお、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解のうえ、ご使用ください。

セキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」までお問い合わせください。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解したうえで、お客様ご自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお勧めします。
セキュリティ対策を施さず、あるいは、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生した場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

■ Bluetooth ワイヤレステクノロジーによる通信を行うための注意

- パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、見通し半径10m以内（出力 Class2 の最大値）です。
  ただし、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、電波状況などの使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。
- このパソコンの Bluetooth ワイヤレステクノロジー用アンテナは、パソコン本体に内蔵されています。このパソコンの使用中、特に Bluetooth ワイヤレステクノロジーの通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。通信性能が低下する場合があります。
  また、このパソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所を避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。
  Bluetooth ワイヤレステクノロジー用アンテナの場所については、『取扱説明書』－「各部の名称と働き」をご覧ください。
- パソコン本体は、他の電気機器から離して設置してください。パソコン本体と電源が入った電気機器を近づけていると、正常に通信できなかったり、電気機器の障害になったりすることがあります。正常に通信できない場合は、使用場所を変更してください。特に、電子レンジなどの強い高周波エネルギーを出す機器の使用時は、影響を受けやすく、正常に通信できないことがあります。
- 放送局や無線機などが近く、正常に通信できないときは、パソコン本体の設置場所を変えてみてください。周囲の電波が強すぎると、正常に通信できないことがあります。
- BluetoothワイヤレステクノロジーはIEEE 802.11b、IEEE 802.11gやIEEE 802.11n の 2.4GHz 帯規格の無線 LAN と同じ周波数帯の電波を使用します。そのため、ご使用の状態によっては無線 LAN と Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波が干渉し、他のパソコンなどとの通信速度が低下したり、Bluetooth ワイヤレステクノロジーで接続したワイヤレスヘッドホンなどの音質が悪くなったりする場合があります。

- 無線 LAN 機器との電波干渉を防ぐには、次の対策を行うと、電波の干渉を防ぐことができる場合があります。
  - ・無線 LAN 機器とパソコン本体との間は 10m 以上離して使用する。
  - ・無線 LAN 機器の電源を切る。
  - ・無線 LAN 機器の電波を、ユーティリティを使って停止する。
  - ・無線 LAN の 5GHz 帯を利用する（ただし利用できるのは屋内のみ）。
- このパソコンに USB アダプタ型などの他の Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を取り付けて、同時に使用しないでください。

■ 電波放射の環境への影響

- このパソコンは、他の高周波デバイス同様に、高周波エネルギーを放出していますが、このパソコンが放出するエネルギーのレベルは、例えば携帯電話のような無線デバイスが放出する電磁エネルギーよりはるかに低く抑えられています。
- このパソコンは、高周波安全基準および勧告のガイドライン内で動作するため、このパソコンの使用者に対し、安全性を確信しています。本基準および勧告は、科学界の統一見解を反映しており、研究班の審議および広範な研究文献を継続的に調査し解釈する科学者たちの委員会を根本としています。
- ある状況や環境において、このパソコンの使用は、建物の所有者や団体の責任ある代表者により制限されることがあります。例えば、下記にあげる場合です。
  - ・他のデバイスやサービスに対し干渉の危険がある環境での使用
- 特定の団体や環境（例えば空港）で無線デバイスの使用に適用される方針が明確にわからない場合は、機器の電源を入れる前にこのパソコンの使用許可について問い合わせをしてください。

■ 電波放射の人体への影響

- このパソコンから放射される出力パワーは、例えば携帯電話が放射する電波のレベルよりはるかに低くなっています。それでも、このパソコンは、通常の動作中に人間の接触に対し電位が最小限にとどめられるように使用されなくてはなりません。使用中はこのパソコンのアンテナ部分に極力触れないでください。

■ 干渉に関する注意

- このマニュアルに従わずに設定したり使用したりすると、無線通信に有害な干渉を生じることがあります。
- このパソコンがラジオ、テレビの受信機に有害な干渉を与える原因となっている場合は（このパソコンの電源を入／切することで原因となっているかが判別できます）、次の方法で干渉を取り除くようにしてください。
  - ・このパソコンと受信機の距離を離す
  - ・受信機を接続しているコンセントと別系統回路のコンセントにこのパソコンを接続する
  - ・経験のあるラジオ／テレビ技術者に相談する
- このパソコンの不正な改造は行わないでください。不正な改造により発生した、ラジオやテレビへの干渉についての責任を負いません。

6. スリープ／休止状態

スリープ／休止状態とは

スリープ

パソコンの電源を切らずに、作業中のデータなどをメモリに保存してパソコンを待機状態にすることです。

スリープ中は、メモリに保存したデータなどを保持するために少しずつ電力を消費しています。
ご購入時の設定では、スリープしてから一定時間経過するか、バッテリの残量が少なくなると、データなどの保存先をメモリからハードディスクに切り替えて、パソコンの電源を切るようになっています。

スリープへ切り替える操作については、『取扱説明書』－「取り扱い」－「電源を入れる／切る」－「スリープにする／復帰させる」をご覧ください。

休止状態

作業中のデータなどをハードディスクに保存して、パソコン本体の電源を切ることです。
スリープよりも待機状態にしたり、復帰（レジューム）するための時間が長くなりますが、消費電力は削減されます。

■ 休止状態に切り替える操作

● (スタート)▶ シャットダウン の ▶「休止状態」の順にクリックします。
　ディスプレイの表示が消え休止状態になります。

Point

- 液晶ディスプレイを閉じたときに休止状態になるように設定する
  ご購入時の状態では、液晶ディスプレイを閉じるとスリープへ切り替わるように設定されています。
- 液晶ディスプレイを閉じたときに休止状態になるように設定するには、「電源ボタンを押したとき／液晶ディスプレイを閉じたときの省電力機能を変更する」(→ P.95）をご覧ください。
- 機種によっては、休止状態にして、液晶ディスプレイを閉じたあと、液晶ディスプレイを開いても、復帰（レジューム）しないことがあります。その場合は、電源ボタンを押してください。

スリープ／休止状態にするうえでの注意

- パソコンをお使いの状況によっては、スリープや休止、復帰（レジューム）に時間がかかる場合があります。
- スリープや休止状態にした後、すぐに復帰（レジューム）しないでください。必ず、10 秒以上たってから復帰（レジューム）するようにしてください。また、再度スリープや休止状態にする場合は、復帰（レジューム）させた後、必ず 10 秒以上たってから、スリープや休止状態にするようにしてください。
- 接続している周辺機器のドライバーが正しくインストールされていない場合、スリープや休止状態にならないことがあります。
- スリープや休止状態、復帰（レジューム）のときに、画面に一瞬ノイズが発生する場合がありますが、故障ではありません。
- ネットワーク（インターネットなど）に接続中は、スリープや休止状態にしないことをお勧めします。お使いの環境によっては、ネットワーク（インターネットなど）への接続が正常に行われない場合があります。
  なお、ご購入時の状態では、一定時間パソコンを操作しないとスリープになるように設定されています。「電源オプション」ウィンドウで、設定の変更を行ってください。
- スリープ中は、周辺機器の取り付け／取り外しをしないでください。
- USB マウス接続時に、【Fn】+【F4】キーを使ってフラットポイントを無効にしても、復帰（レジューム）するとフラットポイントが有効になります。
- 次の場合は、スリープや休止状態になりません。
  ・DVD-VIDEO などの動画再生時
  ・テレビ機能をお使いの場合（テレビチューナー搭載機種のみ）
  ・Sense YOU Technology 機能をお使いの場合（3D 対応ディスプレイ搭載機種を除く）
- 周辺機器を接続した状態で休止状態にすると、復帰（レジューム）するときに周辺機器の情報が初期化されるため、休止状態にする前の作業状態に戻らないことがあります。
- 次の場合は、スリープや休止状態にしないでください。
  ・OS の起動処理中または終了処理中
  ・パソコンが何か処理をしている最中（プリンター出力中など）、および処理完了直後
  ・ハードディスクにアクセス中
  ・オートラン CD-ROM/DVD-ROM（セットすると自動で始まる CD-ROM/DVD-ROM）を使用中
  ・ビデオ CD や Blu-ray Disc（BDXL™ 対応 Blu-ray Disc ドライブまたは Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ）、DVD-VIDEO などを再生中
  ・音楽 CD やゲームソフトなどのサウンドを再生中
  ・ディスクにデータを書き込みまたは書き換え中
  ・ドライバーのインストールが必要な周辺機器を取り付けて、ドライバーをインストールしているとき
  ・マルチモニター機能を使用中
  ・ネットワークに接続して通信中
  ・デジタルテレビに表示しているとき（HDMI 出力端子搭載機種のみ）

スリープ／休止状態の設定変更

ディスクにデータを書き込むときや、LAN を使用するときなど、必要に応じて設定を変更してください。

電源プランを変更する

ご購入時は次の 3 つの電源プランが用意されています。

● バランス
ハードウェアでサポートされている場合に、自動的にパフォーマンスと電源消費のバランスを取ります。

● 省電力
可能な限りコンピューターのパフォーマンスを低下させ、電源の消費を抑えます。

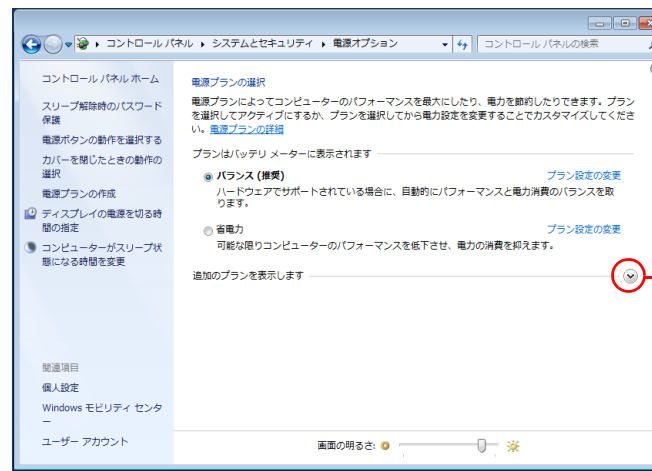
● 高パフォーマンス
パフォーマンスを優先しますが、電源の消費が増える可能性があります。

Point

- テレビ視聴時には、電源プランを「バランス」か「高パフォーマンス」にしてください（テレビチューナー搭載機種のみ）。
- 電源プランを「高パフォーマンス」に設定すると、バッテリ駆動時間が短くなります。

1 (スタート)▶「コントロールパネル」▶「システムとセキュリティ」▶「電源オプション」の順にクリックします。

「電源オプション」ウィンドウが表示されます。

2 お使いになる状況に適した電源プランの ◯ をクリックして ◉ にします。

「高パフォーマンス」を選択する場合は、「追加のプランを表示します」の ⌄ をクリックして「高パフォーマンス」を表示させます。

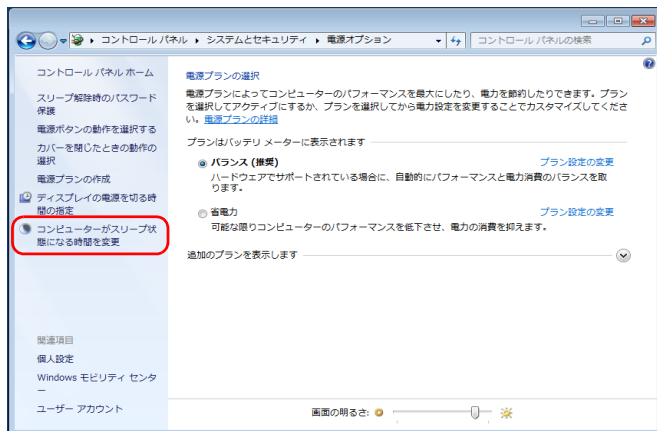
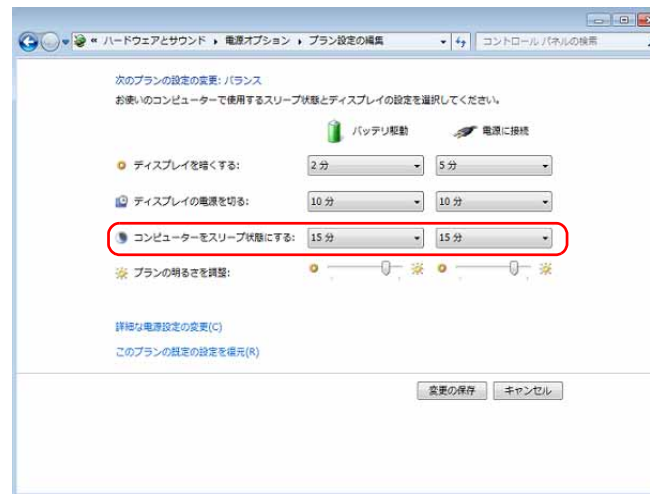
3 ✕ をクリックします。

なお、各電源プランにある「プラン設定の変更」をクリックすると、各電源プランの設定を変更することができます。

スリープになるまでの時間を変更する

1 （スタート）▶「コントロールパネル」▶「システムとセキュリティ」▶「電源オプション」の順にクリックします。

「電源オプション」ウィンドウが表示されます。

2 「電源オプション」ウィンドウ左の「コンピューターがスリープ状態になる時間を変更」をクリックします。

3 「コンピューターをスリープ状態にする」の設定を変更します。

4 「変更の保存」をクリックします。

- 設定を元に戻す

変更した設定は次の手順で元に戻すことができます。

1. 「電源オプション」ウィンドウ左の「コンピューターがスリープ状態になる時間を変更」をクリックします。
2. 「このプランの既定の設定を復元」をクリックします。
3. 「はい」をクリックします。
4. をクリックします。

電源ボタンを押したとき／液晶ディスプレイを閉じたときの省電力機能を変更する

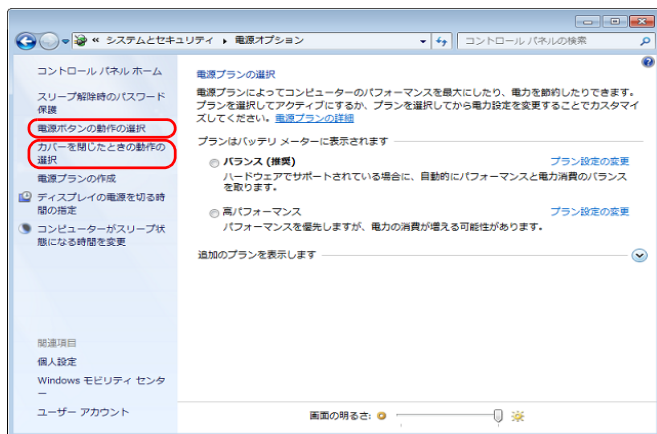
■ ご購入時の設定

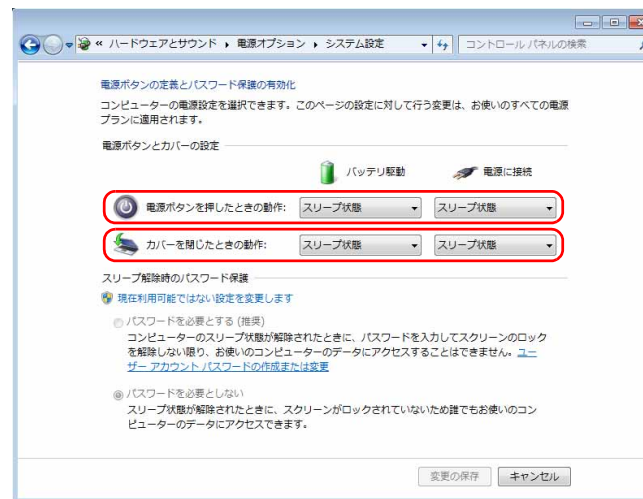
- 電源ボタンを押す：スリープ状態に切り替わる
- 液晶ディスプレイを閉じる：スリープ状態に切り替わる

■ 設定を変更する

1 （スタート）▶「コントロールパネル」▶「システムとセキュリティ」▶「電源オプション」の順にクリックします。

「電源オプション」ウィンドウが表示されます。

2 「電源ボタンの動作の選択」または「カバーを閉じたときの動作の選択」をクリックします。

・電源ボタンの動作の選択
　電源ボタンを押したときの省電力機能を変更する場合、クリックします。
・カバーを閉じたときの動作の選択
　液晶ディスプレイを閉じたときの省電力機能を変更する場合、クリックします。

3 電源ボタンとカバーの設定の項目を「休止状態」または「スリープ状態」に変更します。

（画面は機種や状況より異なります）

Point

- 機種によっては、休止状態にして、液晶ディスプレイを閉じたあと、液晶ディスプレイを開いても、復帰（レジューム）しないことがあります。その場合は、電源ボタンを押してください。
- パソコンがスリープから復帰（レジューム）するとき、あらかじめ Windows に設定してあるパスワードの入力を必要とすることで、このパソコンのセキュリティを高めることができます。
  1. 「現在利用可能ではない設定を変更します」をクリックします。
  2. 「ユーザーアカウント制御」ウィンドウで「続行」をクリックします。
     標準ユーザーで Windows にログオンしている場合は、管理者アカウントのパスワードを入力し、「OK」をクリックします。
  3. 「パスワードを必要とする（推奨）」の左の ◎ をクリックして ◉ にします。

  指紋認証で指紋情報を登録しておくと、パスワード入力を省略することができます（指紋センサー搭載機種のみ）。

4 「変更の保存」をクリックします。

ECO Sleep の設定

LIFEBOOK AH77 シリーズ、AH58 シリーズ、AH56 シリーズ、SH76 シリーズ、PH74 シリーズのみ

「ECO Sleep」は、パソコンが休止状態やシャットダウンしているときに消費電力を抑える機能です。

1 (スタート)▶「すべてのプログラム」▶「バッテリーユーティリティ」▶「ECO Sleep」の順にクリックします。

「ECO Sleep」ウィンドウが表示されます。

2 「変更」をクリックします。

「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。

3 「低待機モード」を選択し、「OK」をクリックします。

Point

- 「ECO Sleep」の設定を解除する場合は、手順 3 で「通常モード」を選択して、「OK」をクリックしてください。
- 「ECO Sleep」について、詳しくは (スタート)▶「すべてのプログラム」▶「バッテリーユーティリティ」▶「ヘルプ」の順にクリックすると表示されるヘルプをご覧ください。

7. 省電力ユーティリティ（搭載機種のみ）

この章は、省電力ユーティリティ搭載機種の方のみお読みください。

「省電力ユーティリティ」とは

「省電力ユーティリティ」とは、「省電力モード」を使い、パソコン本体の動作を中断させずに消費電力を抑えることができるソフトウェアです。
ここでは、このパソコンで使える「省電力ユーティリティ」を使った「省電力モード」について説明しています。

省電力モード

一部の機能の使用を制限することで、パソコン本体の動作を中断させずに、消費電力を抑えることができます。
そのため、パソコン本体の動作を中断させるスリープや、休止状態ほどパソコンの消費電力は節約できません。

■ 次の機能により消費電力が節約されます

- オーディオをミュートにする。
- 液晶ディスプレイの明るさを変更する。
- LAN（有線 LAN）を使用できなくする。

■ お使いの機種に応じて、次の機能により消費電力が節約されます

- 無線 LAN を使用できなくする。
- Bluetooth ワイヤレステクノロジーを使用できなくする。
- ダイレクト・メモリースロットを使用できなくする。
- ExpressCard スロットを使用できなくする。
- スーパーマルチドライブを使用できなくする。
- 画面のリフレッシュレートを低くする。
- ワンタッチボタン、フラットポイントの周囲を消灯する。
- CPU パフォーマンスを下げる。

- Blu-ray Disc ドライブは省電力モードでも使用できます（Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ）。

省電力モードにするうえでの注意

- 省電力モードにする前にそれぞれの機能の使用を中止してください。
  省電力モードにすると次の機能が使用できなくなります。
  ・オーディオ
  ・LAN（有線 LAN）

  その他、お使いの機種に応じて、次の機能が使用できなくなります。
  ・Bluetooth ワイヤレステクノロジー
  ・ExpressCard スロット
  ・ダイレクト・メモリースロット
  ・スーパーマルチドライブ
  ・無線 LAN

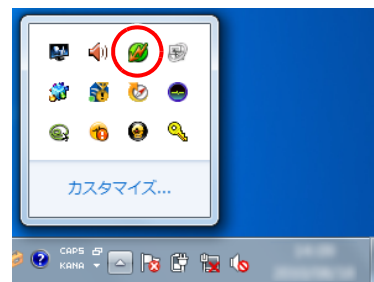
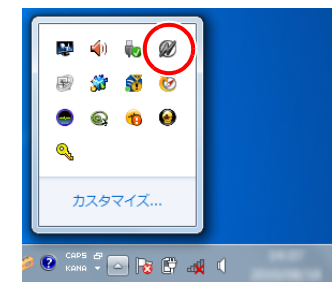
  Point

  ▸ 無線 LAN が無効になると、インテル WiDi も使用できなくなります。

- 省電力モードにする前に、マルチモニター表示を解除してシングルディスプレイ表示に切り替えてください。
- オーディオをミュートにする設定になっている場合、省電力モードにすると省電力モードの間はスピーカーから音が聞こえません（ミュートになっています）。
- 省電力モードにすると画面の明るさが「省電力ユーティリティ」で設定された状態になります。
  省電力モードに設定後も、キーボードで画面の明るさを調節できます。
  調節方法については、『取扱説明書』－「取り扱い」－「画面の明るさ」をご覧ください。
- 省電力モードにすると ExpressCard スロットが無効になる設定をしている場合は、省電力モードから通常モードに切り替えるときに、必ず ExpressCard スロットからカードを抜いてください。
  ExpressCard を使うときは、省電力モードから通常モードに戻してから再度セットしてください。
- 省電力モードにするとスーパーマルチドライブの電源が切れる設定にしている場合は、省電力モード時には CD/DVD 取り出しボタンを押してもスーパーマルチドライブのトレイは開きません。
  ディスクの取り出しは通常モードで行ってください。
- 省電力モードにするとリフレッシュレートを変更する設定になっている場合は、「省電力ユーティリティ」で設定された状態になります。
  省電力モードに設定後も「コントロールパネル」の「画面の設定」で変更することができます。

重要

▸ 省電力モードの状態は、画面右下の通知領域にある をクリックし、表示された「省電力ユーティリティ」のアイコンの色で確認することができます。省電力モードのときは、アイコンがカラーで表示されます。

省電力モードのとき

通常モードのとき

（画面は機種や状況により異なります）

省電力モードの使い方

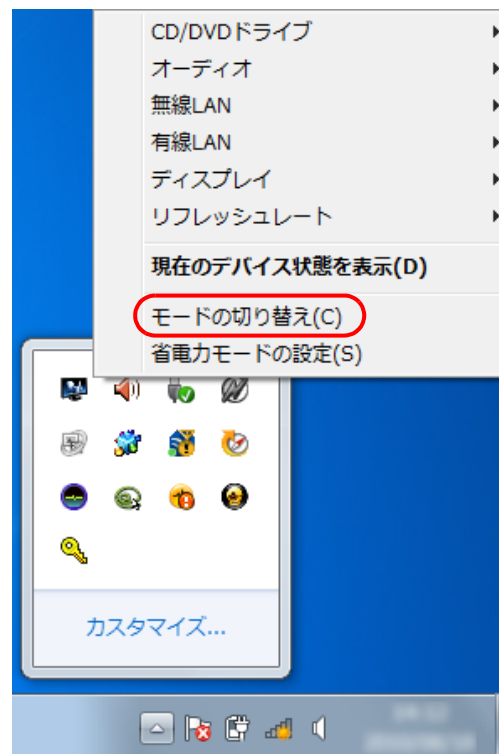
省電力モードに切り替える

■ ECO（エコ）ボタンを使う

1 Windows が起動しているときに ECO（エコ）ボタンを押します。

ECO（エコ）ボタンの場所については、『取扱説明書』－「各部の名称と働き」をご覧ください。
LIFEBOOK NH77/CD、AH42/C、LH52/C、PH50/C は、【Fn】＋【F11】キーを押します。
「省電力モードへの切り替え」ウィンドウが表示された場合は、「OK」をクリックします。
このパソコンが省電力モードになります。

■「省電力ユーティリティ」のアイコンを使う

1 画面右下の通知領域にある をクリックし、表示された「省電力ユーティリティ」のアイコン を右クリックします。表示されたメニューから「モードの切り替え」を選択してクリックします。

（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

「省電力モードへの切り替え」ウィンドウが表示された場合は、「OK」をクリックします。
「省電力ユーティリティ」のアイコン がカラー になり、このパソコンが省電力モードになります。

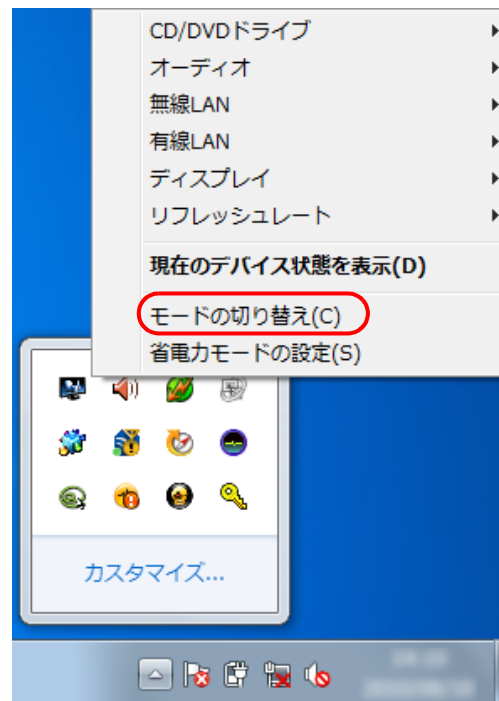
通常モードに切り替える

■ ECO（エコ）ボタンを使う

1 省電力モードのときに ECO（エコ）ボタンを押します。

ECO（エコ）ボタンの場所については、『取扱説明書』－「各部の名称と働き」をご覧ください。
LIFEBOOK NH77/CD、AH42/C、LH52/C、PH50/C は、【Fn】＋【F11】キーを押します。
「通常モードへの切り替え」ウィンドウが表示された場合は、「OK」をクリックします。
通常モードに戻ります。

■「省電力ユーティリティ」のアイコンを使う

1 画面右下の通知領域にある をクリックし、表示された「省電力ユーティリティ」のアイコン を右クリックします。表示されたメニューから「モードの切り替え」を選択してクリックします。

（画面は機種や状況により異なります）

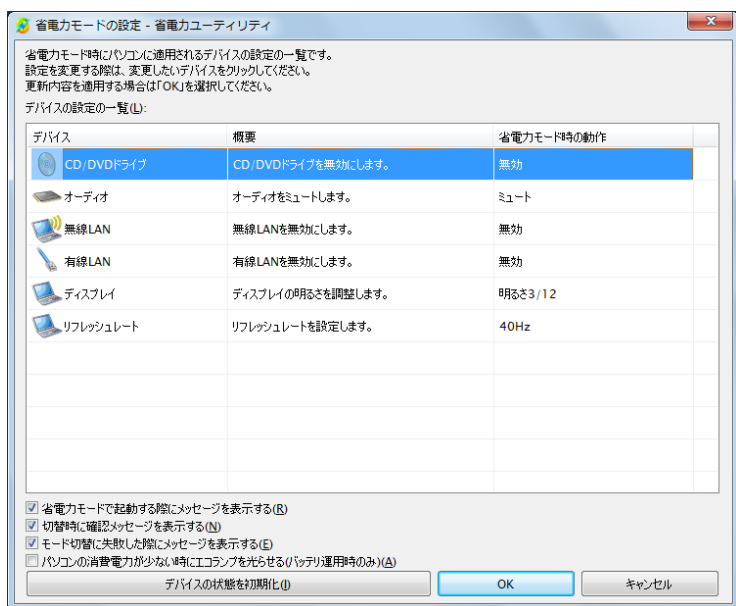
「通常モードへの切り替え」ウィンドウが表示された場合は、「OK」をクリックします。
「省電力ユーティリティ」のアイコン がグレー になり、通常モードに戻ります。

省電力モードの設定変更

「省電力ユーティリティ」の各機能を設定することで、より少ない電力でパソコンを使用することができます。
設定方法について、詳しくは「省電力ユーティリティ」のヘルプをご覧ください。
「省電力ユーティリティ」のヘルプは、(スタート)▶「すべてのプログラム」▶「省電力ユーティリティ」▶「ヘルプ」の順にクリックして表示します。

省電力モードの設定を変更する

省電力モードの設定は、「省電力ユーティリティ」の設定画面で行います。

1 **(スタート)▶「すべてのプログラム」▶「省電力ユーティリティ」▶「省電力モードの設定 - 省電力ユーティリティ」の順にクリックします。**
「省電力ユーティリティ」の設定画面が表示されます。

(画面は機種や状況により異なります)

2 **設定を変更したいデバイスをクリックして、省電力モード時の動作の設定を変更します。**
次の設定も変更できます。
- 「省電力モードで起動する際にメッセージを表示する」
  □を☑にすると、省電力モードのまま Windows の電源を切って再び Windows を起動したときに、メッセージを表示します。
- 「切替時に確認メッセージを表示する」
  □を☑にすると、省電力モードと通常モードの切り替えのときに、メッセージを表示します。
- 「モード切替に失敗した際にメッセージを表示する」
  □を☑にすると、省電力モードと通常モードの切り替えに失敗した場合、メッセージを表示します。
- 「パソコンの消費電力が少ない時にエコランプを光らせる(バッテリ運用時のみ)」(LIFEBOOK SH シリーズ、PH75 シリーズ、PH74 シリーズのみ)
  □を☑にすると、ECO ランプの機能(→ P.102)を有効にします。

3 **「OK」をクリックします。**

Point

- モードの切り替えを行って、通常モードの状態になってもデバイスが正しく動作しない場合は、「デバイスの状態を初期化」ボタンを使用して、各デバイスを初期化してください。
  デバイスの省電力モードの設定が解除され、無効になっていたデバイスが有効になり、画面右下の通知領域の「省電力ユーティリティ」のアイコンがになります。
- 省電力モードに変更しても、お使いの状況によってはバッテリ駆動時間や消費電力が異なる場合があります。

ECO ランプの機能について

LIFEBOOK SH シリーズ、PH75 シリーズ、PH74 シリーズには、ECO ランプが搭載されています。

本パソコンは、バッテリ運用時の消費電力を監視し、少ない電力で動作しているときに ECO ランプを点灯させます。ランプが点灯することで、省電力の状態で動作していることが確認でき、長時間パソコンをご使用いただくためのインジケーターとしてお使いいただくことができます。設定方法は、省電力モードの設定（→P.101）をご覧ください。

Point

- このパソコンをご使用中に ECO ランプが突然消灯したり、点灯したりすることがあります。これはソフトウェアが自動で動作することなどにより、パソコンの消費電力が急に増加したり、減少したりするためです。

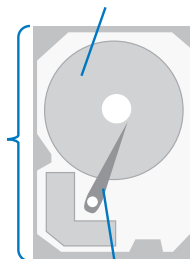
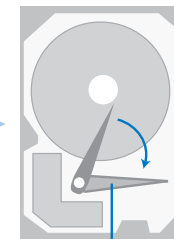
8. HDD プロテクション（搭載機種のみ）

この章は、HDD 加速度センサー搭載機種の方のみお読みください。

「HDD プロテクション」とは

「HDD プロテクション」とは、パソコン本体に落下の兆候などによる加速度が加わったことを感知して、自動的にハードディスクドライブ（HDD）内のデータを守る機能です。
「HDD プロテクション」は「Shock Sensor Utility」で設定を変更することができます。（ご購入時にフラッシュメモリディスクを選択した場合は、HDD 加速度センサーは搭載されておりません。）

「HDD プロテクション」の特長

ハードディスクドライブの中では、磁気ヘッドがハードディスク上のデータを読み書きしています。落下などによりパソコンに強い衝撃が加わると、磁気ヘッドやハードディスクがダメージを受け、大切なデータを一瞬で失う危険性があります。
「HDD プロテクション」はパソコンに搭載されている「HDD 加速度センサー」により、落下の兆候などによる加速度を感知し、磁気ヘッドをハードディスクから自動的に退避して、磁気ヘッドやハードディスクの損傷を防ぎます。
「HDD 加速度センサー」が加速度を感知している間は、画面右下の通知領域にある「Shock Sensor Utility」のアイコンが から に変わり、「ハードディスクの磁気ヘッドを一時的に退避しました。」というメッセージが表示されます。

重要

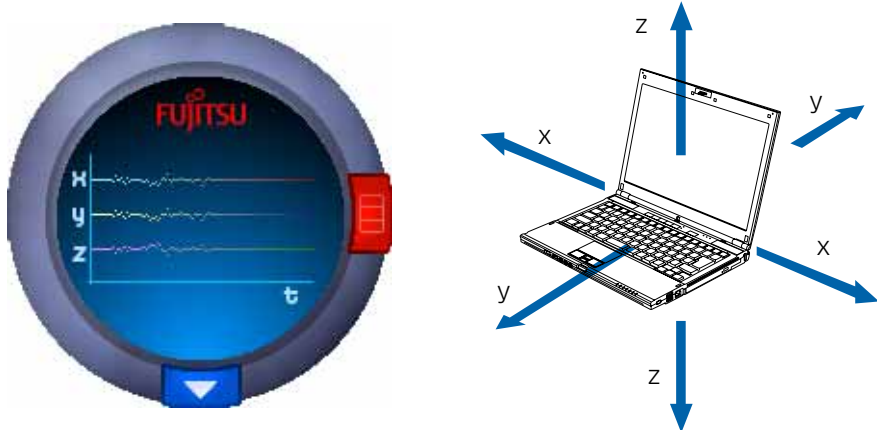
- 「HDD プロテクション」の有効範囲について
  すべての状況に対してハードディスクの破損防止やデータ保護を保障するものではありません。

「Shock Sensor Utility」の使い方

「HDD プロテクション」は、「HDD 加速度センサー」がこのパソコンに加わる落下の兆候などの加速度を 3 次元(前後・左右・上下)で感知することにより働きます。「Shock Sensor Utility」のメイン画面には、「HDD 加速度センサー」が感知した加速度が表示されます。

「Shock Sensor Utility」のメイン画面を表示する

1 (スタート)▶「すべてのプログラム」▶「Shock Sensor Utility」▶「設定」の順にクリックします。

「Shock Sensor Utility」のメイン画面が表示されます。

x:「HDD 加速度センサー」が感知した「左右」の加速度を表示します。
y:「HDD 加速度センサー」が感知した「前後」の加速度を表示します。
z:「HDD 加速度センサー」が感知した「上下」の加速度を表示します。

「Shock Sensor Utility」の設定

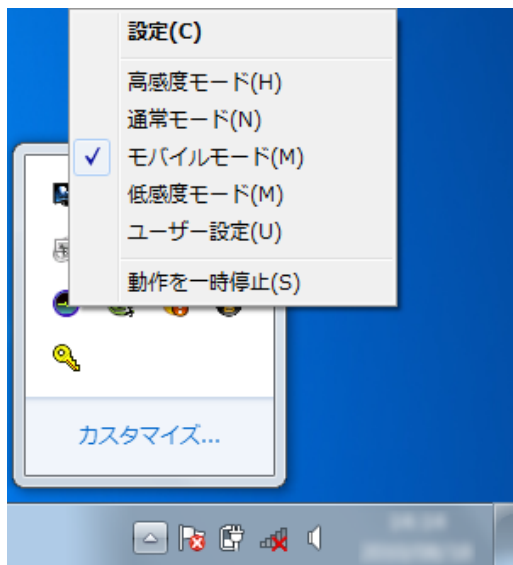
「Shock Sensor Utility」では、「HDD プロテクション」を働かせるための、「HDD 加速度センサー」の感度を調節することができます。
「Shock Sensor Utility」の詳しい設定方法については、「Shock Sensor Utility」のヘルプをご覧ください。

1 「Shock Sensor Utility」のメイン画面にある赤いボタンをクリックします。

「Shock Sensor Utility」の設定画面が表示されます。
「ヘルプ」ボタンをクリックすると、「Shock Sensor Utility」のヘルプが表示されます。

「HDD 加速度センサー」の感度の切り替え

安全性を高めたい場合には「高感度モード」、電車の中など振動の多い場所でご使用の場合には「モバイルモード」というように、状況に合わせた設定が可能です。「HDD 加速度センサー」の感度の切り替えは、画面右下の通知領域にあるアイコンを右クリックして表示されるメニューから簡単に変更することができます。

1　画面右下の通知領域にある をクリックし、表示された を右クリックします。

（画面は機種や状況により異なります）

「Shock Sensor Utility」のメニューが表示されたら、お使いの状況に合ったモードを選択してください。

9. 電源オフ USB 充電（搭載機種のみ）

この章は、電源オフ USB 充電ユーティリティ搭載機種の方のみお読みください。

電源オフ USB 充電とは

電源オフ USB 充電とは、パソコンが電源オフ、スリープ、休止状態のときでも、USB 充電に対応した周辺機器を充電することができる機能です。
電源オフ USB 充電は、ご購入時には無効に設定されています。
「電源オフ USB 充電ユーティリティ」で設定を変更することができます。

電源オフ USB 充電を行ううえでの注意

充電を必要としない USB 周辺機器は、電源オフ USB 充電機能に対応する USB コネクタに接続しないでください。

※ 電源オフ USB 充電機能対応の USB コネクタの場所については、『取扱説明書』－「各部の名称と働き」をご覧ください。

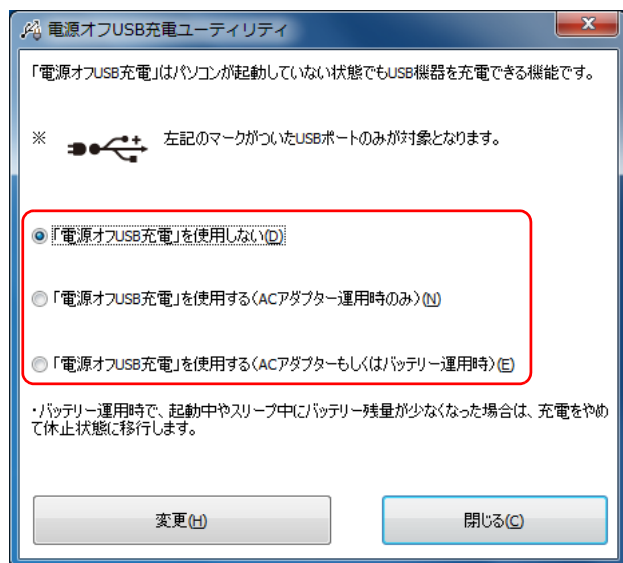
- USB キーボードまたは USB マウスは、電源オフ USB 充電機能対応以外の USB2.0 コネクタに接続してください。
- 周辺機器によっては、電源オフ USB 充電をできない場合があります。
- 電源ボタンを４秒以上押してこのパソコンの電源を切った場合は、電源オフ USB 充電はできません。
- スリープから復帰したときに、電源オフ USB 充電機能対応の USB コネクタに接続した USB 周辺機器について、次の現象が発生する場合があります。
  なお、現象が発生しても USB 周辺機器本体および記録データが破損することはありません。
  ・デバイス認識のポップアップウィンドウが表示される
  ・「自動再生」ウィンドウが表示される
  ・接続した USB 周辺機器のドライブ名が変わる
  ・接続した USB 周辺機器と連携しているソフトウェアが起動する

「電源オフ USB 充電ユーティリティ」の使い方

1 （スタート）▶「すべてのプログラム」▶「電源オフ USB 充電ユーティリティ」▶「設定」の順にクリックします。

「電源オフ USB 充電ユーティリティ」ウィンドウが表示されます。

「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックします。

2 お使いになる設定を選択します。

- **「電源オフ USB 充電」を使用しない**

  電源オフ USB 充電が無効になります（ご購入時の設定）。

- **「電源オフ USB 充電」を使用する（AC アダプター運用時のみ）**

  ACアダプタが接続されている場合のみ電源オフUSB充電が有効になります。

- **「電源オフ USB 充電」を使用する（AC アダプターもしくはバッテリ運用時）**

  AC アダプタが接続されていない場合でも電源オフ USB 充電が有効になります。

Point

- バッテリ運用時にバッテリ残量が 12%以下になると、電源オフ USB 充電は停止します。AC アダプタを接続すると、電源オフ USB 充電を再開します。

3 「変更」をクリックします。

「設定を変更しました。」というメッセージが表示されます。

4 「OK」をクリックします。

10. ソフトウェア

このパソコンには、あらかじめたくさんのソフトウェアがインストールされています。一度削除したソフトウェアをもう一度使いたいときや、ソフトウェアの動作がおかしくなったとき、ソフトウェアをインストールし直すことができます。

ソフトウェアをインストール／アンインストールするうえでの注意

- ソフトウェアをインストールする前には、必ずソフトウェアのマニュアルなどを読んで、インストールの方法を確認する
- インストールし直す場合は、元のソフトウェアを削除する
- 管理者権限を持つユーザーアカウントでログオンする
  ユーザーアカウントの種類が、「標準アカウント」、「Guest アカウント」の場合はソフトウェアの削除ができません。管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンしてください。
  ユーザーアカウントの種類は、次の手順で確認できます。
  1. (スタート)▶「コントロールパネル」▶「ユーザーアカウントと家族のための安全設定」の順にクリックします。
  2. 「ユーザーアカウント」をクリックします。
     「ユーザーアカウント」ウィンドウが表示されます。
  3. 画面右のアカウント名の下に表示されている、アカウントの種類を確認します。
     「Administrator」は、管理者アカウントであることを意味します。
- 起動しているソフトウェアをすべて終了する
  他のソフトウェアが起動していると、エラーが発生する場合があります。ソフトウェアの削除をする前に、次の作業を行ってください。
  ・起動しているソフトウェアをすべて終了する
  ・タスクバーに常駐するタイプのソフトウェアをすべて終了する
  ・スクリーンセーバーを「なし」に設定する
  1. (スタート)▶「コントロールパネル」▶「デスクトップのカスタマイズ」の順にクリックします。
  2. 「個人設定」の「スクリーンセーバーの変更」をクリックします。
  3. 「スクリーンセーバー」を「(なし)」にして、「OK」をクリックします。
- 共有ファイルは削除しない
  ソフトウェアの削除中に、「共有ファイルを削除しますか？」というメッセージが表示されることがあります。
  共有ファイルは削除しないことをお勧めします。共有ファイルを削除すると、インストールされている他のソフトウェアが影響を受け、正しく動作しなくなる場合があります。

インストール

搭載ソフトウェアをインストールする

次の手順で、ハードディスクのリカバリ領域からソフトウェアをインストールすることができます。

1 (スタート)▶「すべてのプログラム」▶「ソフトウェアディスク検索」▶「ソフトウェアディスク検索（ハードディスク)」の順にクリックします。

2 「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。

3 「ソフトウェアディスク検索」ウィンドウが表示されたら、「OK」をクリックします。

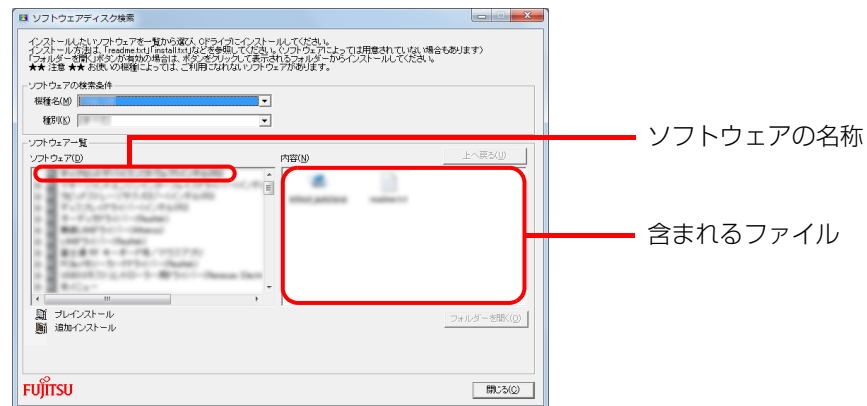
4 「機種名」欄の右側の をクリックし、表示されたリストからお使いの機種名（品名）をクリックして選択します。

パソコンの品名は、パソコン本体前面または保証書で確認することができます。

5 「種別」欄の右側の をクリックし、表示されたリストから更新したいドライバーの種類をクリックして選択します。

「ソフトウェア一覧」に、選択した種別のドライバーが表示されます。

6 「ソフトウェア一覧」からインストールするソフトウェアの名称をクリックしてインストールします。

ソフトウェアの名称をクリックすると、ソフトウェアに含まれるファイルが画面右側に表示されます。

（画面は機種や状況により異なります）

7 ソフトウェアのインストール方法は、各ソフトウェアによって異なります。それぞれの「readme.txt」、「install.txt」などでインストール方法を確認してください。

- リカバリ領域を削除している場合は、ご自身で作成した「ソフトウェアディスク」から、ソフトウェアをインストールしてください。

「Office 2010」をインストールし直す

「Office 2010」搭載機種のみ

「Office 2010」搭載機種をお使いの方で、「Office 2010」のみインストールし直したい場合は、次の添付ディスクを用意してください。

- 「Office Personal 2010」
- 「Office Home and Business 2010」
- 「Office Personal 2010 2 年間ライセンス版」

インストール中にプロダクトキーとライセンス認証が必要になります。認証手順についてはパッケージに同梱されているマニュアルをご覧ください。

Point

- 「Office 2010」のディスクが必要になるのは、次の場合です。
  - ・「Office 2010」をアンインストールした
  - ・リカバリしても「Office 2010」がインストールされない
- 「Office 2010」を再インストールした場合は、「Microsoft Outlook 2010」が既定のメールソフトに登録されません。
  「Microsoft Outlook 2010」を既定のメールソフトとして登録する場合は、次の手順で登録してください。
  1. (スタート) ボタン▶「既定のプログラム」▶「既定のプログラムの設定」の順にクリックします。
  2. 「Microsoft Outlook」▶「すべての項目に対し、既定のプログラムとして設定する」▶「OK」の順にクリックします。

  また、「Microsoft Outlook 2010」をスタートメニューに登録する場合は、次の手順で登録してください。
  1. (スタート) ボタン▶「すべてのプログラム」▶「Microsoft Office」の順にクリックします。
  2. 「Microsoft Outlook 2010」を右クリックし、表示されたメニューから、「スタートメニューに表示する」をクリックします。

ドライバーをインストールし直す

サウンドの再生や画面表示などが正常に行われないとき、ドライバーを更新すると問題が解決できる場合があります。

■ お使いのパソコンに搭載されているドライバーについて

- 各ドライバーは、改善のため事前連絡なしに変更することがあり、ご購入時に添付されているものよりも新しいバージョンのドライバーがインターネット上で公開されている場合があります。
  インターネット上に最新のドライバーがない場合は、ドライバーを削除し、再インストールしてください。
- ドライバーの削除や、再インストール手順については、各ドライバーのフォルダー内にある「readme.txt」「install.txt」などのファイルをご覧ください。
- ドライバーの格納されているフォルダーは、次の手順でご確認ください。
  1. (スタート)▶「すべてのプログラム」▶「ソフトウェアディスク検索」▶「ソフトウェアディスク検索(ハードディスク)」の順にクリックします。
  2. 「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。
  3. 「ソフトウェアディスク検索」ウィンドウが表示されたら、「OK」をクリックします。
     「ソフトウェアディスク検索」ウィンドウが表示されます。
  4. 「機種名」欄の右側の ▼ をクリックし、表示されたリストからお使いの機種名(品名)をクリックして選択します。
     パソコンの品名は、パソコン本体前面または保証書で確認することができます。
  5. 「種別」欄の右側の ▼ をクリックし、表示されたリストから更新したいドライバーの種類をクリックして選択します。
     「ソフトウェア一覧」に、選択した種別のドライバーが表示されます。
  6. 「ソフトウェア一覧」から更新したいドライバーをクリックして選択します。
     選択したドライバーの格納されているフォルダーの内容が表示されます。

- プリンターなど、このパソコンに添付されていない周辺機器のドライバーについては、お使いの周辺機器のマニュアルをご覧ください。

アンインストール

ソフトウェアのアンインストール機能を使う

Windows に対応したソフトウェアには、アンインストール機能（ソフトウェアを削除する機能）が用意されているものがあります。
ソフトウェアによって操作方法が異なります。詳しくは、ソフトウェアのマニュアルまたはヘルプをご覧ください。

「プログラムのアンインストール」機能を使う

1 起動しているソフトウェアをすべて終了します。

2 （スタート）▶「コントロールパネル」▶「プログラム」の「プログラムのアンインストール」の順にクリックします。

3 一覧から削除したい項目をクリックします。

4 「アンインストールと変更」（または「アンインストール」）をクリックし、画面の指示に従ってソフトウェアを削除します。

5 ソフトウェアの削除が終了したら、「プログラムと機能」ウィンドウで、をクリックします。

Point

- 「プログラムのアンインストール」機能で削除できないソフトウェアについては、ソフトウェアのマニュアルまたはヘルプをご覧ください。
- 「いくつかのファイルは削除されませんでした」と表示されても、削除が完了していれば通常問題ありません。

ソフトウェアを削除した後に

■ 削除したソフトウェア名がメニューに残った場合

削除しても、（スタート）▶「すべてのプログラム」で表示されるメニューの中に削除したソフトウェア名が残り、ポイントすると「（なし）」と表示される場合があります。ソフトウェア名を右クリックし、表示されるメニューから「削除」をクリックして、「はい」をクリックするとメニューから削除できます。

■ パソコンを起動するたびにエラーが表示される場合

ソフトウェアを削除しても、「スタートアップ」フォルダーに、そのソフトウェアのショートカットアイコンが登録されたままになっていると、「ショートカットエラー」というメッセージが表示されることがあります。

次の手順で、「スタートアップ」フォルダーから、該当するショートカットアイコンを削除してください。

1 **（スタート）をクリックします。**

2 **「すべてのプログラム」を右クリックし、表示されるメニューから「開く - All Users」をクリックします。**

「スタート メニュー」ウィンドウが表示されます。

3 **「プログラム」▶「スタートアップ」の順にクリックします。**

登録されているソフトウェアの一覧が表示されます。

4 **削除したいソフトウェアを右クリックし、表示されるメニューから、「削除」をクリックします。**

5 **「はい」をクリックします。**

11. BIOS の設定

BIOS セットアップの操作

BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、パソコンの環境を設定するためのプログラムです。パソコンご購入時は、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。通常の使用状態では、BIOS セットアップで環境を設定(変更)する必要はありません。
BIOS セットアップの設定は、次の場合などに行います。

- 特定の人だけがパソコンを使用できるように、パスワード(暗証番号)を設定するとき
- 起動時の自己診断テストで BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき

Point

- BIOS セットアップの設定項目については、BIOS セットアップ画面の「項目ヘルプ」をご覧ください。
- BIOS セットアップ画面の表示について
  BIOS セットアップ画面は、HDMI 出力端子に接続したテレビやディスプレイには表示されません(HDMI 出力端子搭載機種のみ)。
- 起動時の自己診断テスト(POST(ポスト))
  パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、ハードウェアの動作に異常がないか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的に調べます。これを「起動時の自己診断テスト」(POST : Power On Self Test)といいます。
  ・起動時の自己診断テスト中は電源を切らないでください。
  ・POST の画面は、液晶ディスプレイのみに表示されることがあります。また、HDMI 出力端子に接続したテレビやディスプレイには表示されません(HDMI 出力端子搭載機種のみ)。
  ・パソコンは、自己診断テスト中の異常終了の回数を数えており、3 回続いた場合は 4 回目の起動時に「前回の起動が正常に完了しませんでした。」というメッセージを表示します(LIFEBOOK NH シリーズ、AH42シリーズ、LHシリーズ、PH50シリーズ、MHシリーズを除く)。

BIOS セットアップを起動する

BIOS セットアップは、電源が切れた状態から操作を始めてください。

■ LIFEBOOK NH シリーズ、AH77 シリーズ、AH58 シリーズ、AH56 シリーズ、SH76 シリーズ、PH74 シリーズの場合

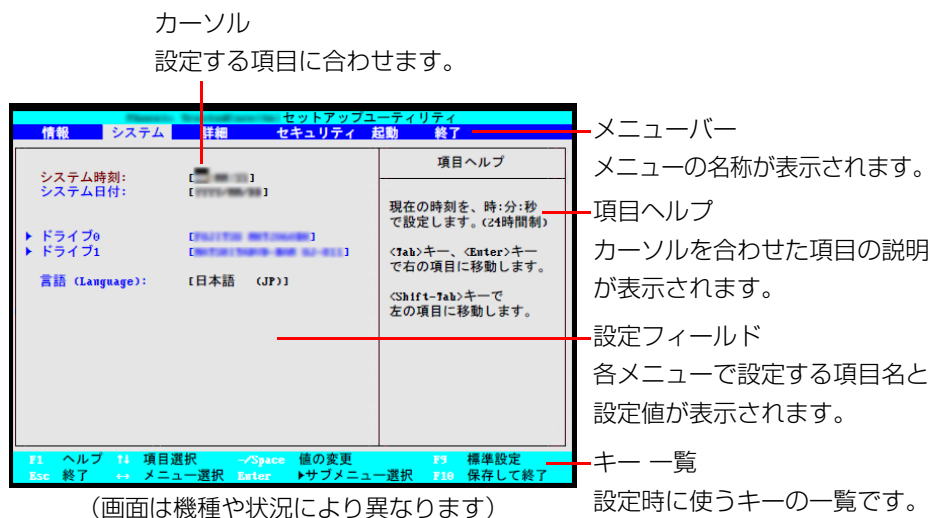
1 AC アダプタを接続し、【F2】キーを押しながら、パソコンの電源を入れます。

2 「FUJITSU」のロゴマークが表示され、ピッと音がしたら、【F2】キーを離します。

BIOS セットアップ画面が表示されます。BIOS セットアップの画面ではなく Windows が起動してしまった場合は、起動が完了するのを待って、もう一度手順 1 からやり直してください。

BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。

カーソル
設定する項目に合わせます。

(画面は機種や状況により異なります)

■ その他の機種の場合

1 AC アダプタを接続し、パソコンの電源を入れます。

2 「FUJITSU」のロゴマークが表示され、画面の下にメッセージが表示されます。

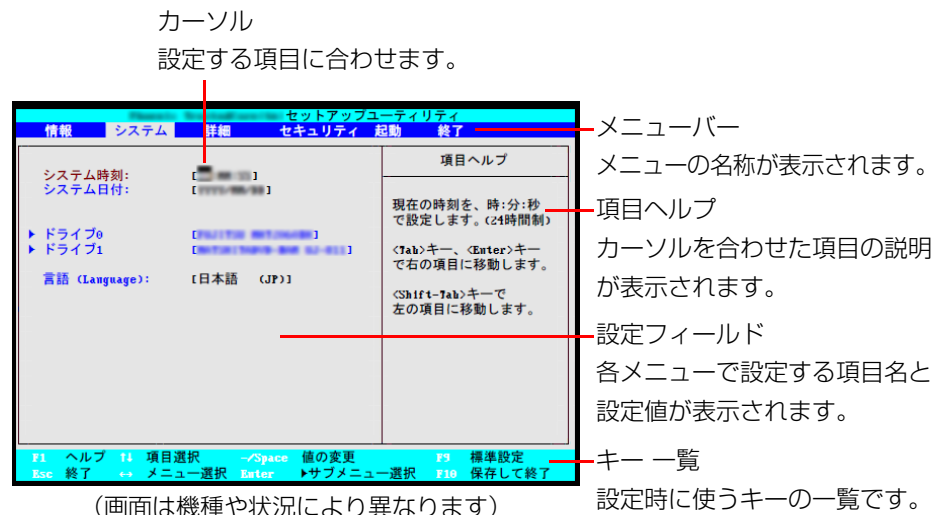
●「マウスをクリックするか、〈Enter〉を押してください。」と表示されている場合

メッセージが表示されている間に【F2】キーを押します(【Enter】キーを押し、表示されたポップアップメニューから「BIOS セットアップ」を選択して、もう一度【Enter】キーを押しても同じです)。

BIOS セットアップ画面が表示されます。BIOS セットアップの画面ではなく Windows が起動してしまった場合は、起動が完了するのを待って、もう一度手順 1 からやり直してください。

BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。

カーソル
設定する項目に合わせます。

(画面は機種や状況により異なります)

●「[Esc] Diagnostic Screen, [F2] BIOS Setup, [F12] Boot Menu」または「[Esc] Diagnostic Screen, [F2] BIOS Setup, [F11] Boot Menu」と表示されている場合

メッセージが表示されている間に、【F2】キーを押します。

BIOS セットアップ画面が表示されます。BIOS セットアップの画面ではなく Windows が起動してしまった場合は、起動が完了するのを待って、もう一度手順 1 からやり直してください。

BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。

カーソル
設定する項目に合わせます。

（画面は機種や状況により異なります）

設定を変更する

設定の変更はキーボードで操作します。

重要

- BIOS セットアップの設定を間違えると、パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなったりすることがあります。
  このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻してパソコンを再起動してください。

1 【←】キーまたは【→】キーでカーソルを移動し、設定したいメニューを選びます。

選択したメニュー画面が表示されます。

2 【↓】キーまたは【↑】キーでカーソルを移動し、設定したい項目を選びます。

項目名に「▶」が付いている項目にはサブメニューがあります。
項目名にカーソルを移動して【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。元のメニュー画面に戻るときは【Esc】キーを押します。

3 【Space】キーまたは【ほ】を押して、選択している項目の設定値を変更します。

続けて他の設定項目を変更する場合は、手順 1 ～ 3 を繰り返してください。

4 設定を保存して終了します。

Point

- 設定時に使う各キーの役割
  設定時によく使用するキーは、次のとおりです。
  ・【↑】キー、【↓】キー
  設定する項目にカーソルを移動します。
  ・【←】キー、【→】キー
  メニューを切り替えます。
  ・【Enter】キー
  「▶」印が付いた項目のサブメニュー画面を表示します。また、「終了」メニューなどでは、各項目の処理を行います。
  設定する項目で押すと、設定値が一覧で表示されます。
  ・【Space】キー
  キーボード手前中央にある、何も書かれていない横長のキーのことです。各項目の設定値を変更します。
  この他、使用するキーの案内が画面に表示されます。

変更内容を取り消す

設定した内容を取り消すには、保存してある変更前の設定値を読み込みます。

1 【Esc】キーを押します。

「終了」（「Exit」）メニューが表示されます。サブメニューを表示しているときは、「終了」（「Exit」）メニューが表示されるまで、【Esc】キーを２～３回押してください。

2 【↑】キーまたは【↓】キーを押して「変更前の値を読み込む」（「Discard Changes」）を選択し、【Enter】キーを押します。

「変更前の値を読み込みますか？」（「Load previous configuration now?」）というメッセージが表示されます。

3 【←】キーまたは【→】キーで「はい」（「Yes」）を選択し、【Enter】キーを押します。

BIOS セットアップのすべての設定項目に変更前の値が読み込まれ、すべての変更が取り消されます。

- 設定した内容を保存せずに BIOS セットアップを終了する
  1. 「終了」（「Exit」）メニューの「変更を保存せずに終了する」（「Exit Discarding Changes」）を選択し、【Enter】キーを押します。
     設定値を変更していないときは、これで BIOS セットアップが終了します。
     設定値を変更しているときは、「設定が変更されています！変更した内容を保存して終了しますか？」（「Setup Warning」）というメッセージが表示されます。
  2. 【←】キーまたは【→】キーで「いいえ」（「No」）を選択し、【Enter】キーを押します。
     すべての変更が取り消されて、BIOS セットアップが終了します。

BIOS セットアップを終了する

変更した設定を有効にするためには、設定内容を保存しておく必要があります。
次の操作を行って、設定内容を保存してから BIOS セットアップを終了してください。

1 【Esc】キーを押します。

「終了」(「Exit」)メニューが表示されます。サブメニューを表示している場合は、「終了」メニューが表示されるまで、【Esc】キーを２～３回押してください。

2 【↑】キーまたは【↓】キーを押して「変更を保存して終了する」(「Exit Saving Changes」)を選択し、【Enter】キーを押します。

次のいずれかの確認メッセージが表示されます。

セットアップ確認
変更した内容を保存して終了しますか？
[はい]　　[いいえ]

または

Setup Confirmation
Save configuration changes and exit now?
[Yes]　　[No]

（画面は機種や状況により異なります）

3 【←】キーまたは【→】キーで「はい」(「Yes」)を選択し、【Enter】キーを押します。

すべての設定値が保存された後、BIOS セットアップが終了し、このパソコンが再起動します。

- BIOS セットアップを終了せずに設定内容を保存する
  次の操作をすると、いったん設定内容を保存した後、続けて他の項目を設定できます。
  1. 「終了」(「Exit」)メニューの「変更を保存する」(「Save Changes」)を選択し、【Enter】キーを押します。
     「変更した内容を保存しますか？」(「Save configuration changes now?」)というメッセージが表示されます。
  2. 【←】キーまたは【→】キーで「はい」(「Yes」)を選択し、【Enter】キーを押します。

BIOS をご購入時の設定に戻す

ここでは、設定を変更した BIOS を、ご購入時の状態に戻す手順について説明しています。

1. **BIOS セットアップを起動します。**
2. **【Esc】キーを押します。**
「終了」（「Exit」）メニューが表示されます。
3. **【↑】キーまたは【↓】キーを押して「標準設定値を読み込む」（「Load Setup Defaults」）を選択し、【Enter】キーを押します。**
確認のメッセージが表示されます。
4. **【←】キーまたは【→】キーで「はい」（「Yes」）を選択し、【Enter】キーを押します。**
BIOS セットアップの設定項目に、標準設定値が読み込まれます。
5. **【↑】キーまたは【↓】キーを押して「変更を保存して終了する」（「Exit Saving Changes」）を選択し、【Enter】キーを押します。**
確認のメッセージが表示されます。
6. **【←】キーまたは【→】キーで「はい」（「Yes」）を選択し、【Enter】キーを押します。**
読み込んだ標準設定値が保存された後、BIOS セットアップが終了し、このパソコンが再起動します。

BIOS のパスワード機能

このパソコンでは、不正使用を防止するために BIOS パスワードを設定することができます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外はこのパソコンを使用できなくなります。
BIOS のパスワードは Windows が起動する前の設定なので、Windows のログオンパスワードよりもさらにセキュリティを高めたいときに有効です。

BIOS のパスワードを設定するとできること

BIOS のパスワードを設定すると、次の場合にパスワードの入力を要求され、パスワードを知っている人のみこのパソコンを使用できるようになります。

- パソコンの電源を入れたとき
- パソコンを再起動したとき
- BIOS セットアップを始めるとき
- 休止状態からレジュームするとき

また、ハードディスク用のパスワードを設定すると、このパソコンのハードディスクを他のパソコンに取り付けても使用できないようにすることができます。

BIOS パスワード機能をお使いになるうえでの注意

このパソコンの BIOS パスワード機能を使うときは、次の点に注意してください。

- パスワード設定時に必ず行うこと
  管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れると、パスワード機能が解除できなくなり、修理が必要となります。
  そのため、パスワードを設定したら、次のことを行ってください。
  ・解除する手順が書かれたこのページを印刷しておく
  ・設定したパスワードを忘れないよう、書き留めておく
  また、これらは安全な場所に保管しておいてください。
  管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れてしまった場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元までご連絡ください。なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
- パスワードを忘れるとすべてのデータが消えてしまいます
  ハードディスク用パスワードは、盗難などによる不正な使用を防止することを目的としています。これは強固なセキュリティであるため、もしもパスワードを忘れてしまうと、たとえ修理をしても、パスワードの解除やハードディスク内のプログラムやデータの復元ができず、これらのデータは完全に失われてしまいます。
  パスワードの管理には充分注意してください。

パスワードの種類

このパソコンで設定できるパスワードは次の 3 つです。

- 管理者用パスワード（Supervisor Password）
  このパソコンをご購入になった方などが使用するパスワードです。パスワード機能を使用するときは必ず設定してください。
- ユーザー用パスワード（User Password）
  「管理者」以外でこのパソコンをお使いになる方（ご家族など）が使用するパスワードです。BIOS セットアップで変更可能な項目に制限があります。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。
- ハードディスク用パスワード（HDD Password）
  このパソコンのハードディスクを、他のパソコンでは使用できないようにしたいときに使用するパスワードです。ハードディスクを他のパソコンに取り付けて使用する場合に認証が必要となるため、ハードディスクが盗難にあったときなどに情報漏洩や不正使用を防止します。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。

パスワードを設定する

管理者用パスワード／ユーザー用パスワード、ハードディスク用パスワードを設定する方法を説明します。

■ 管理者用パスワード／ユーザー用パスワードを設定する

1 BIOS セットアップを起動します。

2 「セキュリティ」(「Security」) メニューの「管理者用パスワード設定」(「Set Supervisor Password」) または「ユーザー用パスワード設定」(「Set User Password」) を選択して【Enter】キーを押します。

パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

3 パスワードを入力します。

・入力できる文字種はアルファベットと数字のみです。なお、アルファベットの大文字と小文字は区別されません。
・入力した文字は表示されず、代わりに「■」や「*」が表示されます。
・ユーザー用のパスワードの最低文字数は、「ユーザー用パスワード文字数」で設定することができます（LIFEBOOK NH シリーズ、AH42 シリーズ、LH シリーズ、PH50 シリーズ、MH シリーズを除く）。

4 パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。

パスワードの再入力を求められます。

5 手順３で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。

「セットアップ通知」(「Setup Notice」) と書かれたウィンドウが表示されるか、「変更が保存されました。」(「Changes have been saved.」) というメッセージが表示されます。

6 【Enter】キーを押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」（「Setup Warning」）と書かれたウィンドウか、「パスワードが一致しません。もう一度パスワードを入力して下さい。」（「Passwords do not match. Re-enter password.」）というメッセージが表示されます。【Enter】キーを押して、手順 3 からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

7 「セキュリティ」（「Security」）メニューの「起動時のパスワード」（「Password on Boot」）を「使用しない」（「Disabled」）以外に設定します。

パソコンを起動したときに、BIOS のパスワードを求めるウィンドウが表示される設定になります。

■ ハードディスク用パスワードを設定する

1 BIOS セットアップを起動します。

2 「セキュリティ」(「Security」)メニューの「ハードディスクセキュリティ」▶「ドライブ 0 用パスワード設定(「Set Drive0 HDD Password」)」を選択して【Enter】キーを押します。

パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

3 パスワードを入力します。

入力できる文字種はアルファベットと数字です。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

入力した文字は表示されず、代わりに「■」や「*」が表示されます。

4 パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。

パスワードの再入力を求められます。

5 手順3で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。

「セットアップ通知」(「Setup Notice」)と書かれたウィンドウか、「変更が保存されました。」(「Changes have been saved.」)というメッセージが表示されます。

6 【Enter】キーを押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」(「Setup Warning」)と書かれたウィンドウか、「パスワードが一致しません。もう一度パスワードを入力して下さい。」(「Passwords do not match. Re-enter password.」)というメッセージが表示されます。【Enter】キーを押して、手順 3 からやり直してください。

パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

パスワード機能を使う

パスワードを設定すると、設定状態によって次の場合にパスワードの入力が必要になります。

- パソコンの電源を入れたとき
- パソコンを再起動したとき
- BIOS セットアップを始めるとき
- 休止状態からレジュームするとき

パスワードの入力を求めるウィンドウが表示されたら、パスワードを入力し、【Enter】キーを押してください。

- 設定したパスワードと違うパスワードを入力すると、「パスワードが間違っています。どれかキーを押してください。」(「Invalid Password」)というメッセージが表示されます。その場合は、【Enter】キーを押し、正しいパスワードを入力してください。
- 誤ったパスワードを 3 回入力すると、「システムは使用できません。」(「System Disabled」)というメッセージが表示され、警告音が鳴り続けます。その場合は、パソコン電源ボタンを押してパソコンの電源を切ってから 10 秒ほど待って、もう一度電源を入れます。その後、正しいパスワードを入力してください。

■ パソコンの電源を入れたときなどのパスワード入力

パソコンの電源を入れたときやパソコンを再起動したとき、BIOS セットアップを始めるとき、休止状態からレジュームするときには、パスワードの入力を求めるウィンドウが表示されます。パスワードを入力し、【Enter】キーを押してください。

- BIOS セットアップの「セキュリティ」メニューの「自動ウェイクアップ時」で、パソコンを指定時刻に起動させたり LAN を使って起動させたりする場合に、BIOS のパスワード入力を要求するかどうかを設定することができます(LIFEBOOK NH シリーズ、AH42 シリーズ、LH シリーズ、PH50 シリーズ、MH シリーズを除く)。

■ ハードディスク用のパスワードについて

ハードディスク用のパスワードを設定すると、パソコンを起動するときにパスワードの入力が必要になります。
設定状態によっては、管理者用またはユーザー用パスワードと、ハードディスク用パスワードの入力が必要になります。

Point

- 管理者用またはユーザー用パスワードと、ハードディスク用パスワードが同じ場合は、パスワードの入力は 1 回になります（LIFEBOOK AH42 シリーズ、LH シリーズ、MH シリーズを除く）。

パスワードを変更する／削除する

■ パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するときは、次の操作を行ってください。

1 BIOS セットアップを起動します。

2 「セキュリティ」（「Security」）メニューで変更したいパスワード設定を選択して【Enter】キーを押します。

・管理者用パスワード設定（Set Supervisor Password）
・ユーザー用パスワード設定（Set User Password）
・ハードディスクセキュリティ（Hard Disk Security）▶ ドライブ 0 用パスワード設定（Set Drive0 Password）（LIFEBOOK AH42 シリーズ、LH シリーズ、MH シリーズを除く）
・ドライブ0ハードディスク用パスワード設定(Set Drive0 HDD Password)（LIFEBOOK AH42 シリーズ、LH シリーズ、MH シリーズの場合）

パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

3 設定してあるパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。

新しいパスワードの入力を求められます。

4 新しく設定したいパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。

新しいパスワードの再入力を求められます。

重要

- パスワード設定時に必ず行うこと
  管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れると、パスワード機能が解除できなくなり、修理が必要となります。
  そのため、パスワードを設定したら、次のことを行ってください。
  ・解除する手順が書かれたこのページを印刷しておく
  ・設定したパスワードを忘れないよう、何かに書き留めておく
  また、これらは安全な場所に保管しておいてください。
  管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れてしまった場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元までご連絡ください。なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
- パスワードを忘れるとすべてのデータが失われます
  ハードディスク用パスワードは、盗難などによる不正な使用を防止することを目的としています。これは強固なセキュリティであるため、もしもパスワードを忘れてしまうと、たとえ修理をしても、パスワードの解除や、ハードディスク内のプログラムやデータの復元ができず、これらのデータは完全に失われてしまいます。
  パスワードの管理には充分注意してください。

Point

- eSATA 機器の取り付け／取り外しを行うときは、本製品や接続した eSATA 機器の電源を切った状態で行ってください（eSATA コネクタ搭載機種のみ）。

5 手順４で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。

「変更が保存されました。」（「Change has been saved」）というメッセージが表示されます。

6 【Enter】キーを押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」（「Setup Warning」）と書かれたウィンドウか、「パスワードが一致しません。もう一度パスワードを入力して下さい。」（「Passwords do not match. Re-enter password.」）というメッセージが表示されます。【Enter】キーを押して、手順４からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

Point

- 誤ったパスワードを 3 回入力すると、「システムは使用できません。」（「System Disabled」）というメッセージが表示され、警告音が鳴り続けます。その場合は、電源ボタンを 4 秒以上押してパソコンの電源を切ってから 10 秒ほど待って、もう一度電源を入れます。その後、正しいパスワードを入力してください。

■ パスワードを削除する

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」の手順を最初から行い、手順４～５で何も入力せずに、【Enter】キーを押してください。

Point

- 管理者以外の方がユーザー用パスワードを削除できるのは、「セキュリティ」メニューの「ユーザー用パスワード文字数」が 0 に設定されているときだけです。0 以外に設定されている場合は、パスワード文字数不足のメッセージが表示されます。ユーザー用パスワード文字数の設定については、「セキュリティ」メニューで「ユーザー用パスワード文字数」の項目ヘルプをご覧ください（LIFEBOOK NH シリーズ、AH42 シリーズ、LH シリーズ、PH50 シリーズ、MH シリーズを除く）。

BIOS が表示するメッセージ一覧

パソコンを起動した直後に、画面上にメッセージが表示される場合があります。これらのメッセージは「BIOS セットアップ」という、パソコンの環境を設定するためのプログラムが表示しています。

メッセージが表示されたときは

パソコン本体や周辺機器に問題があると、パソコンを起動したときにエラーメッセージが表示されます。
エラーメッセージが表示された場合は、次の手順に従って処置をしてください。

1. **BIOS セットアップの設定値を確認します。**
   BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップを起動して各項目の値が正しいか確認してください。
   また、BIOS セットアップの設定値をご購入時の設定に戻して再起動してください。
   それでもメッセージが表示される場合は、手順 2 に進んでください。

2. **周辺機器を取り外します。**
   別売の周辺機器の拡張カードやメモリなどを取り付けている場合には、パソコンの電源を切ってからそれらの周辺機器を取り外し、再びパソコンを起動して動作を確認してください。
   それでも同じメッセージが表示される場合には、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

3. **取り外した周辺機器を、1 つずつ取り付けます。**
   取り外した周辺機器を 1 つずつ取り付け、パソコンを再起動して動作を確認してください。
   このとき、各周辺機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

上記のように処置してもまだ同じメッセージが表示される場合や、次の「メッセージ一覧」に当てはまるメッセージがない場合は、パソコン本体が故障している可能性があります。「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。
「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」のご利用については、『取扱説明書』－「サポートのご案内」をご覧ください。

メッセージ一覧

このパソコンが表示するメッセージの一覧は、次のとおりです。メッセージ中の「n」には数字が表示されます。また、メッセージは機種により異なります。

■ 正常時のメッセージ

パソコン本体や周辺機器が正常の場合は、BIOS のメッセージは自動では表示されません。
正常時に BIOS のメッセージを表示させる場合は、パソコンを起動して「FUJITSU」のロゴマークが表示されている間に【Esc】キーを押します。

Point

- 正常時のメッセージを常に表示させるには
  BIOS セットアップの「起動」メニューにある「起動時の自己診断画面」の項目を「使用する」に設定してください。

- **nnnM システムメモリ テスト完了。（nnnM System Memory Passed）**
  システムメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
- **nnnK メモリキャッシュ テスト完了。（nnnK Memory Cache Passed）**
  キャッシュメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
- **マウスが初期化されました。（Mouse initialized）**
  マウス機能が初期化され、フラットポイントが使えるようになったことを示しています。
- **Please Wait...**
  お待ちください ...（Please Wait...）
  BIOS セットアップの起動中に表示されます。

■ エラーメッセージ

このパソコンが表示するメッセージの一覧は、次のとおりです。
このマニュアルに記述されていないエラーメッセージが表示された場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

- **拡張メモリエラー。アドレス行 : nn（Extended Memory Failed at address line: nn）**
  メモリのテスト中にエラーが発見されたことを示しています。
  このメッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。
- **キーボードエラーです。（Keyboard error）**
  キーボードテストで、エラーが発生したことを示しています。
  再起動してもこのメッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。
- **キーボード接続エラーです。（Stuck Key）**
  キーボードテストで、接続エラーが発生したことを示しています。
  テンキーボードや外付けキーボードを接続している場合は、正しく接続されているかを確認し、パソコンを再起動してください。それでもこのメッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。
- **ディスクのエラーです。: ハードディスク n（Failure Fixed Disk n）**
  再起動してもこのメッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。
- **システムタイマーのエラーです。（System timer error）**
  システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。
  再起動してもこのメッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。
- **リアルタイムクロックのエラーです。（Real time clock error）**
  リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。
  再起動してもこのメッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

- **システム CMOS のチェックサムが正しくありません。- 標準設定値が設定されました。(System CMOS checksum bad - Default configuration used)**
  CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、標準設定値が設定されたことを示しています。
  【F2】キーを押して BIOS セットアップを起動し、設定を保存して再起動してください。それでもこのメッセージが表示される場合は、バックアップ用バッテリが消耗して、CMOS RAM に設定内容が保存されていないことが考えられます。「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。
- **前回の起動が正常に完了しませんでした。- 標準設定値が設定されました。**
  前回の起動時に正しく起動されなかったため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。
  起動途中に電源を切ってしまったり、BIOS セットアップで誤った値を設定して起動できなかったり、または 3 回以上同じ操作で起動し直したりしたときに表示されます。そのまま起動する場合は【F1】キーを押してください。BIOS セットアップを起動して設定を確認する場合は【F2】キーを押してください。
- **＜F1＞キーを押すと継続、＜F2＞キーを押すとBIOSセットアップを起動します。(Press <F1> to resume, <F2> to Setup)**
  起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OS を起動する前にこのメッセージが表示されます。【F1】キーを押すと発生しているエラーを無視して OS の起動を開始し、【F2】キーを押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更することができます。
- **日付と時刻の設定を確認してください。(Check date and time settings)**
  日付と時刻の設定値が正しくありません。
  設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。
- **NVRAM データが正しくありません。**
  NVRAM データのテストでエラーが発見されたことを示しています。
  このメッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。
- **サーマルセンサエラー。システムの電源が切れます。(Thermal Sensor Error has occurred)**
  温度制御系の設定が正しく行えなかったことを示しています。再起動してもこのメッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。
- **ファンエラー。システムの電源が切れます。(Fan Error has occurred)**
  冷却用ファンのテストでエラーが発生したことを示しています。再起動してもこのメッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」またはご購入元にご連絡ください。
- **前回の起動中にサーマルセンサエラーが発生しました。**
  前回の起動時の自己診断テスト中に、サーマルセンサエラーが発生していたことを示します。
- **前回の起動中にファンエラーが発生しました。**
  前回の起動時の自己診断テスト中に、ファンエラーが発生していたことを示します。
- **Invalid system disk**
  Replace the disk, and then press any key
  フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
  フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。
- **Non-System disk or disk error**
  Replace and press any key when ready
  フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
  フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。
- **NTLDR is missing**
  Press any key to restart
  フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
  フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。

- **Remove disks or other media.**
  Press any key to restart
  フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
  フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。
- **Operating system not found**
  OS が見つからなかったことを示しています。
  BIOS セットアップの「起動」メニューの設定が正しいか、指定したドライブに OS が正しくインストールされているかを確認してください。

文字コードの取り扱いに関する注意

環境依存文字の取り扱いについて

環境依存文字とは、お使いのソフトウェアや相手のパソコンの環境によって、正しく表示されない可能性のある文字のことです。

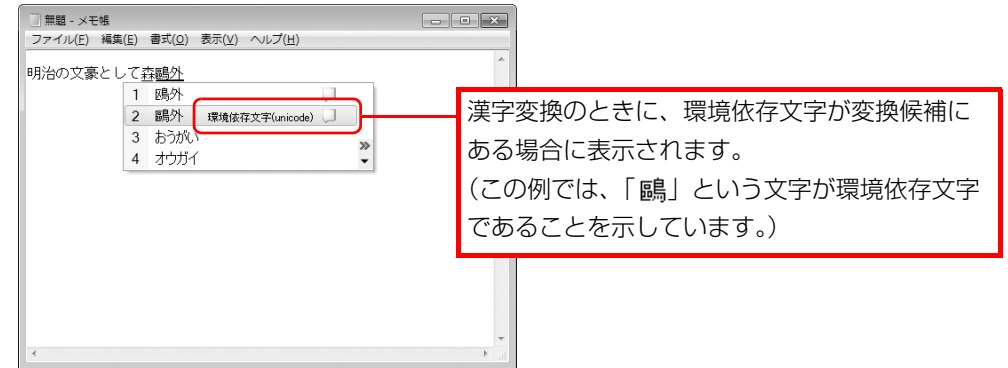
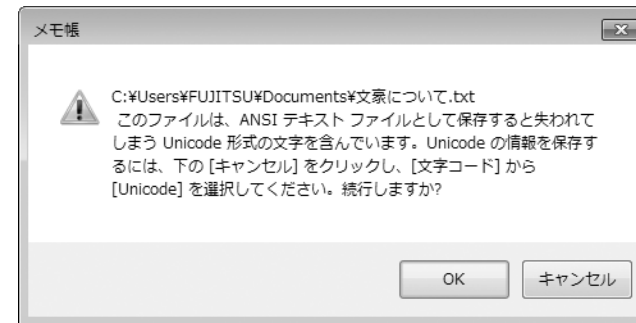
文書データなどを作成するときに環境依存文字を使用すると、E メールやホームページ上で字形が異なったり崩れたりして表示される場合があります。

トラブルを避けるため、環境依存文字はできるだけ使用しないことをお勧めします。環境依存文字を使用すると、次のようなトラブルが起きることがあります。

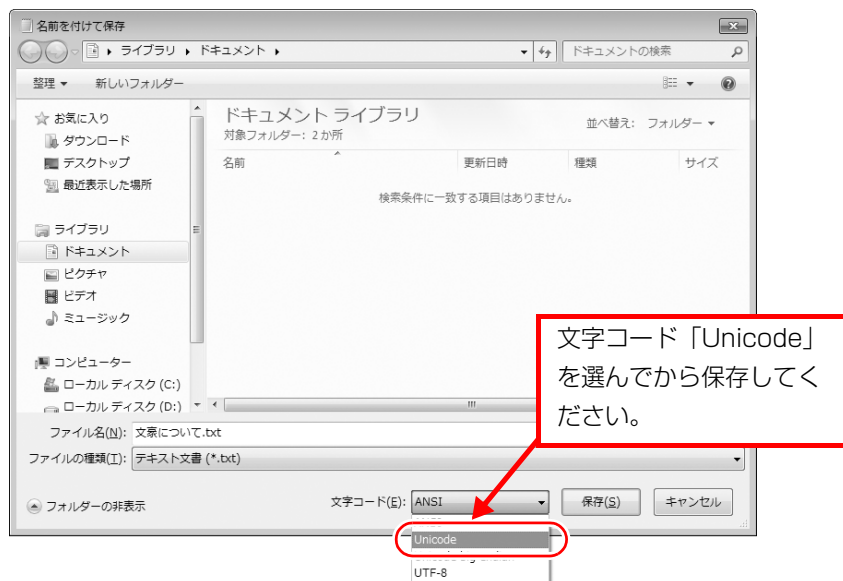
- E メールのやり取りで環境依存文字を使用すると、送信側と受信側で、字形が異なったり崩れたりして表示される場合があります。
- ソフトウェアが環境依存文字に対応していない場合、ソフトウェアが環境依存文字を正しく表示したり認識したりできない場合があります。
- お使いのプリンターによっては、環境依存文字を使用して印刷すると、字形が異なったり崩れたりして印刷される場合があります。
- インターネットのサイトなどで運用側のシステムが環境依存文字に対応していない場合、環境依存文字を入力すると、字形が異なったり崩れたりして表示される場合があります。
  例　ショッピングサイト、検索サイト、ブログ、ホームページ、インターネット掲示板など

Windows 7 では、環境依存文字を取り扱うときに、注意をうながすメッセージが表示されます。

次に表示されるメッセージの例を説明します。

例 1 文字入力中に環境依存文字を示すメッセージ

例 2 環境依存文字を含んだファイルを保存するときに表示されるメッセージ

- 環境依存文字を含んだファイルを保存するときに表示されます。
  「キャンセル」をクリックすると作成中の状態に戻るので、環境依存文字を変更して保存し直すことをお勧めします。

- 文字コードを他の形式にして保存する

  環境依存文字を含んだファイルは、次のように文字コードを Unicode 形式にすることで保存できます。
  ただし、Unicode に対応していない OS やソフトウェアでこのファイルを開くと、文字化けを起こしたり正常に表示されなかったりする場合がありますのでご注意ください。

Windows 7 と Windows XP 以前との文字の互換性

Windows 7 および Windows Vista は、日本工業規格「JIS X 0213:2004」に対応しています。Windows XP 以前の OS は「JIS X 0213:2004」に対応していないため、「JIS X 0213:2004」で新たに追加された文字や字形変更された文字を使用して作った文書データは、字形が異なったり崩れたりして表示される場合があります。また、Windows XP 以前の OS で作られた文書データに、「JIS X 0213:2004」で字形変更された文字が含まれる場合は、異なった字形で表示されます。

□参考：JIS X 0213:2004 改正における字形変更の比較（一例）

改正後字形：Windows 7 および Windows Vista　改正前字形：Windows XP 以前の OS

UCS	改正後字形	改正前字形	UCS	改正後字形	改正前字形	UCS	改正後字形	改正前字形	UCS	改正後字形	改正前字形
5026	倦	倦	5C60	屠	屠	6753	杓	杓	701E	瀞	瀞
50C5	僅	僅	5DF7	巷	巷	6962	楢	楢	7026	瀦	瀦
5132	儲	儲	5E96	庖	庖	698A	榊	榊	7058	灘	灘
51A4	冤	冤	5EDF	廟	廟	6994	榔	榔	707C	灼	灼
537F	卿	卿	5FBD	徽	徽	69CC	槌	槌	7149	煉	煉
53A9	厩	厩	6062	恢	恢	6A0B	樋	樋	714E	煎	煎
53DB	叛	叛	6108	愈	愈	6A3D	樽	樽	717D	煽	煽
54E8	哨	哨	6241	扁	扁	6ADB	櫛	櫛	7259	牙	牙
55A9	喩	喩	6357	捗	捗	6B4E	歎	歎	7337	猷	猷
5632	嘲	嘲	6372	捲	捲	6C72	汲	汲	7511	甑	甑
5642	噂	噂	63C3	揃	揃	6DEB	淫	淫	75BC	疼	疼
564C	噌	噌	647A	摺	摺	6EA2	溢	溢	77A5	瞥	瞥
56C0	囀	囀	64B0	撰	撰	6EBA	溺	溺	7941	祁	祁
5835	堵	堵	64E2	擢	擢	6F23	漣	漣	7947	祇	祇
5C51	屑	屑	6666	晦	晦	7015	瀕	瀕	79B0	禰	禰

UCS: Universal multiple-octet coded Character Set

改正後字形：Windows 7 および Windows Vista　改正前字形：Windows XP 以前の OS

UCS	改正後字形	改正前字形	UCS	改正後字形	改正前字形	UCS	改正後字形	改正前字形	UCS	改正後字形	改正前字形
79E4	秤	秤	84EC	蓬	蓬	8CED	賭	賭	9306	錆	錆
7A7F	穿	穿	8511	蔑	蔑	8FBB	辻	辻	939A	鎚	鎚
7B08	笈	笈	853D	蔽	蔽	8FBF	辿	辿	9453	鑓	鑓
7B75	筵	筵	85A9	薩	薩	8FC2	迂	迂	9784	鞄	鞄
7BAD	箭	箭	85AF	薯	薯	8FC4	迄	迄	9798	鞘	鞘
7BB8	箸	箸	85F7	藷	藷	8FE6	迦	迦	98F4	飴	飴
7BC7	篇	篇	86F8	蛸	蛸	9017	逗	逗	9905	餅	餅
7BDD	篝	篝	8755	蝕	蝕	9019	這	這	990C	餌	餌
7C3E	簾	簾	8956	襖	襖	9022	逢	逢	9957	饗	饗
7C7E	籾	籾	8A1D	訝	訝	903C	逼	逼	9A19	騙	騙
7FEB	翫	翫	8A3B	註	註	9041	遁	遁	9BD6	鯖	鯖
7FF0	翰	翰	8A6E	詮	詮	905C	遜	遜	9C2F	鰯	鰯
817F	腿	腿	8AFA	諺	諺	9061	遡	遡	9C52	鱒	鱒
82A6	芦	芦	8B0E	謎	謎	912D	鄭	鄭	9D09	鴉	鴉
8328	茨	茨	8B2C	謬	謬	914B	酋	酋	9D60	鵠	鵠
845B	葛	葛	8C79	豹	豹						